

令和３年度
卒業生・修了生・事業所へのアンケート調査
報告書

三重大学高等教育デザイン・推進機構
高等教育開発デザイン・IRセンター

第 I 部

卒業生・修了生

目次

第 1 章 調査の概要と分析対象者の属性について.....	1
第 2 章 三重大大学の教育に対する満足度.....	4
第 3 章 三重大大学の教育・研究で成長したこと	18
第 4 章 社会生活の場で重要だと思う力.....	27
第 5 章 大学／大学院生活で重点を置いたこと	35
第 6 章 三重大大学との関わり方	53
第 7 章 三重大大学で学びたいこと	67

第 1 章 調査の概要と分析対象者の属性について

1.1 調査の概要

1.1.1 調査の目的

三重大学が提供している教養教育・専門教育が、社会のニーズに相応しているかを検討し、三重大学の教育の改善に活用する目的で、「三重大学卒業生」（本調査では、「卒業生」という）及び「三重大学大学院修了生」（本調査では、「修了生」という）を対象に、教育満足度や自己評価、大学／大学院生活で重点を置いたこと、後輩に重点を置いたほうがいいと伝えたいこと、大学／大学院の関係者との関わり方、今後関わることが予想される者、今後三重大学で学ぶ機会があるとしたら学びたいことに関するアンケート調査を実施した。

1.1.2 調査の設計

- (1) 調査対象 令和 2 年度三重大学卒業生及び修了生
- (2) 調査時期 令和 3 年 12 月から令和 4 年 2 月まで
- (3) 調査方法 郵送調査

卒業生／修了生が在学中に届け出ていた保証人の住所宛てに、依頼文と調査用紙、返信用封筒を同封した封書を郵送した。回答後は調査用紙を返信用封筒に入れ、三重大学に返送するよう依頼した。

- (4) 回収数（率）

表 1-1 卒業生及び修了生の回収率

	卒業生	修了生
発送数	1,370	460
回収数	242	92
回収率(%)	17.7%	20.0%

1.1.3 調査の内容

調査した項目内容を以下に示す。実施した調査用紙は、資料として、本報告書の末尾に付録として添付した。なお、「役立つと思う三重大学の授業」は、授業が特定されるため、本報告書では割愛した。

表 1-2 調査内容（卒業生及び修了生）

該当する章	項目内容	項目数	詳細
第1章	基本事項	3項目	学部・学科・課程／研究科・専攻、現在の職種、現在の居住地
第2章	本学の教育に対する満足度	卒業生:16項目 修了生:12項目	本学の教育に対する満足度をたずねた。
		6段階評定	選択肢は「非常に不満」、「不満」、「やや不満」、「やや満足」、「満足」、「非常に満足」の6つである。
第3章	本学の教育（・研究）で身についた4つの力	12項目（卒業生・修了生共通項目）	本学の教育によって、どのような4つの力が身についたと思うかをたずねた。
		5段階評定	身についたと思う程度を表す「身につかなかった」から「十分身についた」の4段階の中から、あてはまるものをひとつ選択。
第4章	社会生活の場で重要な4つの力について	12個の選択肢の中から自由選択	卒業後の社会生活の場で、重要だと思う4つの力についてたずねた。
—	役立ったと思う本学の授業	自由記述 2項目	卒業後、自分に役立ったと思う授業やどのような点が役立ったかについてたずねた。
第5章	大学／大学院生活で重点を置いたこと	卒業生:20個の選択肢の中から自由選択 修了生:17個の選択肢の中から自由選択	大学／大学院生活の中で、重点を置いたことについてたずねた。
	後輩に重点を置いたほうがよいと伝えたいこと	卒業生:20個の選択肢の中から自由選択 修了生:17個の選択肢の中から自由選択	大学生活を始める後輩にアドバイスをすると仮定し、重点を置いたほうがよいと伝えたいことについてたずねた。
第6章	大学／大学院の関係者との関わり方	4つの選択肢の中から1つ選択	卒業後に、本学や本学の関係者とのように関わっていきたいかについてたずねた。
	大学／大学院の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者	7つの選択肢の中から自由選択	各本学の関係者や出身者の中で、今後関わることが予想される者についてたずねた。
第7章	本学で学びたいこと	8つの選択肢の中から自由選択	今後本学で学ぶ機会があるとしたら、学びたい内容
第8章	意見と感想	自由記述	本学の教育についての意見と感想をたずねた。
	新入生へのアドバイスやメッセージ	自由記述	新入生へのアドバイスやメッセージをたずねた。

1.2 分析対象者の属性

1.2.1 在学中の所属学部／研究科

在学中に所属していた学部／研究科ごとに分析対象者数を集計した。集計・分析について、学部ごとの特徴を明らかにするため、全卒業生の結果だけではなく、学部別の結果を掲載した。修了生は回答数が少ない研究科があるため、研究科別の掲載をしないこととした。

表 1-3 分析対象者数（卒業生）

人文学部	教育学部	医学部	工学部	学生物資源部	無回答	合計
49	43	39	49	60	2	242

表 1-4 分析対象者数（修了生）

人文社会科学部	教育学研究科	医学系研究科	工学研究科	生物資源科学部	地域イノベーション科学研究科	無回答	合計
0	9	11	44	20	3	5	92

1.2.2 現在の職種

分析対象者の現在の職種を集計した。

表 1-5 分析対象者の現在の職種

	公務員	教職員	団体職員	一般企業	医療関係	自営業	大学院在学中	アルバイト	無職	その他	無回答	合計
卒業生	49	28	1	71	31	1	49	2	3	4	3	242
修了生	7	10	0	57	10	0	4	1	0	1	2	92

1.2.3 居住地

分析対象者の現在の居住地を集計した。

表 1-6 分析対象者の居住地

	三重県	三重県外	無回答	合計
卒業生	121	112	9	242
修了生	35	55	2	92

第2章 三重大学の教育に対する満足度

2.1 三重大学の教育に対する満足度（卒業生）

三重大学の教育（16項目）について、満足している程度を「非常に不満」から「非常に満足」までの6段階で回答を求めた。以下に、全卒業生（242名）と卒業学部ごとの平均値と標準偏差、満足群を示した。平均値と標準偏差は、満足の度合いを表す6段階評価において、「非常に不満」1点、「不満」2点、「やや不満」3点、「やや満足」4点、「満足」5点、「非常に満足」6点として算出した。満足群は、満足度の6段階のうち、「やや満足」、「満足」、「非常に満足」のいずれかに回答した卒業生の割合とした。なお、経験した卒業生のみ回答する項目として設定した「15 理系基礎関係授業」に関しては、学部によって回答者が非常に少なかった。そのため、一般化が難しい場合があることに留意する必要がある。

2.1.1 三重大学の教育に対する満足度（全卒業生）

卒業生からの全回答（242名）の平均値と標準偏差、満足群を算出した。その結果、平均値では、すべての項目において「やや満足」に該当する4.0以上が示され、三重大学の教育に対して、総じて満足が得られていることが分かった。中でも4.50以上を示した項目は、高い順に「16 卒業研究指導」、「12 学部専門の授業」、「15 理系基礎関係授業」、「1 教育全般」、「4 学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)」であった。また、満足群では、項目によって94.2%から76.9%までがあり、ばらつきが大きいことが分かった。中でも90%以上を示した項目は、高い順に「1 教育全般」、「12 専門の授業全般」、「15 理系基礎関係授業」、「10 教養教育の保健体育関連授業」、「11 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業」であった。一方、課題も見出された。まず、「9 教養教育のキャリア系授業」、「14 現場実習や現場体験(インターンシップなど)」といった、キャリア系の授業に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。各々の平均値は4.12、4.24、満足群は79.3%、76.9%を示した。これらの項目の標準偏差は各々0.89、1.01であった。こうした結果は、両項目に対する満足度が比較的低いうえ、満足した卒業生と満足しなかった卒業生の間のばらつきが大きいことを意味する。また、「8 教養教育の情報系授業」に関しても、改善の必要性が示唆された。全項目の中で最も低平均値であった4.04を示し、同項目の満足群は比較的少ない80.2%を示した。しかし一方で、標準偏差は比較的良好な0.86を示した。但し、教養教育の情報系授業は、令和5年度からデータサイエンスに変わり、カリキュラムが大幅変更される予定となっており、すでに改善に向けて動いている可能性がある。

表 2-1 全卒業生（242 名）の三重大大学の教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)	
1	教育全般	4.53	0.71	94.2	
2	研究環境(文献、機器・研究水準など)	4.44	0.82	88.8	
3	進路支援(就職や進学、資格取得など)	4.37	0.93	86.4	
4	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.52	0.91	87.2	
5	学生生活に対するサポート	4.26	0.82	86.4	
6	教養教育の授業全般	4.37	0.75	91.7	
7	教養教育の語学系授業	4.26	0.87	84.3	
8	教養教育の情報系授業	4.04	0.86	80.2	
9	教養教育のキャリア系授業	4.12	0.89	79.3	
10	教養教育の保健体育関連授業	4.38	0.83	88.8	
11	教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	4.36	0.77	90.5	
12	学部専門の授業	4.60	0.83	92.6	
13	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.21	0.83	85.1	
14	現場実習や現場体験(インターンシップなど)	4.24	1.01	76.9	
※経験した人のみの回答				回答者数 (人)	
15	理系基礎関係授業	4.60	0.84	92.1	114
16	卒業研究指導	4.81	1.01	91.5	199

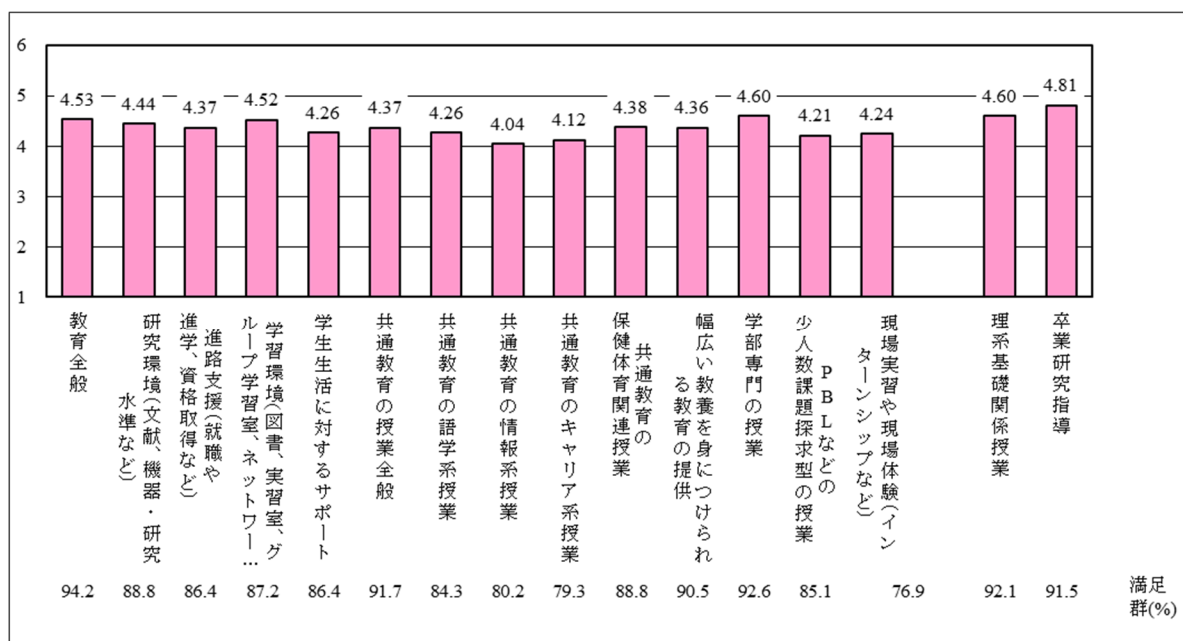


図 2-1 全卒業生（242 名）の三重大大学の教育に対する満足度平均値

2.1.2 三重大大学の教育に対する満足度（人文学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、人文学部卒業生（49 名）の平均値と標準偏差、満足群を算出した。その結果、平均値では、ほとんどの項目において「やや満足」に該当する 4.0 以上が示され、人文学部の教育に対して、総じて満足が得られていることが分かった。中でも 4.50 以上を示した項目は、高い順に「16 卒業研究指導」、「4 学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)」、「12 学部専門の授業」、「1 教育全般」であった。また、満足群では、項目によって 94.6%から 63.3%までがあり、ばらつきが大きいことが分かった。中でも 90%以上を示した項目は、高い順に「16 卒業研究指導」、「12 専門の授業全般」、「1 教育全般」、「2 研究環境（文献、機器・研究水準など）」、「6 教養教育の授業全般」であった（うち、1、2、6 は 91.8%で同じ）。一方、課題も見出された。「8 教養教育の情報系授業」、「14 現場実習や現場体験（インターンシップなど）」に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。各々の平均値は 4.02、3.89、満足群は 71.4%、63.3%を示した。これらの項目の標準偏差は 1.03、1.01 であった。これらの項目の中でも「14 現場実習や現場体験（インターンシップなど）」は、平均値が「やや満足」に該当する 4.0 にも至っておらず、満足群も比較的低いうえ、満足した卒業生と満足しなかった卒業生の間のばらつきが大きいことから、改善が必要とされる可能性が見出された。

表 2-2 人文学部卒業生（49 名）の三重大大学教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)
1	教育全般	4.55	0.71	91.8
2	研究環境(文献、機器・研究水準など)	4.37	0.67	91.8
3	進路支援(就職や進学、資格取得など)	4.29	0.96	85.7
4	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.63	0.83	89.8
5	学生生活に対するサポート	4.16	0.80	83.7
6	教養教育の授業全般	4.35	0.86	91.8
7	教養教育の語学系授業	4.24	0.95	81.6
8	教養教育の情報系授業	4.02	1.03	71.4
9	教養教育のキャリア系授業	4.37	0.86	87.8
10	教養教育の保健体育関連授業	4.33	0.85	89.8
11	教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	4.41	0.86	89.8
12	学部専門の授業	4.59	0.89	93.9
13	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.22	0.96	83.7
14	現場実習や現場体験(インターンシップなど)	3.89	1.01	63.3
※経験した人のみの回答				回答者数 (人)
15	理系基礎関係授業			
16	卒業研究指導	4.95	1.08	94.6
				37

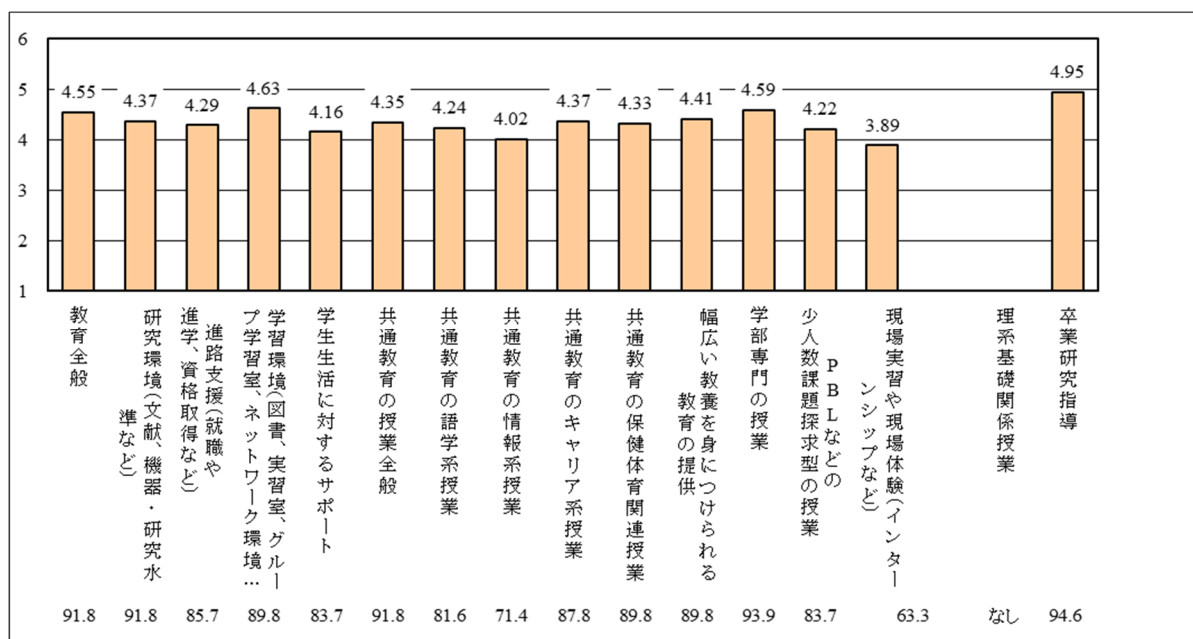


図 2-2 人文学部卒業生（49 名）の三重大の教育に対する満足度平均値

2.1.3 三重大大学の教育に対する満足度（教育学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、教育学部卒業生（43 名）の平均値と標準偏差、満足群を算出した。その結果、平均値では、すべての項目において「やや満足」に該当する 4.0 以上が示され、教育学部の教育に対して、総じて満足が得られていることが分かった。中でも 4.50 以上を示した項目は、高い順に「16 卒業研究指導」、「15 理系基礎関係授業」、「12 学部専門の授業」、「1 教育全般」、「3 進路支援（就職や進学、資格取得など）」、「14 現場実習や現場体験（インターンシップなど）」であった。また、満足群では、項目によって 97.7%から 83.7%までがあり、ばらつきが比較的小さいことが分かった。中でも 90%以上を示した項目は、高い順に「1 教育全般」、「16 卒業研究指導」、「3 進路支援（就職や進学、資格取得など）」、「7 教養教育の語学系授業」、「10 教養教育の保健体育関連授業」、「11 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業」、「12 学部専門の授業」、「6 教養教育の授業全般」、「13 PBL などの少人数課題探求型の授業」、「14 現場実習や現場体験（インターンシップなど）」であった（うち、3、7、10、11、12 は 95.3%、6、13 は 93.0%で同じ）。一方、課題も見出された。「8. 教養教育の情報系授業」、「9 教養教育のキャリア系授業」に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。各々の平均値は 4.16 で同じく、満足群は 88.4%、86.0%を示した。これらの項目の標準偏差は 0.65、0.75 であった。しかしながら、これらの結果はほかの項目の結果に比べて低いだけであって、数値そのものは比較的良好であったといえる。

表 2-3 教育学部卒業生（43 名）の三重大大学の教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)	
1	教育全般	4.67	0.61	97.7	
2	研究環境(文献、機器・研究水準など)	4.49	0.88	86.0	
3	進路支援(就職や進学、資格取得など)	4.65	0.84	95.3	
4	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.42	1.01	86.0	
5	学生生活に対するサポート	4.30	1.01	83.7	
6	教養教育の授業全般	4.37	0.69	93.0	
7	教養教育の語学系授業	4.37	0.58	95.3	
8	教養教育の情報系授業	4.16	0.65	88.4	
9	教養教育のキャリア系授業	4.16	0.75	86.0	
10	教養教育の保健体育関連授業	4.42	0.70	95.3	
11	教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	4.30	0.60	95.3	
12	学部専門の授業	4.84	0.75	95.3	
13	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.37	0.76	93.0	
14	現場実習や現場体験(インターンシップなど)	4.63	0.98	90.7	
※経験した人のみの回答					回答者数 (人)
15	理系基礎関係授業	4.86	1.07	85.7	7
16	卒業研究指導	5	0.70	97.1	34

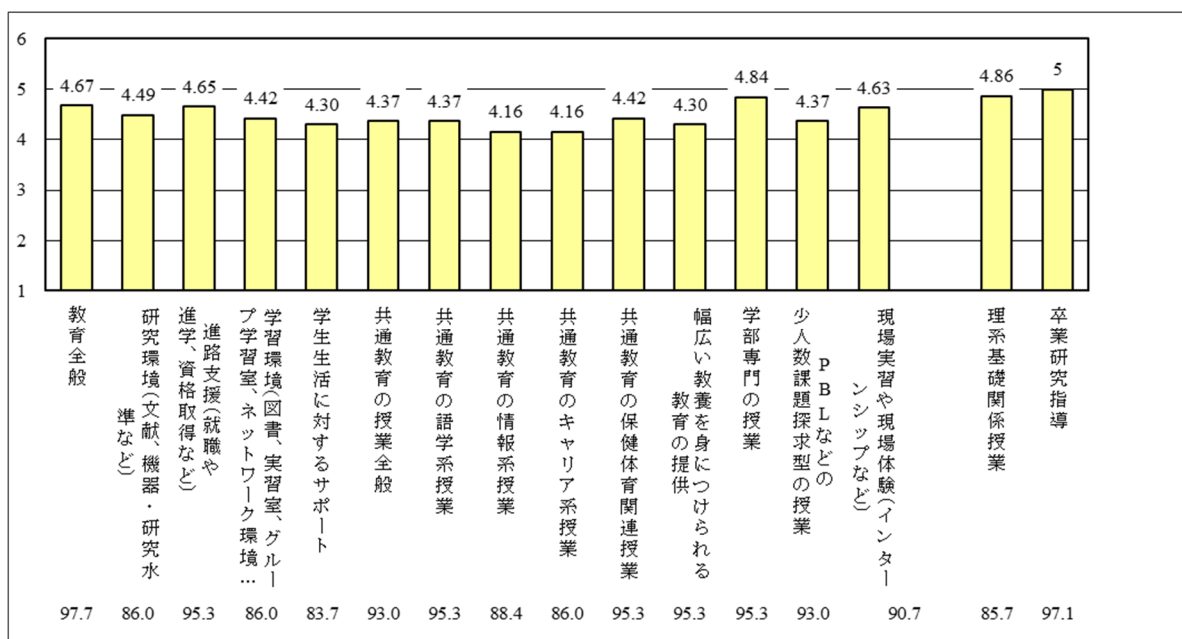


図 2-3 教育学部卒業生（43 名）の三重大の教育に対する満足度平均値

2.1.4 三重大大学の教育に対する満足度（医学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、医学部卒業生（39名）の平均値と標準偏差、満足群を算出した。その結果、平均値では、ほとんどの項目において「やや満足」に該当する4.0以上が示され、医学部の教育に対して、総じて満足が得られていることが分かった。中でも4.50以上を示した項目は、「16 卒業研究指導」であった。「学部専門の授業」の平均値は4.50に若干至らない4.46を示し、医学部の「学部専門の授業」が充実に行われていたことが分かった。また、満足群では、項目によって95.5%から76.9%までがあり、ばらつきが比較的大きいことが分かった。中でも90%以上を示した項目は、高い順に「16 卒業研究指導」、「6 教養教育の授業全般」、「1 教育全般」、「10 教養教育の保健体育関連授業」、「12 専門の授業全般」であった（うち、1、10、12は92.3%で同じ）。一方、課題も見出された。「9 教養教育のキャリア系授業」、「3 進路支援（就職や進学、資格取得など）」に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。各々の平均値は3.95、4.13、満足群は76.9%、79.5%を示した。これらの項目の標準偏差は0.69、0.80であった。こうした結果は、多くの卒業生が「やや満足」と「やや不満」に集中した中で、「やや不満」よりの卒業生がより多かったことを意味する。他にも「15 理系基礎関係授業」が、平均値3.83、満足群83.3%、標準偏差0.41を示し、満足度が比較的低いことが明らかになったが、回答者数がわずか6人しかいないことを考慮に入れる必要がある。つまり、医学部全体の課題とは言えないが、「基礎関係授業」が必要だった卒業生に対して十分満足できる授業が提供されなかった可能性がある。

表 2-4 医学部卒業生（39 名）の三重大大学の教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)	
1	教育全般	4.31	0.61	92.3	
2	研究環境(文献、機器・研究水準など)	4.10	0.75	84.6	
3	進路支援(就職や進学、資格取得など)	4.13	0.80	79.5	
4	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.38	0.91	84.6	
5	学生生活に対するサポート	4.05	0.72	87.2	
6	教養教育の授業全般	4.28	0.56	94.9	
7	教養教育の語学系授業	4.23	0.81	84.6	
8	教養教育の情報系授業	4.05	0.51	89.7	
9	教養教育のキャリア系授業	3.95	0.69	76.9	
10	教養教育の保健体育関連授業	4.36	0.78	92.3	
11	教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	4.13	0.57	89.7	
12	学部専門の授業	4.46	0.68	92.3	
13	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.18	0.79	84.6	
14	現場実習や現場体験(インターンシップなど)	4.31	0.89	82.1	
※経験した人へのみの回答					回答者数 (人)
15	理系基礎関係授業	3.83	0.41	83.3	6
16	卒業研究指導	4.55	0.74	95.5	22

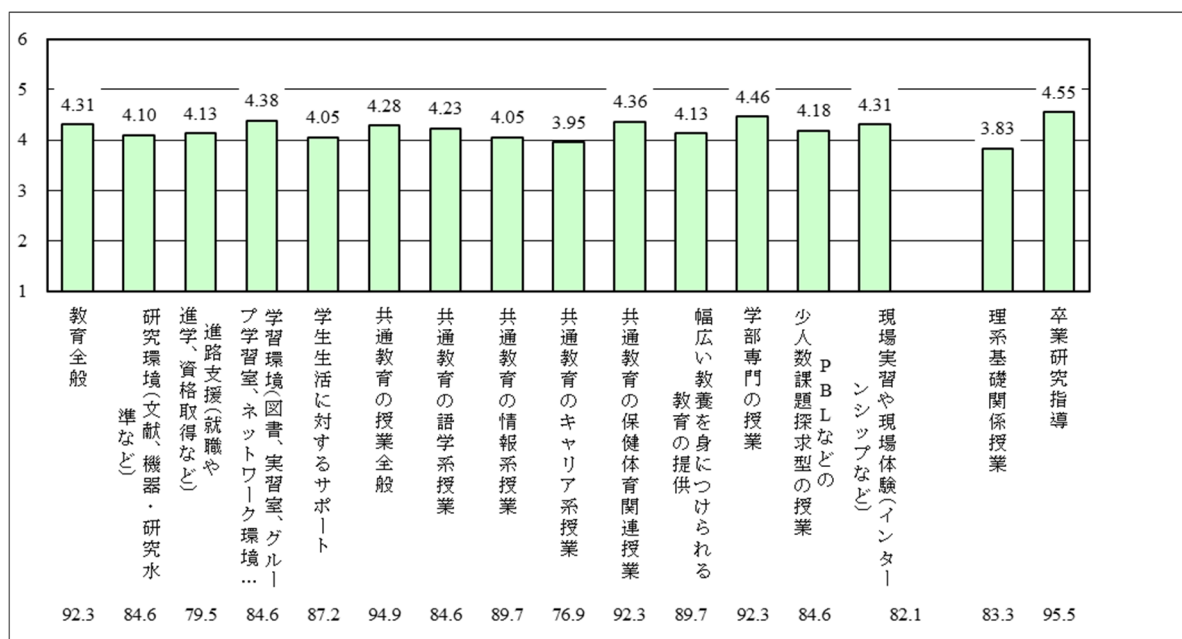


図 2-4 医学部卒業生（39 名）の三重大大学の教育に対する満足度平均値

2.1.5 三重大大学の教育に対する満足度（工学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、工学部卒業生（49名）の平均値と標準偏差、満足群を算出した。その結果、平均値では、すべての項目において「やや満足」に該当する4.0以上が示され、工学部の教育に対して、総じて満足が得られていることが分かった。中でも4.50以上を示した項目は、高い順に「16 卒業研究指導」、「4 学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)」、「15 理系基礎関係授業」であった。また、満足群では、項目によって95.5%から81.6%までがあり、ばらつきが比較的少ないことが分かった。中でも90%以上を示した項目は、高い順に「1 教育全般」、「6 教養教育の授業全般」、「15 理系基礎関係授業」であった。一方、課題も見出された。「9 教養教育のキャリア系授業」、「14 現場実習や現場体験（インターンシップなど）」に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。各々の平均値は、4.12、4.06、満足群は79.6%、71.4%を示した。これらの項目の標準偏差は0.86、0.97であった。こうした結果は、多くの卒業生が「やや満足」と「やや不満」に集中している中で、「やや不満」がより多かったことを意味する。つまり、非常に満足した卒業生が少なければ、むしろ若干不満を覚えた学生が多かったということであった。

表 2-5 工学部卒業生（49名）の三重大大学の教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)	
1	教育全般	4.47	0.62	95.9	
2	研究環境(文献、機器・研究水準など)	4.45	0.89	85.7	
3	進路支援(就職や進学、資格取得など)	4.31	0.90	83.7	
4	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.57	1.06	81.6	
5	学生生活に対するサポート	4.20	0.74	83.7	
6	教養教育の授業全般	4.41	0.67	93.9	
7	教養教育の語学系授業	4.20	1.02	81.6	
8	教養教育の情報系授業	4.00	0.79	81.6	
9	教養教育のキャリア系授業	4.12	0.86	79.6	
10	教養教育の保健体育関連授業	4.37	0.81	85.7	
11	教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	4.37	0.86	87.8	
12	学部専門の授業	4.47	0.74	87.8	
13	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.08	0.79	83.7	
14	現場実習や現場体験(インターンシップなど)	4.06	0.97	71.4	
※経験した人のみの回答					回答者数 (人)
15	理系基礎関係授業	4.54	0.86	93.5	46
16	卒業研究指導	4.81	1.06	89.4	47

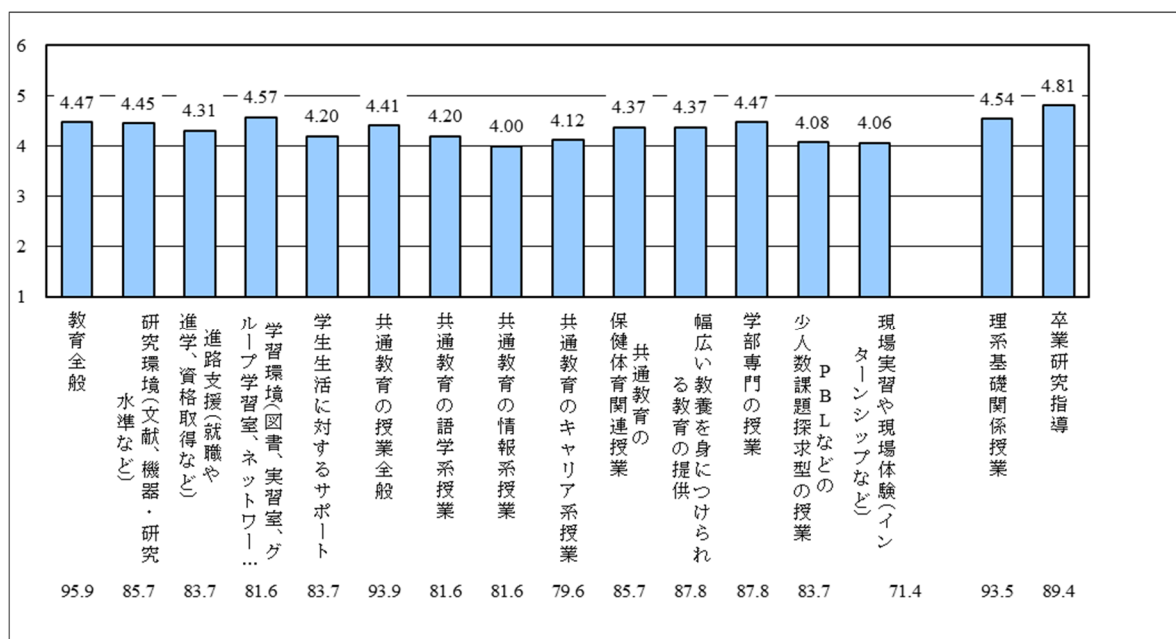


図 2-5 工学部卒業生（49 名）の三重大の教育に対する満足度平均値

2.1.6 三重大大学の教育に対する満足度（生物資源学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、生物資源学部卒業生（60 名）の平均値と標準偏差、満足群を算出した。その結果、平均値では、ほとんどの項目において「やや満足」に該当する 4.0 以上が示された。唯一 40 に至らなかった「9 教養教育のキャリア系授業」の平均値が、40 に匹敵する 3.98 であったことを鑑みると、生物資源学部の教育が総じて満足を得られたと言える。中でも 4.50 以上を示した項目は、高い順に「16 卒業研究指導」、「15 理系基礎関係授業」、「2 研究環境（文献、機器・研究水準など）」、「12 学部専門の授業」、「1 教育全般」、「4 学習環境（図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など）」、「11 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業」、「5 学生生活に対するサポート」であった。また、満足群では、項目によって 93.3%から 80.6%までがあり、ばらつきが比較的少ないことが分かった。中でも 90%以上を示した項目は、高い順に「2 研究環境（文献、機器・研究水準など）」、「12 学部専門の授業」、「1 教育全般」、「15 理系基礎関係授業」、「4 学習環境（図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など）」、「5 学生生活に対するサポート」、「11 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業」であった。一方、課題も見出された。「8 教養教育の情報系授業」、「9 教養教育のキャリア系授業」に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。各々の平均値は、4.00、3.98、満足群は 73.3%、70.0%を示した。これらの項目の標準偏差は 1.07、1.09 であった。こうした結果は、多くの卒業生の満足度がやや低いうえ、満足した卒業生と満足しなかった卒業生との間のばらつきがかなり大きいことを意味する。

表 2-6 生物資源学部卒業生（60 名）の三重大大学の教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)	
1	教育全般	4.60	0.89	93.3	
2	研究環境(文献、機器・研究水準など)	4.68	0.81	93.3	
3	進路支援(就職や進学、資格取得など)	4.45	1.03	88.3	
4	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.53	0.77	91.7	
5	学生生活に対するサポート	4.50	0.79	91.7	
6	教養教育の授業全般	4.42	0.89	86.7	
7	教養教育の語学系授業	4.25	0.91	80.0	
8	教養教育の情報系授業	4.00	1.07	73.3	
9	教養教育のキャリア系授業	3.98	1.09	70.0	
10	教養教育の保健体育関連授業	4.42	0.94	83.3	
11	教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	4.51	0.82	90.0	
12	学部専門の授業	4.62	0.96	93.3	
13	PBLなどの少人数課題探求型の授業	4.22	0.85	81.7	
14	現場実習や現場体験(インターンシップなど)	4.33	1.05	80.0	
※経験した人のみの回答					回答者数 (人)
15	理系基礎関係授業	4.69	0.79	92.7	55
16	卒業研究指導	4.73	1.16	86.4	59

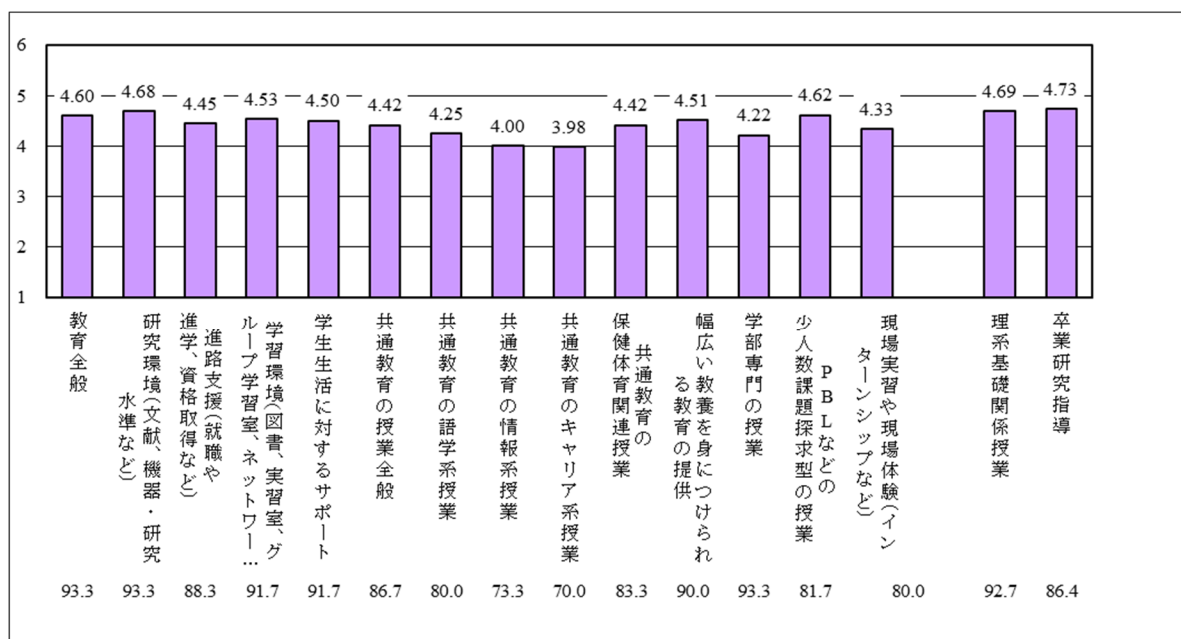


図 2-6 生物資源学部卒業生（60 名）の三重大の教育に対する満足度平均値

2.2 三重大学大学院の教育に対する満足度（修了生）

三重大学大学院の教育（12項目）について、満足している程度を「非常に不満」から「非常に満足」までの6段階で回答を求めた。以下に、全修了生（92名）からの全回答の平均値と標準偏差、満足群を示す。平均値と標準偏差は、満足の度合いを表す6段階評定において、「非常に不満」1点、「不満」2点、「やや不満」3点、「やや満足」4点、「満足」5点、「非常に満足」6点として算出した。満足群は、満足度の6段階のうち、「やや満足」、「満足」、「非常に満足」のいずれかに回答した卒業生の割合とした。

その結果、平均値では、ほとんどの項目において「やや満足」に該当する4.0以上が示され、三重大学の教育に対して、総じて満足が得られていることが分かった。中でも4.50以上を示した項目は、高い順に「9 学位論文指導」、「8 日常的な研究指導」、「6 最先端の研究や高度専門知識の教授」、「1 教育全般」、「2 研究環境（文献、機器、研究水準など）」であった。また、満足群では、項目によって90.2%から66.3%までがあり、ばらつきが大きいことが分かった。中でも90%以上を示した項目は、「9 学位論文指導」であった。ほかに、「1 教育全般」の満足群は90%に若干至らない89.1%を示し、三重大学大学院の「9 学位論文指導」が充実に行われていたことが分かった。一方、課題も見出された。まず、「11 学習環境（図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など）」、「12 学生生活に対するサポート」といった、大学生活に関する項目に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。各々の平均値は4.13、3.95、満足群は各々75.0%を示した。これらの項目の標準偏差は各々1.38、1.34であった。こうした結果は、両項目に対する満足度が比較的低いうえ、満足した卒業生と満足しなかった卒業生の間のばらつきが大きいことを意味する。また、「10 進路支援（就職や進学、資格取得など）」、「7 現場実習やインターンシップなど」といった、キャリア系の授業に関して、改善の必要性が示唆された。平均値であった4.02、3.62を、満足群は71.7%、66.3%、標準偏差は1.53（両同）を示した。最後に、「5 PBLなどの少人数課題探求型の授業」といった、授業に関する項目に関して同項目の平均値は3.92、満足群は70.7%、標準偏差は1.34だった。課題として示した各項目の中でも、とりわけ「7 現場実習やインターンシップなど」と「5 PBLなどの少人数課題探求型の授業」に関しては、平均値及び満足群が比較的低いうえ、標準偏差は比較的大きかった。このことは、満足度が低いうえ、満足した修了生と満足しなかった修了生の間のばらつきも大きいことを意味する。

表 2-7 全修了生（92名）の三重大学大学院の教育に対する満足度

No.	項目	平均値	標準偏差	満足群(%)
1	教育全般	4.51	1.03	89.1
2	研究環境(文献、機器、研究水準など)	4.50	0.94	84.8
3	大学院の授業科目構成	4.34	1.04	82.6
4	大学院の授業	4.32	0.94	83.7
5	PBLなどの少人数課題探求型の授業	3.92	1.34	70.7
6	最先端の研究や高度専門知識の教授	4.53	1.17	85.9
7	現場実習やインターンシップなど	3.62	1.53	66.3
8	日常的な研究指導	4.72	1.24	87.0
9	学位論文指導	4.86	1.17	90.2
10	進路支援(就職や進学、資格取得など)	4.02	1.53	71.7
11	学習環境(図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など)	4.13	1.38	75.0
12	学生生活に対するサポート	3.95	1.34	75.0

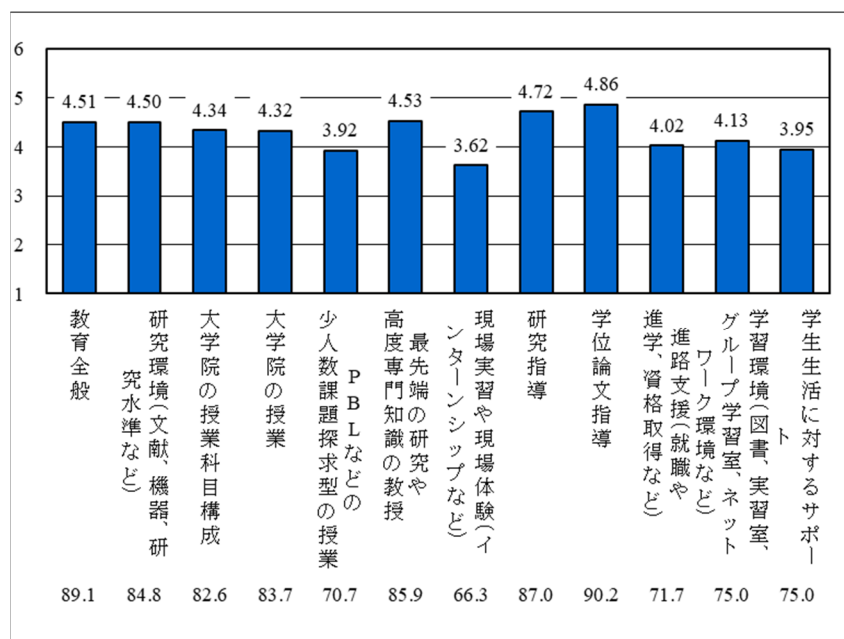


図 2-7 全修了生（92 名）の三重大学大学院の教育に対する満足度平均値

第3章 三重大大学の教育・研究で成長したこと

3.1 三重大大学の教育で成長したこと（卒業生）

三重大大学の教育によって力が身についた程度を、「かなり成長した」、「ある程度成長した」、「少し成長した」、「わずかながら成長した」、「成長しなかった」の5段階で回答を求めた（12項目）。以下に、全卒業生（242名）と卒業学部ごとの平均値、修得群、標準偏差を示す。平均値と標準偏差は、身についたと感じる度合いを表す5段階評定において「かなり成長した」を5点、「ある程度成長した」を4点、「少し成長した」を3点、「わずかながら成長した」を2点、「成長しなかった」を1点として算出した。修得群は、5段階のうち「かなり成長した」、「ある程度成長した」、「少し成長した」、「わずかながら成長した」のいずれかに回答した卒業生の割合とした。

3.1.1 三重大大学の教育で成長したこと（全卒業生）

卒業生からの全回答（242名）について、12項目の平均値、修得群、標準偏差を算出した。その結果、平均値では、ほとんどの項目において「少し成長した」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。中でも3.50以上を示した項目は、高い順に「4 幅広い教養『考える力』」、「5 専門知識・技術『考える力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」といった、「考える力」に関する項目であった。また、修得群では、項目によって89.7%から63.2%までがあり、ばらつきが大きいことが分かった。中でも85%以上を示した項目は、高い順に「5 専門知識・技術『考える力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」、「4 幅広い教養『考える力』」、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」であった。一方、課題も見出された。「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」、「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」など、「コミュニケーション力」に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。各々の平均値は3.17、2.70、修得群は63.2%、78.1%を示した。標準偏差は1.03、1.08であった。こうした結果は、修得率が低いうえ、修得した卒業生と修得しなかった卒業生との間のばらつきがかなり大きいことを意味する。

表 3-1 全卒業生（242名）の三重大大学の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.31	0.94	81.8%
2 共感「感じる力」	3.37	0.95	83.1%
3 主体性「感じる力」	3.35	1.00	81.8%
4 幅広い教養「考える力」	3.52	0.93	88.0%
5 専門知識・技術「考える力」	3.72	0.94	89.7%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.55	0.89	88.8%
7 表現力（発表・討論・対話）「コミュニケーション力」	3.43	0.99	84.3%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.17	1.03	78.1%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	2.70	1.08	63.2%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.29	0.95	82.2%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.27	1.02	81.0%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.38	0.99	83.9%

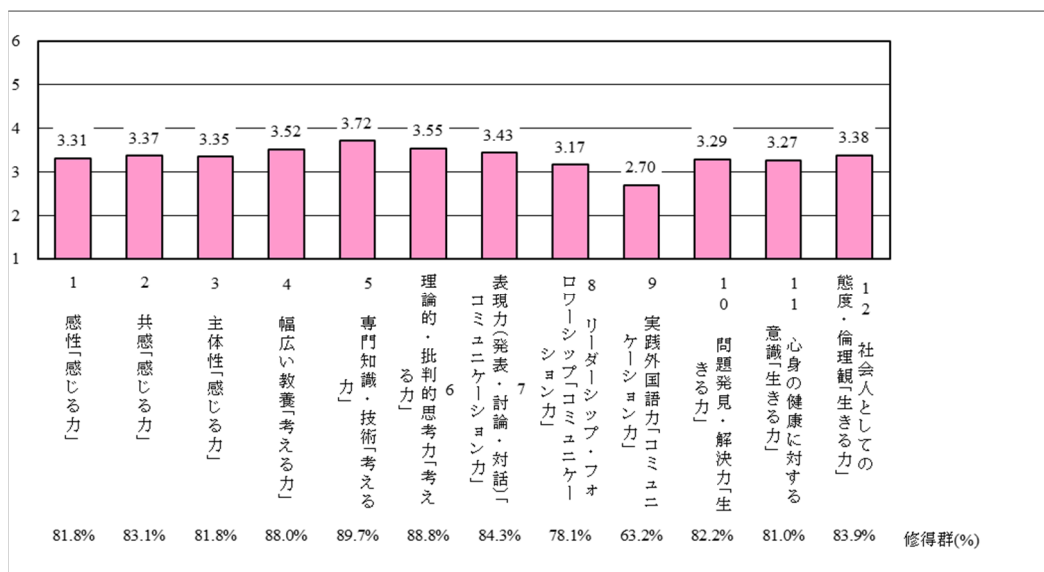


図 3-1 全卒業生（242 名）の三重大の教育を通して身についた
4 つの力の平均値及び修得率

3.1.2 三重大の教育で成長したこと（人文学部卒業生）

人文学部卒業生からの全回答（49名）について、12項目の平均値、修得群、標準偏差を算出した。その結果、平均値では、ほとんどの項目において「少し成長した」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。中でも3.50以上を示した項目は、高い順に「5 専門知識・技術『考える力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」など、「考える力」に関する項目であった。また、修得群では、項目によって89.8%から55.1%までがあり、ばらつきが大きいことが分かった。中でも85%以上を示した項目は、高い順に「4 幅広い教養『考える力』」、「5 専門知識・技術『考える力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」であった（うち、4、5、6は89.8%で同じ）。一方、課題も見出された。「10 問題発見・解決力『生きる力』」、「11 心身の健康に対する意識『生きる力』」、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。各々の平均値は3.06、3.00、2.53、修得群は77.6%、75.5%、55.1%を示した。標準偏差は0.97、1.10、1.16であった。こうした結果は、修得率が低いうえ、修得した卒業生と修得しなかった卒業生との間のばらつきがかなり大きいことを意味する。

表 3-2 人文学部卒業生（49名）の三重大の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.22	1.05	79.6%
2 共感「感じる力」	3.16	1.03	77.6%
3 主体性「感じる力」	3.16	1.09	77.6%
4 幅広い教養「考える力」	3.45	1.02	89.8%
5 専門知識・技術「考える力」	3.59	0.84	89.8%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.59	0.96	89.8%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	3.35	1.01	81.6%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.12	1.07	73.5%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	2.53	1.16	55.1%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.06	0.97	77.6%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.00	1.10	75.5%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.24	1.07	77.6%

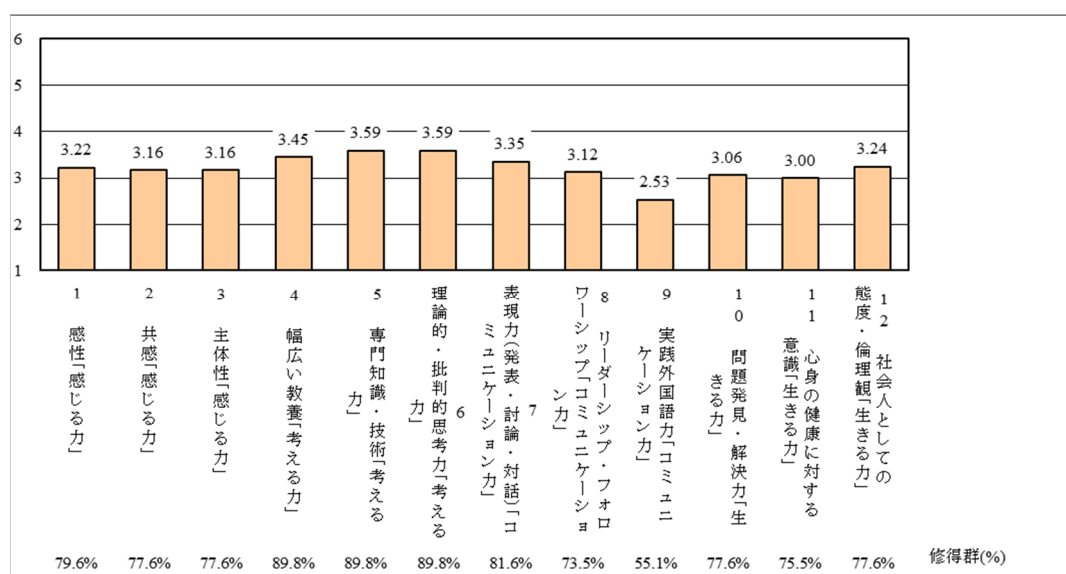


図 3-2 人文学部卒業生（49名）の三重大の教育を通して身についた4つの力の平均値及び修得群

3.1.3 三重大の教育で成長したこと（教育学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、教育学部卒業生（43名）の12項目に対する回答について、平均値、修得群、標準偏差を算出した。その結果、平均値では、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除いてすべての項目において「少し成長した」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除いてすべての項目において3.50以上を示した。また、修得群では、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除き、93%から86%までがあり、ばらつきが少なかった。「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除いてすべての項目において85%以上を示した（うち、4、6は95.3%、5、7、11は93.0%、1、2は90.7%で同じ）。一方、課題も見出された。「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。同項目の平均値は2.74、修得群は65.1%を示した。標準偏差は1.11であった。こうした結果は、修得率が低いうえ、修得した卒業生と修得しなかった卒業生との間のばらつきがかなり大きいことを意味する。

表 3-3 教育学部卒業生（43名）の三重大の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.60	0.85	90.7%
2 共感「感じる力」	3.70	0.83	90.7%
3 主体性「感じる力」	3.60	0.88	86.0%
4 幅広い教養「考える力」	3.70	0.77	95.3%
5 専門知識・技術「考える力」	3.88	0.79	93.0%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.70	0.67	95.3%
7 表現力（発表・討論・対話）「コミュニケーション力」	3.70	0.83	93.0%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.51	0.86	86.0%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	2.74	1.11	65.1%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.53	0.83	88.4%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.60	0.82	93.0%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.65	0.65	97.7%

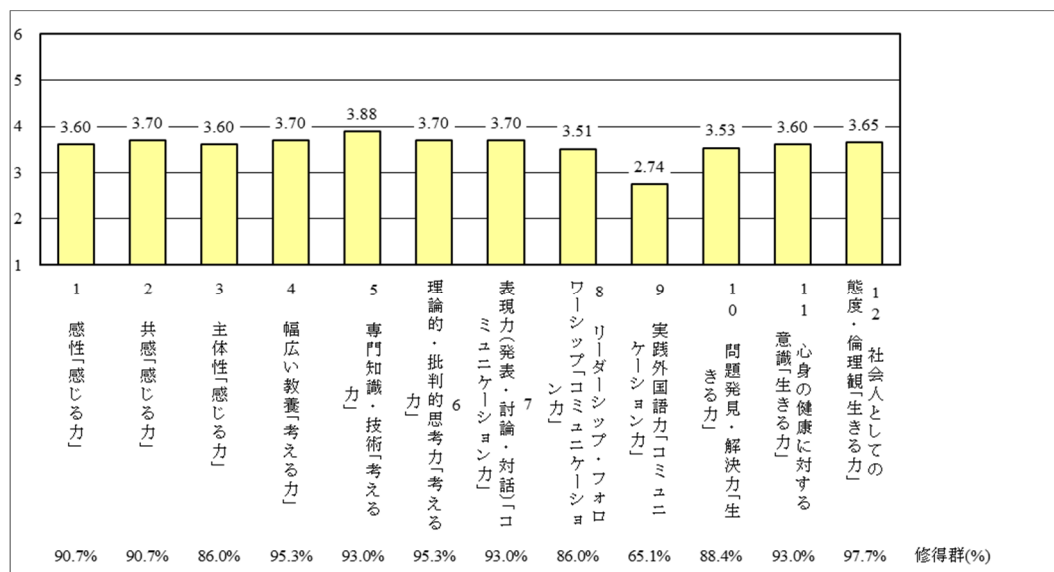


図 3-3 教育学部卒業生（43名）の三重大の教育を通して身についた4つの力の平均値及び修得群

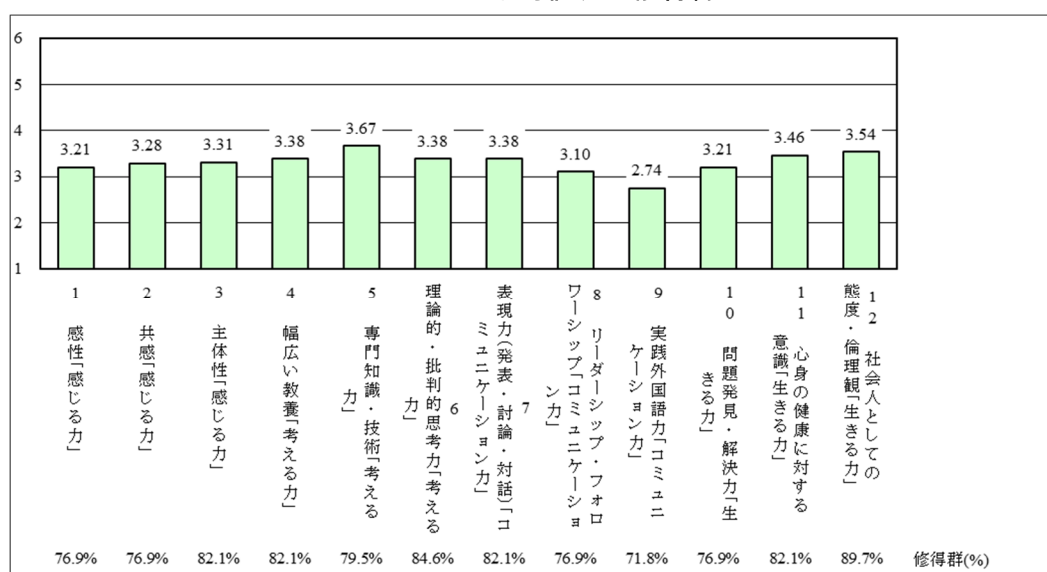
3.1.4 三重大大学の教育で成長したこと（医学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、医学部卒業生（39名）の12項目に対する回答について、平均値、修得群、標準偏差を算出した。その結果、平均値では、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除いてすべての項目において「少し成長した」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。中でも3.50以上を示した項目は、高い順に「5 専門知識・技術『考える力』」、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」であった。また、修得群では、項目によって89.7%から71.8%までがあり、ばらつきが比較的大きかった。中でも85%以上を示した項目は、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」であった。一方、課題も見出された。「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。同項目の平均値は2.74、修得群は71.8%を示した。標準偏差は0.88であった。こうした結果は、修得率が低いうえ、修得した卒業生と修得しなかった卒業生との間のばらつきが比較的大きいことを意味する。

表 3-4 医学部卒業生（39名）の三重大大学の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.21	0.80	76.9%
2 共感「感じる力」	3.28	0.89	76.9%
3 主体性「感じる力」	3.31	0.89	82.1%
4 幅広い教養「考える力」	3.38	0.85	82.1%
5 専門知識・技術「考える力」	3.67	1.03	79.5%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.38	0.81	84.6%
7 表現力（発表・討論・対話）「コミュニケーション力」	3.38	0.81	82.1%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.10	0.99	76.9%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	2.74	0.88	71.8%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.21	0.89	76.9%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.46	1.00	82.1%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.54	0.94	89.7%

図 3-4 医学部卒業生（39名）の三重大大学の教育を通して身についた4つの力の平均値及び修得群



3.1.5 三重大大学の教育で成長したこと（工学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、工学部卒業生（49名）の12項目に対する回答について、平均値、修得群、標準偏差を算出した。その結果、平均値では、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除いてすべての項目において「少し成長した」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。中でも3.50以上を示した項目は、「5 専門知識・技術『考える力』」であった。また、修得群では、項目によって87.8%から67.3%までがあり、ばらつきが比較的大きかった。中でも85%以上を示した項目は、「5 専門知識・技術『考える力』」、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」であった。一方、課題も見出された。「11 心身の健康に対する意識『生きる力』」、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。各々の平均値は3.8、2.84、修得群は75.5%、67.3%を示した。標準偏差は1.13、1.12であった。こうした結果は、修得率が低いうえ、修得した卒業生と修得しなかった卒業生との間のばらつきがかなり大きいことを意味する。

表 3-5 工学部卒業生（49名）の三重大大学の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.12	1.05	77.6%
2 共感「感じる力」	3.27	1.08	81.6%
3 主体性「感じる力」	3.16	1.09	79.6%
4 幅広い教養「考える力」	3.29	1.10	81.6%
5 専門知識・技術「考える力」	3.55	1.17	87.8%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.39	1.11	83.7%
7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』	3.33	1.09	87.8%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.04	1.14	79.6%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	2.84	1.12	67.3%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.22	1.12	79.6%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.08	1.13	75.5%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.18	1.13	77.6%

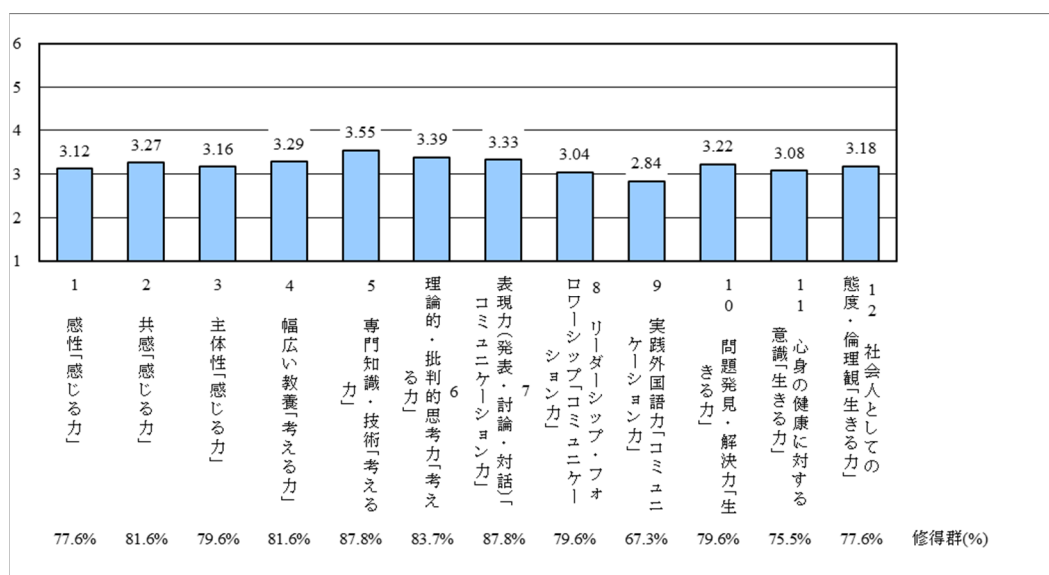


図 3-5 工学部卒業生（49名）の三重大大学の教育を通して身についた4つの力の平均値及び修得群

3.1.6 三重大大学の教育で成長したこと（生物資源学部卒業生）

卒業生からの全回答のうち、生物資源学部卒業生（60名）の12項目に対する回答について、平均値、修得群、標準偏差を算出した。その結果、平均値では、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除いてすべての項目において「少し成長した」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。中でも3.50以上を示した項目は、高い順に「4 幅広い教養『考える力』」、「5 専門知識・技術『考える力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」といった、「考える力」に関する項目であった。また、修得群では、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除き、項目によって95%から75%までがあり、ばらつきが比較的大きかった。中でも85%以上を示した項目は、「4 幅広い教養『考える力』」、「5 専門知識・技術『考える力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」、「2 共感『感じる力』」、「10 問題発見・解決力『生きる力』」であった。一方、課題も見出された。「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。各々の平均値は3.10、2.65、修得群は75.0%、60.0%を示した。標準偏差は1.00、1.10であった。こうした結果は、修得率が低いうえ、修得した卒業生と修得しなかった卒業生との間のばらつきがかなり大きいことを意味する。

表 3-6 生物資源学部卒業生（60名）の三重大大学の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.40	0.87	83.3%
2 共感「感じる力」	3.43	0.87	86.7%
3 主体性「感じる力」	3.48	0.97	83.3%
4 幅広い教養「考える力」	3.72	0.83	90.0%
5 専門知識・技術「考える力」	3.87	0.83	95.0%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.63	0.78	90.0%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	3.43	1.08	78.3%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.10	1.00	75.0%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	2.65	1.10	60.0%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.40	0.87	86.7%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.27	0.92	80.0%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.35	1.02	80.0%

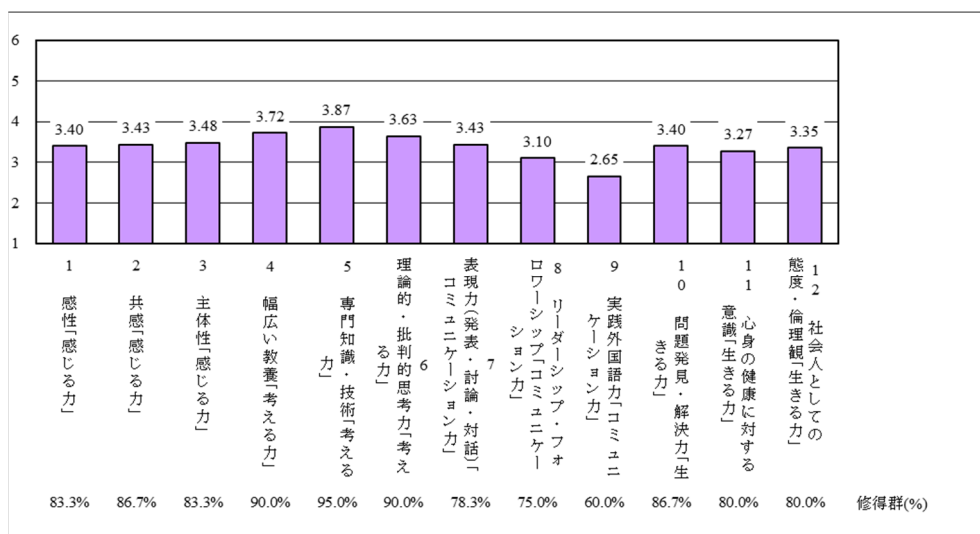


図 3-6 生物資源学部卒業生（60名）の三重大大学の教育を通して身についた4つの力の平均値及び修得群

3.2 三重大学大学院の教育・研究で成長したこと（修了生）

三重大学大学院の教育によって力が身についた程度を、「かなり成長した」、「ある程度成長した」、「少し成長した」、「わずかながら成長した」、「成長しなかった」の5段階で回答を求めた（12項目）。以下に、全修了生（92名）からの全回答の平均値、修得群、標準偏差を示す。平均値と標準偏差は、身についたと感じる度合いを表す5段階評定において「かなり成長した」を5点、「ある程度成長した」を4点、「少し成長した」を3点、「わずかながら成長した」を2点、「成長しなかった」を1点として算出した。修得群は、5段階のうち「かなり成長した」、「ある程度成長した」、「少し成長した」、「わずかながら成長した」のいずれかに回答した修了生の割合とした。

その結果、平均値では、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除いてすべての項目において「少し成長した」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についたと感じていることが分かった。中でも3.50以上を示した項目は、高い順に、「5 専門知識・技術『考える力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」、「4 幅広い教養『考える力』」、「3 主体性『感じる力』」であった。また、修得群では、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除き、94.6%から80.4%までがあり、ばらつきが比較的大きかった。中でも85%以上を示した項目は、「5 専門知識・技術『考える力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」、「4 幅広い教養『考える力』」、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」、「3 主体性『感じる力』」、「10 問題発見・解決力『生きる力』」であった。一方、課題も見出された。「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」に関して、現状では相対的に低い値が示されていることが分かった。各々の平均値は3.31、2.91、修得群は80.4%、64.1%を示した。標準偏差は0.94、1.10であった。こうした結果は、修得率が低いうえ、修得した卒業生と修得しなかった卒業生との間のばらつきがかなり大きいことを意味する。

表 3-7 修了生（92名）の三重大学大学院の教育を通して身についた4つの力

項目	平均値	標準偏差	修得群(%)
1 感性「感じる力」	3.35	0.98	82.6%
2 共感「感じる力」	3.42	1.03	82.6%
3 主体性「感じる力」	3.62	1.01	88.0%
4 幅広い教養「考える力」	3.75	0.90	90.2%
5 専門知識・技術「考える力」	3.95	0.84	94.6%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	3.88	0.92	91.3%
7 表現力（発表・討論・対話）「コミュニケーション力」	3.79	0.95	89.1%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3.31	0.94	80.4%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	2.91	1.10	64.1%
10 問題発見・解決力「生きる力」	3.47	0.95	85.9%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	3.32	1.09	82.6%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	3.48	1.03	83.7%

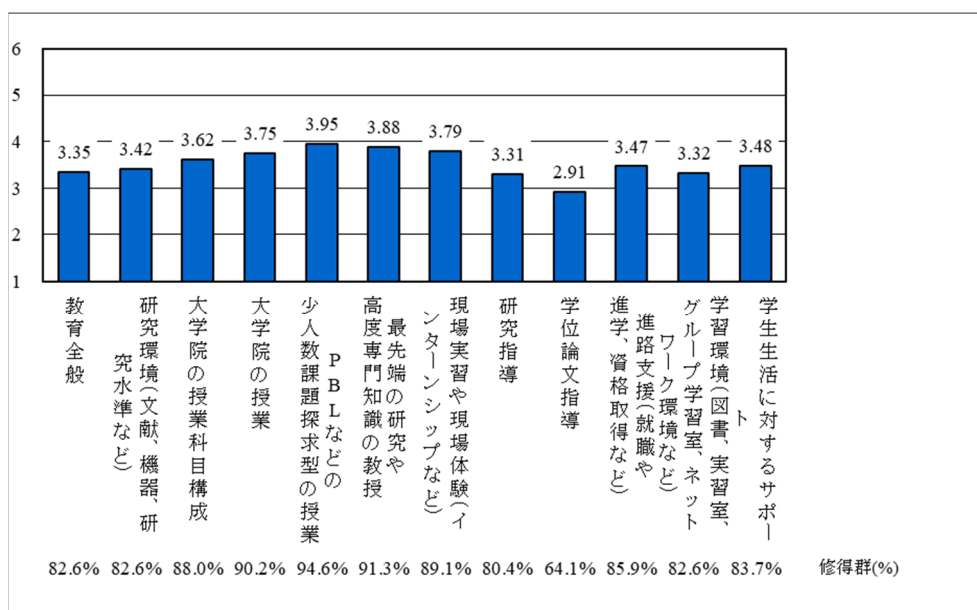


図 3-7 修了生（92 名）の三重大学大学院の教育を通して身についた 4 つの力の平均値及び修得群

第4章 社会生活の場で重要だと思う力

4.1 社会生活の場で重要な力（卒業生）

大学卒業後の社会生活の場で特に重要だと思う力について卒業生にたずねた。回答は、12個の選択肢の中から、自由に選択するように求めた。全卒業生及び卒業学部別に各項目を選択した人数とその割合を算出した。また、各項目が三重大大学の教育を通してどれ程修得できたかを把握するために「第3章 三重大大学の教育で成長したこと」において算出された修得群を示した。

4.1.1 社会生活の場で重要な力（全卒業生）

卒業生からの全回答（242名）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、40%以上を示した項目は、高い順に「1 感性『感じる力』」、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」、「4 幅広い教養『考える力』」であった。これらの項目の「第3章 三重大大学の教育で成長したこと」における修得群は、各々81.8%、63.2%、88.0%で、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除き、三重大大学の教育を通してかなり修得できていることが分かった。

表 4-1 全卒業生（242名）が思う社会生活において重要だと思う力

	全卒業生 (242名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	95	50.8%	81.8%
2 共感「感じる力」	70	37.4%	83.1%
3 主体性「感じる力」	65	34.8%	81.8%
4 幅広い教養「考える力」	78	41.7%	88.0%
5 専門知識・技術「考える力」	47	25.1%	89.7%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	58	31.0%	88.8%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	53	28.3%	84.3%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	33	17.6%	78.1%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	88	47.1%	63.2%
10 問題発見・解決力「生きる力」	35	18.7%	82.2%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	65	34.8%	81.0%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	55	29.4%	83.9%

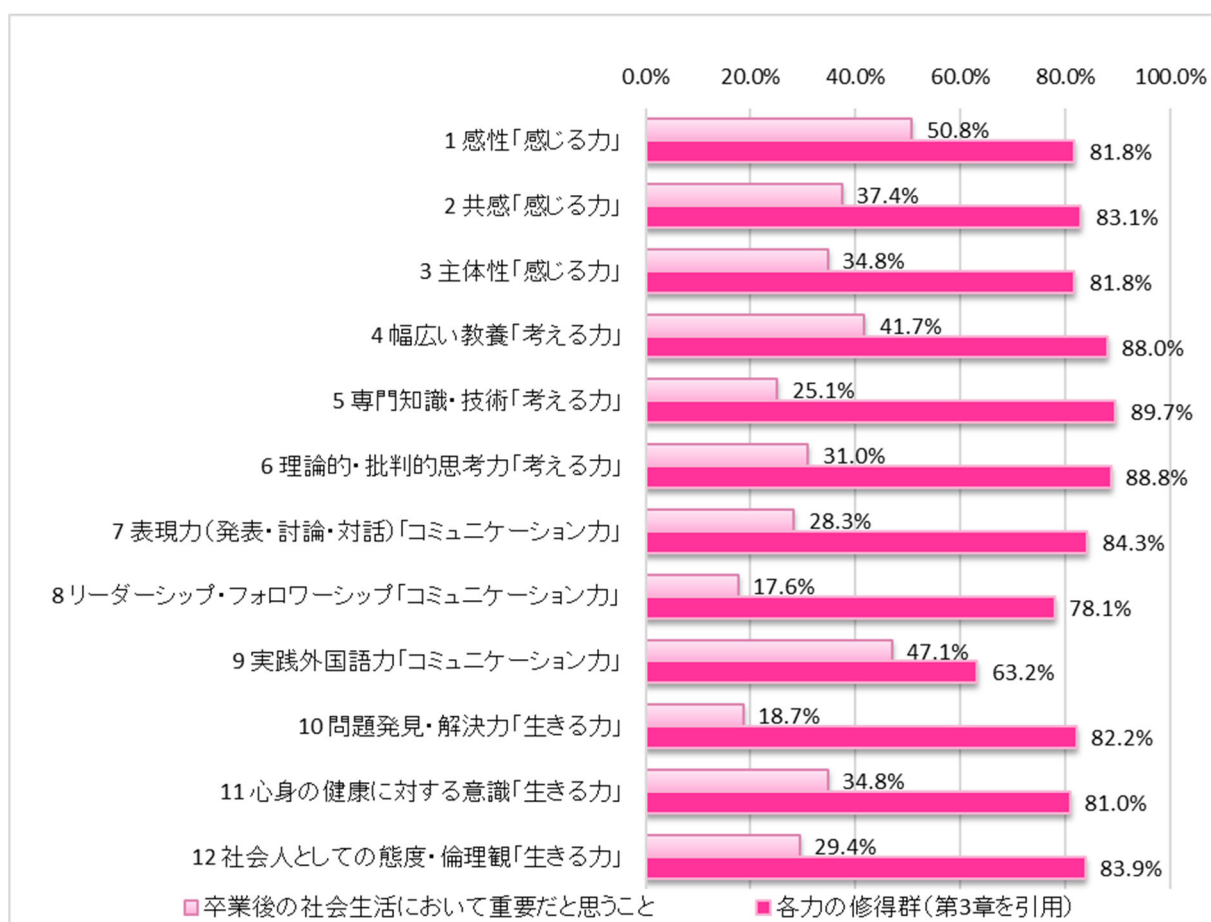


図 4-1 全卒業生（242 名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合
（各項目の 2 つ目のバーは修得率を示す。）

4.1.2 社会生活の場で重要な力（人文学部卒業生）

人文学部の卒業生（49名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、40%以上を示した項目は、高い順に「1 感性『感じる力』」、「4 幅広い教養『考える力』」であった。これらの項目の「第3章 三重大学の教育で成長したこと」における修得群は、各々79.6%、89.8%で、三重大学の教育を通してかなり修得できていることが分かった。

表 4-2 人文学部の卒業生（49名）が思う社会生活において重要だと思う力

	人文学部卒業生 (49名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	29	56.9%	79.6%
2 共感「感じる力」	16	31.4%	77.6%
3 主体性「感じる力」	16	31.4%	77.6%
4 幅広い教養「考える力」	19	37.3%	89.8%
5 専門知識・技術「考える力」	16	31.4%	89.8%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	18	35.3%	89.8%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	20	39.2%	81.6%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	8	15.7%	73.5%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	15	29.4%	55.1%
10 問題発見・解決力「生きる力」	7	13.7%	77.6%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	23	45.1%	75.5%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	14	27.5%	77.6%

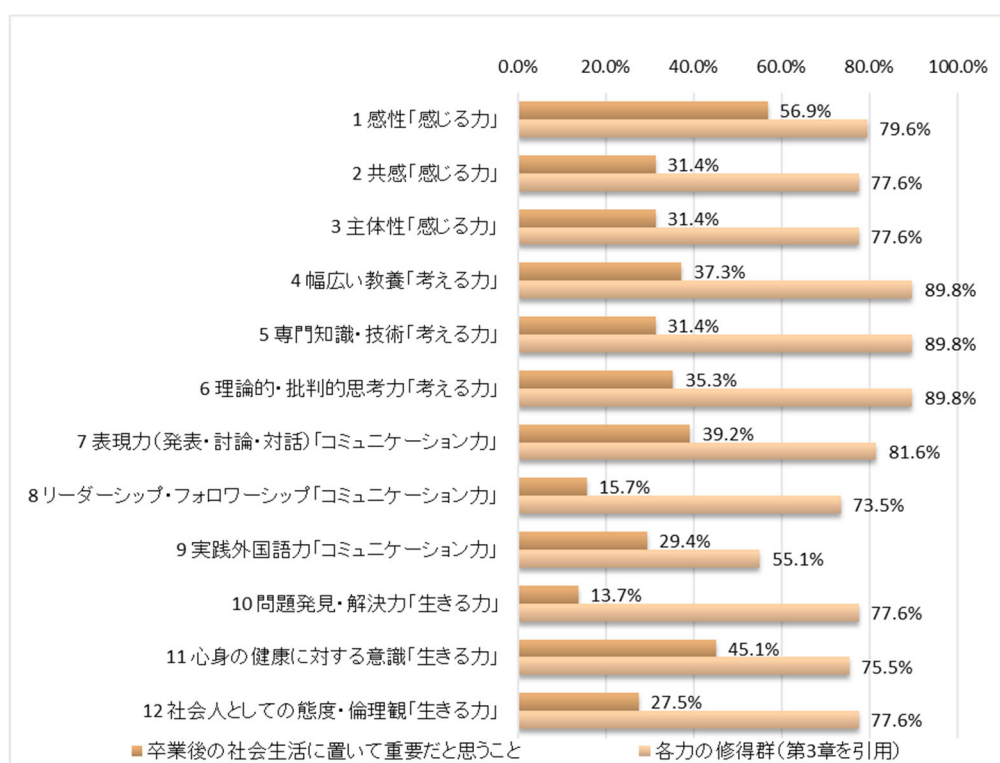


図 4-2 人文学部の卒業生（49名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合（各項目の2つ目のバーは修得率を示す。）

4.1.3 社会生活の場で重要な力（教育学部卒業生）

教育学部の卒業生（43名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、40%以上を示した項目は、高い順に「4 幅広い教養『考える力』」、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」、「1 感性『感じる力』」であった。これらの項目の「第3章 三重大の教育で成長したこと」における修得群は、各々95.3%、65.1%、90.7%で、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除き、三重大の教育を通してかなり修得できていることが分かった。

表 4-3 教育学部の卒業生（43名）が思う社会生活において重要だと思う力

	教育学部卒業生 (43名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	14	41.2%	90.7%
2 共感「感じる力」	13	38.2%	90.7%
3 主体性「感じる力」	7	20.6%	86.0%
4 幅広い教養「考える力」	17	50.0%	95.3%
5 専門知識・技術「考える力」	9	26.5%	93.0%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	10	29.4%	95.3%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	11	32.4%	93.0%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	5	14.7%	86.0%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	15	44.1%	65.1%
10 問題発見・解決力「生きる力」	8	23.5%	88.4%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	13	38.2%	93.0%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	12	35.3%	97.7%

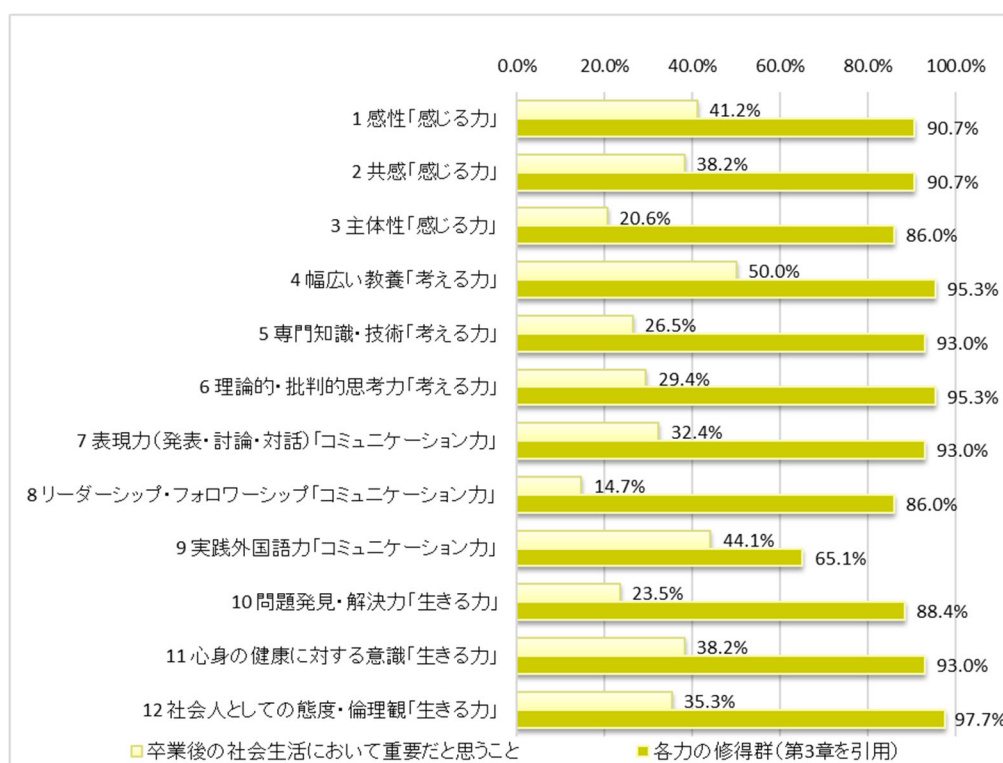


図 4-3 教育学部の卒業生（43名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合（各項目の2つ目のバーは修得率を示す。）

4.1.4 社会生活の場で重要な力（医学部卒業生）

医学部の卒業生（39名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、40%以上を示した項目は、高い順に「1 感性『感じる力』」、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」、「3 主体性『感じる力』」、「4 幅広い教養『考える力』」、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」であった（うち、1、9は56.3%、3、4は50.0%で同じ）。これらの項目の「第3章 三重大の教育で成長したこと」における修得群は、各々76.9%、71.8%、82.1%、82.1%、89.7%で、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除き、三重大の教育を通してかなり修得できていることが分かった。

表 4-4 医学部の卒業生（39名）が思う社会生活において重要だと思う力

	医学部卒業生 (39名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	18	56.3%	76.9%
2 共感「感じる力」	10	31.3%	76.9%
3 主体性「感じる力」	16	50.0%	82.1%
4 幅広い教養「考える力」	16	50.0%	82.1%
5 専門知識・技術「考える力」	5	15.6%	79.5%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	8	25.0%	84.6%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	7	21.9%	82.1%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	3	9.4%	76.9%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	18	56.3%	71.8%
10 問題発見・解決力「生きる力」	7	21.9%	76.9%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	7	21.9%	82.1%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	13	40.6%	89.7%

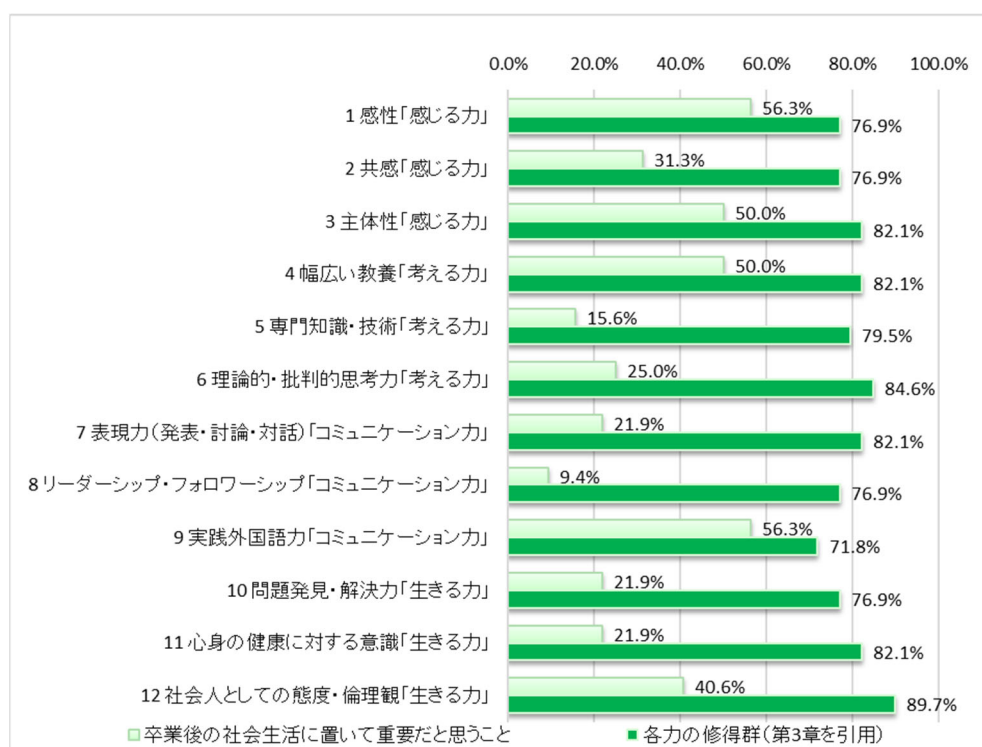


図 4-4 医学部の卒業生（39名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合
（各項目の2つ目のバーは修得率を示す。）

4.1.5 社会生活の場で重要な力（工学部卒業生）

工学部の卒業生（49名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、40%以上を示した項目は、高い順に「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」、「1 感性『感じる力』」、「2 共感『感じる力』」、「3 主体性『感じる力』」、「4 幅広い教養『考える力』」であった（うち、2、3、4は42.9%で同じ）。これらの項目の「第3章 三重大の教育で成長したこと」における修得群は、各々67.3%、77.6%、81.6%、79.6%、81.6%で、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除き、三重大の教育を通してかなり修得できていることが分かった。

表 4-5 工学部の卒業生（49名）が思う社会生活において重要だと思う力

	工学部卒業生 (49名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	19	45.2%	77.6%
2 共感「感じる力」	18	42.9%	81.6%
3 主体性「感じる力」	18	42.9%	79.6%
4 幅広い教養「考える力」	18	42.9%	81.6%
5 専門知識・技術「考える力」	9	21.4%	87.8%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	10	23.8%	83.7%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	10	23.8%	87.8%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	9	21.4%	79.6%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	24	57.1%	67.3%
10 問題発見・解決力「生きる力」	9	21.4%	79.6%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	14	33.3%	75.5%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	9	21.4%	77.6%

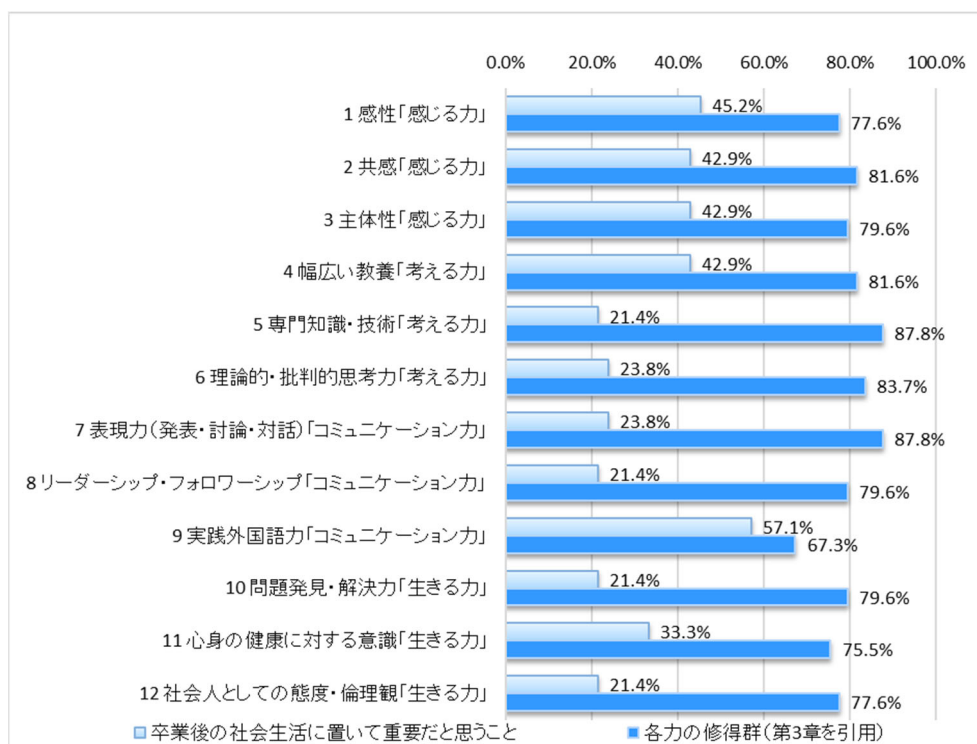


図 4-5 工学部の卒業生（49名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合
(各項目の2つ目のバーは修得率を示す。)

4.1.6 社会生活の場で重要な力（生物資源学部卒業生）

生物資源学部の卒業生（60名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、40%以上を示した項目は、高い順に「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」、「1 感性『感じる力』」、「2 共感『感じる力』」、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」であった。これらの項目の「第3章 三重大の教育で成長したこと」における修得群は、各々60.0%、83.3%、86.7%、90.0%で、「9 実践外国語力『コミュニケーション力』」を除き、三重大の教育を通してかなり修得できていることが分かった。

表 4-6 生物資源学部の卒業生（60名）が思う社会生活において重要だと思う力

	生物資源学部卒業生 (60名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	15	53.6%	83.3%
2 共感「感じる力」	13	46.4%	86.7%
3 主体性「感じる力」	8	28.6%	83.3%
4 幅広い教養「考える力」	8	28.6%	90.0%
5 専門知識・技術「考える力」	8	28.6%	95.0%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	12	42.9%	90.0%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	5	17.9%	78.3%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	8	28.6%	75.0%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	16	57.1%	60.0%
10 問題発見・解決力「生きる力」	4	14.3%	86.7%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	8	28.6%	80.0%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	7	25.0%	80.0%

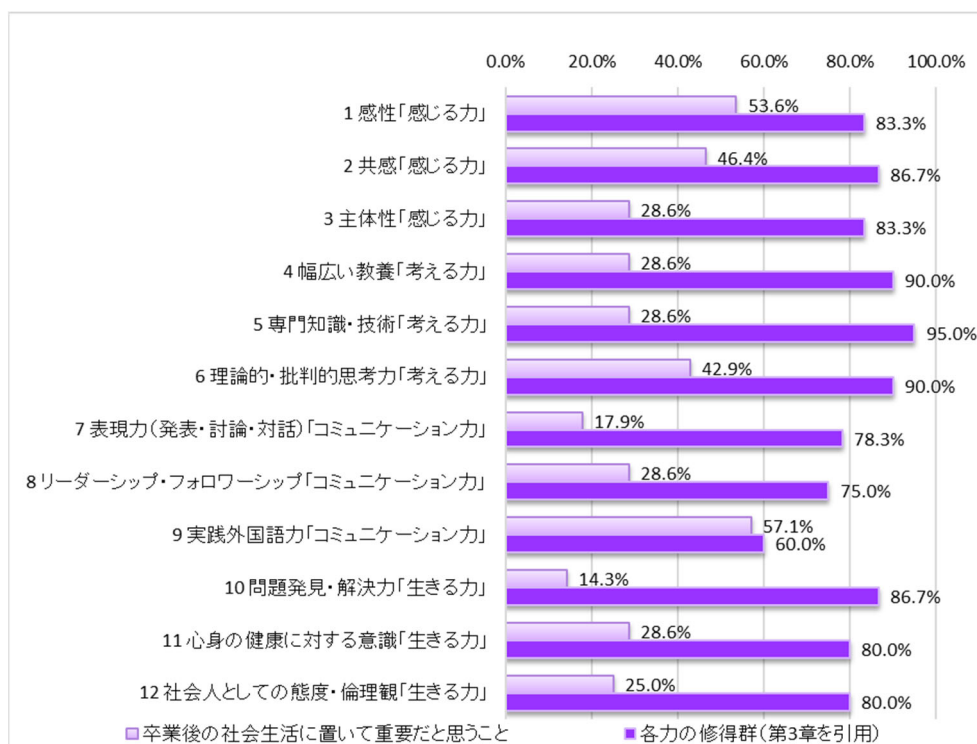


図 4-6 生物資源学部の卒業生（60名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合
(各項目の2つ目のバーは修得率を示す。)

4.2 社会生活の場で重要な力（修了生）

大学院修了後の社会生活の場で、特に重要だと思う力について修了生にたずねた。回答は、17個の選択肢の中から、自由に選択するように求めた（選択肢は卒業生と共通）。全修了生（92名）のうち、各項目を選択した人数とその割合を算出した。

その結果、40%以上を示した項目は、「6 理論的・批判的思考力『考える力』」、「10 問題発見・解決力『生きる力』」、「3 主体性『感じる力』」、「7 表現力（発表・討論・対話）『コミュニケーション力』」、「5 専門知識・技術『考える力』」、「12 社会人としての態度・倫理観『生きる力』」、「11 心身の健康に対する意識『生きる力』」、「4 幅広い教養『考える力』」であった。また、「8 リーダーシップ・フォロワーシップ『コミュニケーション力』」は40%に若干至らない39.1%を示した。これらの項目の「第3章 三重大の教育で成長したこと」における修得群は、94.6%から80.4%を示し、ばらつきはあったものの三重大の教育を通してかなり修得できていることが分かった。

表 4-7 全修了生（92 名）が思う社会生活において重要だと思う力

	全修了生 (92名中)		
	人	%	修得群(%)
1 感性「感じる力」	31	33.7%	82.6%
2 共感「感じる力」	33	35.9%	82.6%
3 主体性「感じる力」	62	67.4%	88.0%
4 幅広い教養「考える力」	39	42.4%	90.2%
5 専門知識・技術「考える力」	45	48.9%	94.6%
6 理論的・批判的思考力「考える力」	65	70.7%	91.3%
7 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	59	64.1%	89.1%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	36	39.1%	80.4%
9 実践外国語力「コミュニケーション力」	28	30.4%	64.1%
10 問題発見・解決力「生きる力」	63	68.5%	85.9%
11 心身の健康に対する意識「生きる力」	40	43.5%	82.6%
12 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	43	46.7%	83.7%

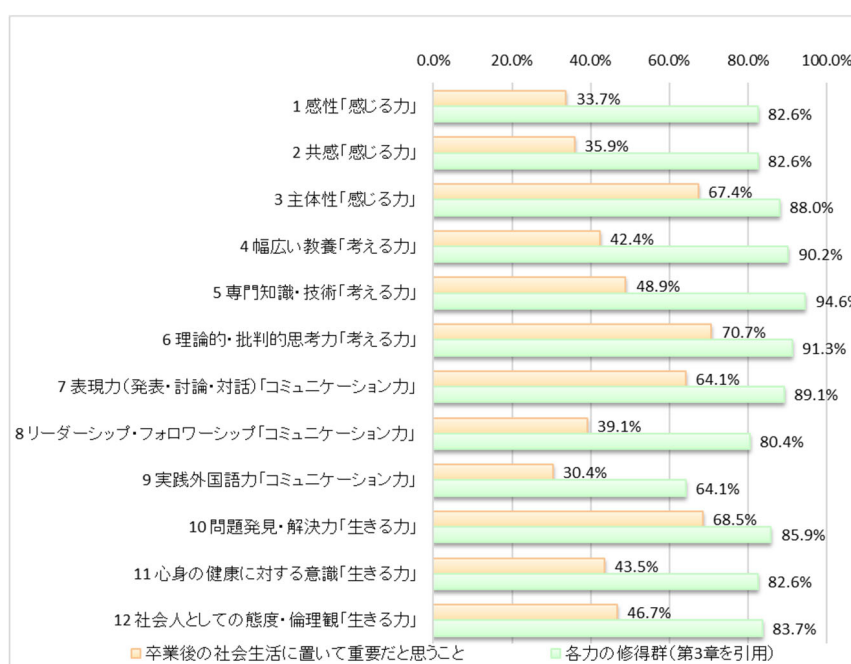


図 4-7 全修了生（92 名）が思う社会生活において重要だと思う力の割合（各項目の2つ目のバーは修得率を示す。）

第5章 大学／大学院生活で重点を置いたこと

5.1 大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（卒業生）

大学生活で特に重点を置いていたこと、後輩に重点を置いてほしいと思ったことについて卒業生にたずねた。回答は、各々20個の選択肢の中から、自由に選択するように求めた。全卒業生及び卒業学部別に各項目を選択した人数とその割合を算出した。また、「大学生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果を示した。各結果は、負の数は各卒業生が大学生活で重点を置かなかったが、後輩には重点を置いてほしいことを、正の数は各卒業生が大学生活で重点を置いたが、後輩には重点を置かなくてもいいと思ったことを示唆する。

5.1.1 大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（全卒業生）

全卒業生（242名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生活で重点を置いたこと」において、50%以上を示した項目は、高い順に「2 学部専門の授業」、「6 卒業研究」、「11 クラブ・サークル」であった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」において40%以上を示した項目は、「2 学部専門の授業」であった。「大学生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、-10%以上を示した項目は、低い順に「14 インターンシップ」、「15 就職活動」、「3 語学系の授業」であった。一方で、+10%以上を示した項目は、高い順に「12 アルバイト」、「6 卒業研究」、「8 実習」であった。

表 5-1 全卒業生（242名）が大学生活で重点を置いたこと
／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしい と思った点	
	人	%	人	%
1 教養教育の授業	29	12.0%	37	15.3%
2 学部専門の授業	165	68.2%	147	60.7%
3 語学系の授業	23	9.5%	55	22.7%
4 情報の授業	9	3.7%	31	12.8%
5 PBLに関連する授業	4	1.7%	17	7.0%
6 卒業研究	128	52.9%	99	40.9%
7 ゼミ	74	30.6%	55	22.7%
8 実習	97	40.1%	71	29.3%
9 ボランティア	16	6.6%	25	10.3%
10 留学	14	5.8%	29	12.0%
11 クラブ・サークル	124	51.2%	109	45.0%
12 アルバイト	113	46.7%	72	29.8%
13 学生自治活動	5	2.1%	9	3.7%
14 インターンシップ	22	9.1%	70	28.9%
15 就職活動	67	27.7%	104	43.0%
16 採用資格準備	30	12.4%	36	14.9%
17 専門学校	1	0.4%	0	0.0%
18 レジャー	28	11.6%	25	10.3%
19 副専攻	6	2.5%	11	4.5%
20 その他	6	2.5%	4	1.7%

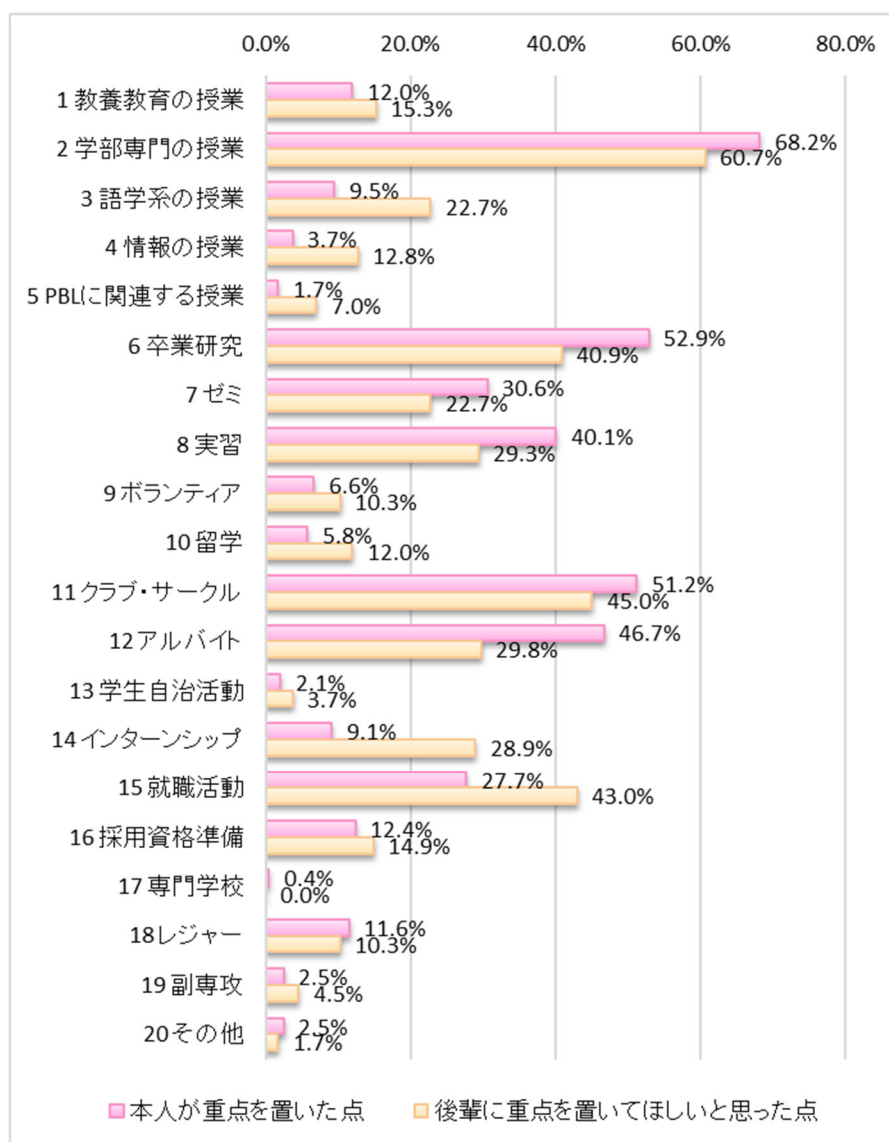


図 5-1 全卒業生（242 名）が大学生活で重点を置いたこと
／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.1.2 大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（人文学部卒業生）

人文学部の卒業生（49名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生活で重点を置いたこと」において、50%以上を示した項目は、高い順に「2 学部専門の授業」、「11 クラブ・サークル」、「6 卒業研究」、「12 アルバイト」であった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」において40%以上を示した項目は、「11 クラブ・サークル」、「2 学部専門の授業」、「7 ゼミ」、「6 卒業研究」、「15 就職活動」であった。「大学生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、-10%以上を示した項目は、低い順に「14 インターンシップ」、「4 情報の授業」、「5 PBLに関連する授業」であった。一方で、+10%以上を示した項目は、「12 アルバイト」であった。

表 5-2 人文学部の卒業生（49名）が大学生活で重点を置いたこと
／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしい と思った点	
	人	%	人	%
1 教養教育の授業	8	3.9%	11	22.4%
2 学部専門の授業	28	43.1%	26	53.1%
3 語学系の授業	7	9.8%	8	16.3%
4 情報の授業	2	0.0%	10	20.4%
5 PBLに関連する授業	2	0.0%	7	14.3%
6 卒業研究	25	23.5%	22	44.9%
7 ゼミ	24	21.6%	25	51.0%
8 実習	3	2.0%	1	2.0%
9 ボランティア	2	2.0%	5	10.2%
10 留学	7	5.9%	5	10.2%
11 クラブ・サークル	28	37.3%	27	55.1%
12 アルバイト	25	13.7%	18	36.7%
13 学生自治活動	0	0.0%	2	4.1%
14 インターンシップ	3	7.8%	16	32.7%
15 就職活動	19	15.7%	22	44.9%
16 採用資格準備	6	0.0%	9	18.4%
17 専門学校	1	0.0%	0	0.0%
18 レジャー	7	7.8%	4	8.2%
19 副専攻	1	0.0%	1	2.0%
20 その他	2	3.9%	0	0.0%

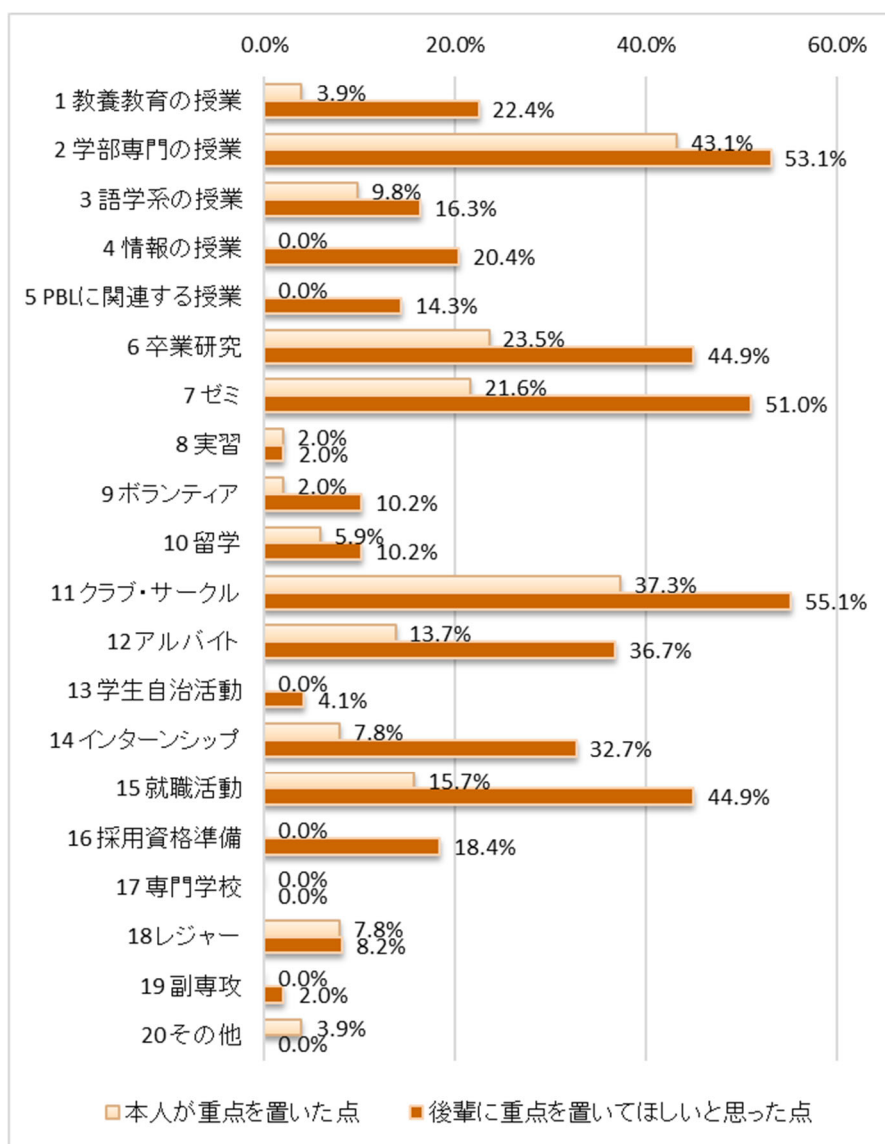


図 5-2 人文学部の卒業生（49 名）が大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.1.3 大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（教育学部卒業生）

教育学部の卒業生（43 名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生生活で重点を置いたこと」において、50%以上を示した項目は、高い順に「2 学部専門の授業」、「12 アルバイト」、「8 実習」、「11 クラブ・サークル」であった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」において 40%以上を示した項目は、「2 学部専門の授業」、「8 実習」、「11 クラブ・サークル」であった。「大学生生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、-10%以上を示した項目は、低い順に「3 語学系の授業」、「15 就職活動」、「4 情報の授業」、「14 インターンシップ」であった。一方で、+10%以上を示した項目は、高い順に「12 アルバイト」、「7 ゼミ」、「6 卒業研究」であった。

**表 5-3 教育学部の卒業生（43 名）が大学生生活で重点を置いたこと
／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと**

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしい と思った点	
	人	%	人	%
1 教養教育の授業	3	7.0%	7	16.3%
2 学部専門の授業	32	74.4%	28	65.1%
3 語学系の授業	1	2.3%	7	16.3%
4 情報の授業	1	2.3%	6	14.0%
5 PBLに関連する授業	0	0.0%	2	4.7%
6 卒業研究	16	37.2%	11	25.6%
7 ゼミ	16	37.2%	6	14.0%
8 実習	25	58.1%	23	53.5%
9 ボランティア	10	23.3%	13	30.2%
10 留学	1	2.3%	2	4.7%
11 クラブ・サークル	23	53.5%	21	48.8%
12 アルバイト	27	62.8%	15	34.9%
13 学生自治活動	0	0.0%	0	0.0%
14 インターンシップ	0	0.0%	5	11.6%
15 就職活動	10	23.3%	16	37.2%
16 採用資格準備	13	30.2%	13	30.2%
17 専門学校	0	0.0%	0	0.0%
18 レジャー	5	11.6%	6	14.0%
19 副専攻	1	2.3%	2	4.7%
20 その他	1	2.3%	3	7.0%

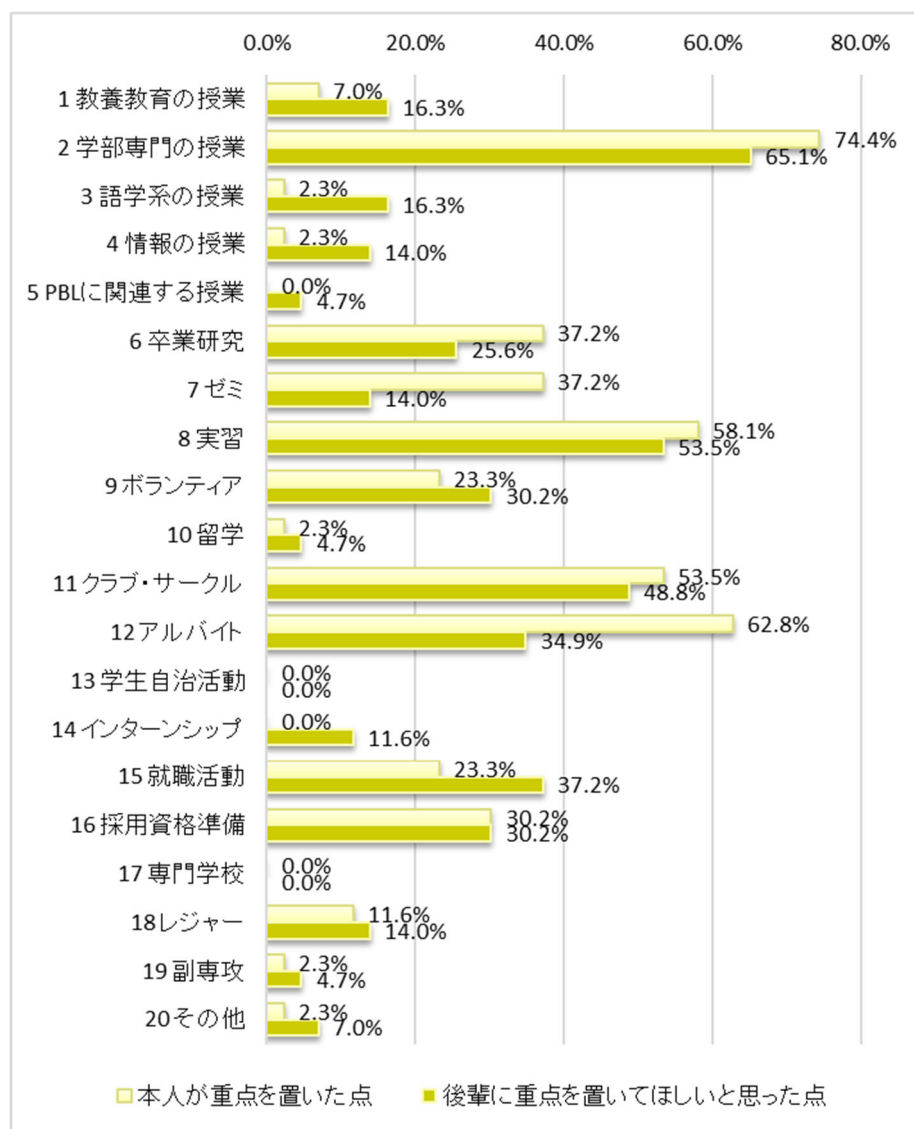


図 5-3 教育学部の卒業生（43 名）が大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.1.4 大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（医学部卒業生）

医学部の卒業生（39名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生生活で重点を置いたこと」において、50%以上を示した項目は、高い順に「8 実習」、「2 学部専門の授業」であった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」において40%以上を示した項目は、「2 学部専門の授業」、「8 実習」、「11 クラブ・サークル」であった。「大学生生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、-10%以上を示した項目は、低い順に「3 語学系の授業」、「15 就職活動」、「14 インターンシップ」、「3 語学系の授業」であった。一方で、+10%以上を示した項目は、高い順に「12 アルバイト」、「8 実習」であった。

表 5-4 医学部の卒業生（39 名）が大学生生活で重点を置いたこと
／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしい と思った点	
	人	%	人	%
1 教養教育の授業	3	7.0%	5	12.8%
2 学部専門の授業	26	60.5%	27	69.2%
3 語学系の授業	4	9.3%	9	23.1%
4 情報の授業	1	2.3%	2	5.1%
5 PBLに関連する授業	1	2.3%	3	7.7%
6 卒業研究	6	14.0%	3	7.7%
7 ゼミ	8	18.6%	4	10.3%
8 実習	31	72.1%	24	61.5%
9 ボランティア	0	0.0%	1	2.6%
10 留学	3	7.0%	4	10.3%
11 クラブ・サークル	20	46.5%	16	41.0%
12 アルバイト	19	44.2%	13	33.3%
13 学生自治活動	1	2.3%	1	2.6%
14 インターンシップ	0	0.0%	6	15.4%
15 就職活動	3	7.0%	9	23.1%
16 採用資格準備	7	16.3%	5	12.8%
17 専門学校	0	0.0%	0	0.0%
18 レジャー	2	4.7%	3	7.7%
19 副専攻	2	4.7%	5	12.8%
20 その他	1	2.3%	1	2.6%

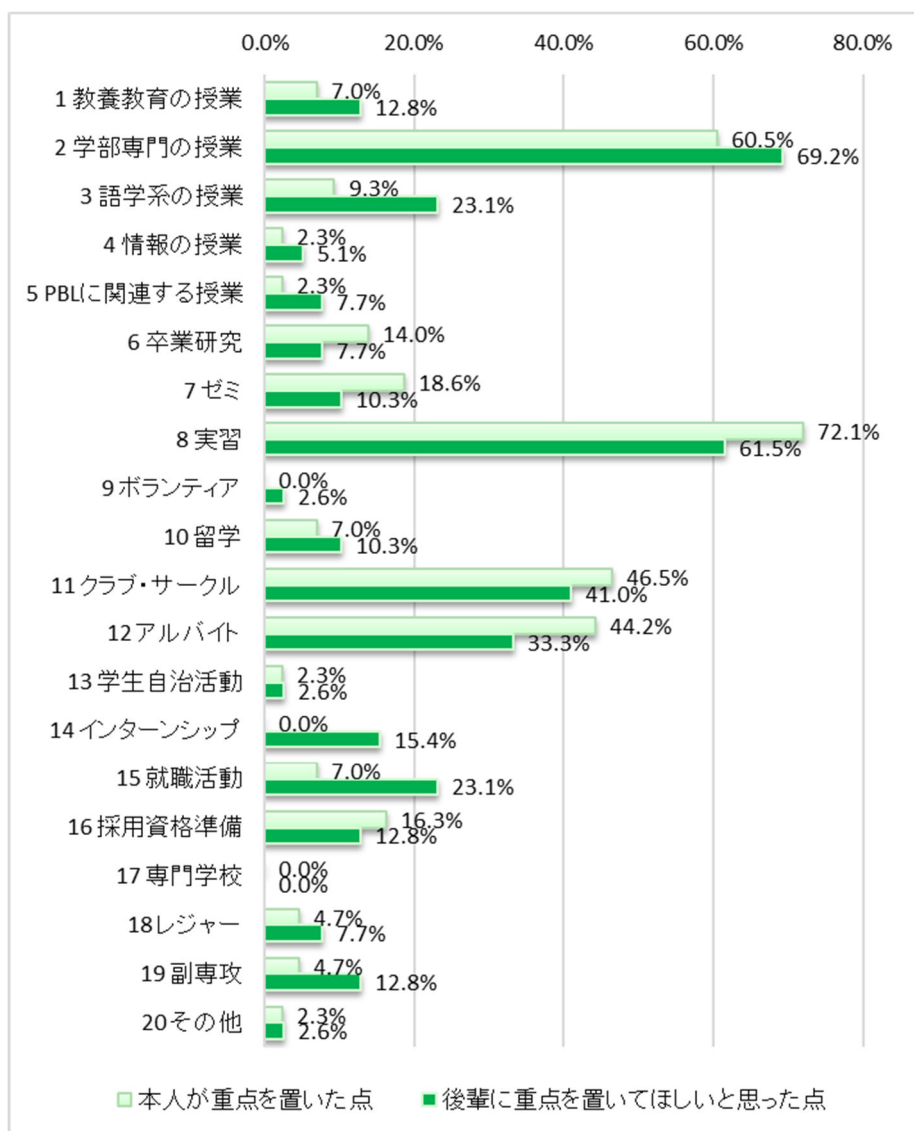


図 5-4 医学部の卒業生（39 名）が大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.1.5 大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（工学部卒業生）

工学部の卒業生（49名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生生活で重点を置いたこと」において、50%以上を示した項目は、高い順に「2 学部専門の授業」、「6 卒業研究」であった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」において40%以上を示した項目は、「2 学部専門の授業」、「6 卒業研究」、「11 クラブ・サークル」、「15 就職活動」であった。「大学生生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、-10%以上を示した項目は、低い順に「15 就職活動」、「3 語学系の授業」、「10 留学」、「14 インターンシップ」、「11 クラブ・サークル」であった。一方で、+10%以上を示した項目は、高い順に「12 アルバイト」、「6 卒業研究」であった。

表 5-5 工学部の卒業生（49 名）が大学生生活で重点を置いたこと
／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしい と思った点	
	人	%	人	%
1 教養教育の授業	6	12.2%	6	12.2%
2 学部専門の授業	35	71.4%	34	69.4%
3 語学系の授業	4	8.2%	14	28.6%
4 情報の授業	2	4.1%	3	6.1%
5 PBLに関連する授業	1	2.0%	2	4.1%
6 卒業研究	33	67.3%	27	55.1%
7 ゼミ	7	14.3%	6	12.2%
8 実習	11	22.4%	9	18.4%
9 ボランティア	1	2.0%	2	4.1%
10 留学	1	2.0%	9	18.4%
11 クラブ・サークル	19	38.8%	24	49.0%
12 アルバイト	21	42.9%	14	28.6%
13 学生自治活動	1	2.0%	3	6.1%
14 インターンシップ	10	20.4%	17	34.7%
15 就職活動	10	20.4%	22	44.9%
16 採用資格準備	0	0.0%	4	8.2%
17 専門学校	0	0.0%	0	0.0%
18 レジャー	5	10.2%	2	4.1%
19 副専攻	0	0.0%	1	2.0%
20 その他	0	0.0%	0	0.0%

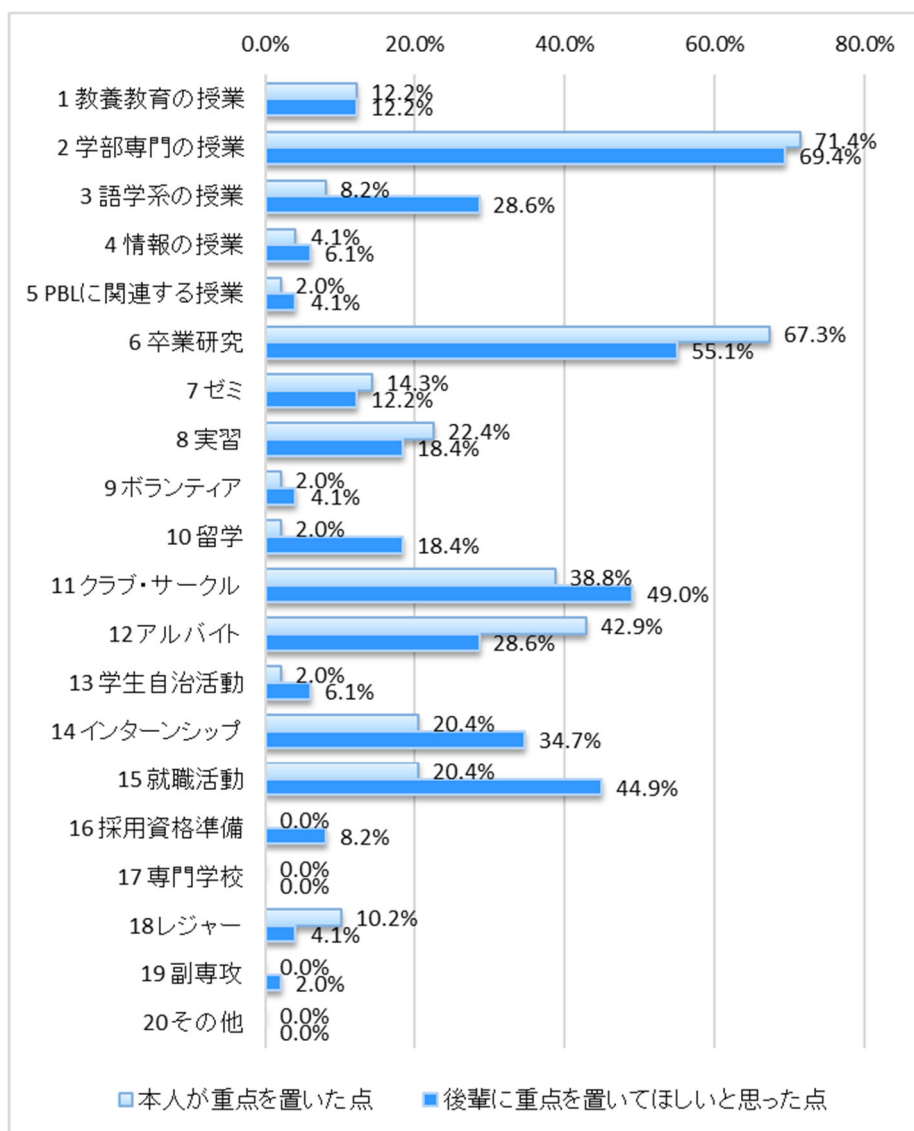


図 5-5 工学部の卒業生（49 名）が大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.1.6 大学生生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（生物資源学部卒業生）

生物資源学部の卒業生（60名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生生活で重点を置いたこと」において、50%以上を示した項目は、高い順に「6 卒業研究」、「2 学部専門の授業」、「11 クラブ・サークル」であった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」において40%以上を示した項目は、「6 卒業研究」、「15 就職活動」、「2 学部専門の授業」、「14 インターンシップ」であった。「大学生生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、-10%以上を示した項目は、低い順に「14 インターンシップ」、「15 就職活動」、「3 語学系の授業」、「10 留学」、「4 情報の授業」であった。一方で、+10%以上を示した項目は、高い順に「11 クラブ・サークル」、「8 実習」、「2 学部専門の授業」、「6 卒業研究」、「12 アルバイト」であった。

**表 5-6 生物資源学部の卒業生（60名）が大学生生活で重点を置いたこと
／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと**

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしい と思った点	
	人	%	人	%
1 教養教育の授業	9	15.0%	8	13.3%
2 学部専門の授業	42	70.0%	30	50.0%
3 語学系の授業	7	11.7%	17	28.3%
4 情報の授業	3	5.0%	10	16.7%
5 PBLに関連する授業	0	0.0%	3	5.0%
6 卒業研究	47	78.3%	36	60.0%
7 ゼミ	19	31.7%	14	23.3%
8 実習	25	41.7%	12	20.0%
9 ボランティア	3	5.0%	4	6.7%
10 留学	2	3.3%	9	15.0%
11 クラブ・サークル	33	55.0%	20	33.3%
12 アルバイト	19	31.7%	10	16.7%
13 学生自治活動	3	5.0%	3	5.0%
14 インターンシップ	9	15.0%	26	43.3%
15 就職活動	25	41.7%	35	58.3%
16 採用資格準備	4	6.7%	5	8.3%
17 専門学校	0	0.0%	0	0.0%
18 レジャー	9	15.0%	10	16.7%
19 副専攻	2	3.3%	2	3.3%
20 その他	2	3.3%	0	0.0%

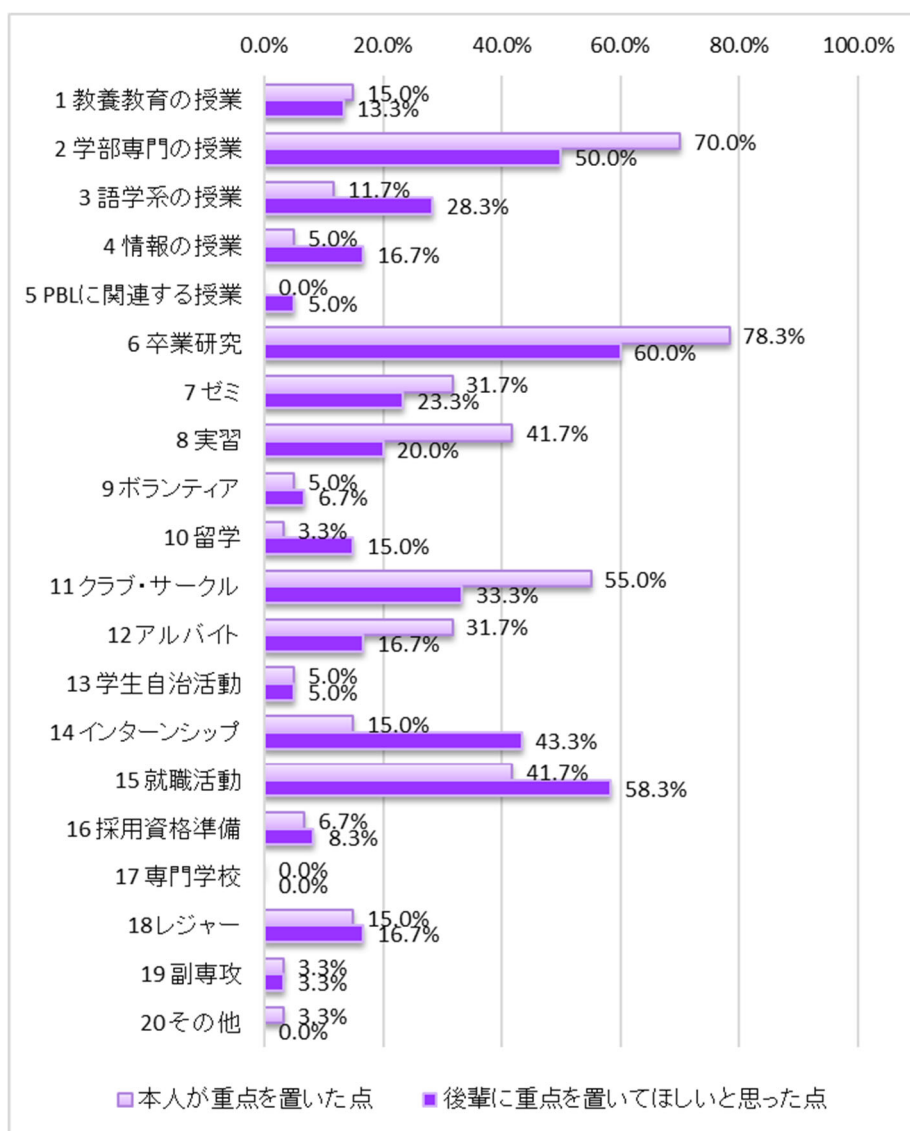


図 5-6 生物資源学部の卒業生（60 名）が大学生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.1.7 現在の職種による後輩に重点を置いてほしいと思ったこと（全卒業生）

全卒業生（242人）の現在の職種において最も多くを占めた集団であった「公務員」（49人）、「教職員」（28人）、「一般企業」（71人）、「医療関係」（31人）に注目し、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」について各項目を選択した人数とその割合を算出した。

その結果、「公務員」において50%以上を示した項目は、高い順に「2 学部専門の授業」、「15 就職活動」であった。一方で、「20 その他」を除き、10%以下を示した項目は、高い順に「10 留学」、「13 学生自治活動」、「19 副専攻」、「17 専門学校」であった。

「教職員」において50%以上を示した項目は、高い順に「2 学部専門の授業」、「8 実習」であった。一方で、「20 その他」を除き、10%以下を示した項目は、高い順に「5 PBLに関連する授業」、「18 レジャー」、「10 留学」、「19 副専攻」、「13 学生自治活動」、「17 専門学校」であった（うち、13、17は0.0%で同じ）。

「一般企業」において50%以上を示した項目は、高い順に「15 就職活動」、「2 学部専門の授業」、「6 卒業研究」であった。一方で、「20 その他」を除き、10%以下を示した項目は、高い順に「18 レジャー」、「13 学生自治活動」、「5 PBLに関連する授業」、「9 ボランティア」、「19 副専攻」、「17 専門学校」であった（うち、9、19は1.0%で同じ）。

「医療関係」において50%以上を示した項目は、高い順に「8 実習」、「2 学部専門の授業」であった。一方で、「20 その他」を除き、10%以下を示した項目は、高い順に「6 卒業研究」、「5 PBLに関連する授業」、「18 レジャー」、「7 ゼミ」、「16 採用資格準備」、「4 情報の授業」、「9 ボランティア」、「13 学生自治活動」、「17 専門学校」であった（うち、6、5、18は10.0%、7、16は6.0%、4、9、13は3.0%で同じ）。

表 5-7 現在の職種による後輩に重点を置いてほしいと思ったこと（卒業生）

	1 教養教育の授業		2 学部専門の授業		3 語学系の授業		4 情報の授業		5 PBLに関連する授業		6 卒業研究		7 ゼミ	
	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%
公務員	8	16%	32	65%	7	14%	11	22%	7	14%	18	37%	16	33%
教職員	6	21%	16	57%	5	18%	3	11%	2	7%	7	25%	5	18%
一般企業	11	15%	37	52%	21	30%	10	14%	2	3%	37	52%	18	25%
医療関係	4	13%	19	61%	8	26%	1	3%	3	10%	3	10%	2	6%

	8 実習		9 ボランティア		10 留学		11 クラブ・サークル		12 アルバイト		13 学生自治活動		14 インターンシップ	
	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%
公務員	11	22%	9	18%	5	10%	24	49%	18	37%	2	4%	12	24%
教職員	16	57%	11	39%	2	7%	12	43%	10	36%	0	0%	3	11%
一般企業	10	14%	1	1%	11	15%	33	46%	18	25%	5	7%	27	38%
医療関係	20	65%	1	3%	4	13%	14	45%	12	39%	1	3%	7	23%

	15 就職活動		16 採用資格準備		17 専門学校		18 レジャー		19 副専攻		20 その他	
	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%
公務員	25	51%	9	18%	0	0%	7	14%	1	2%	0	0%
教職員	9	32%	12	43%	0	0%	2	7%	2	7%	1	4%
一般企業	40	56%	8	11%	0	0%	7	10%	1	1%	1	1%
医療関係	7	23%	2	6%	0	0%	3	10%	4	13%	1	3%

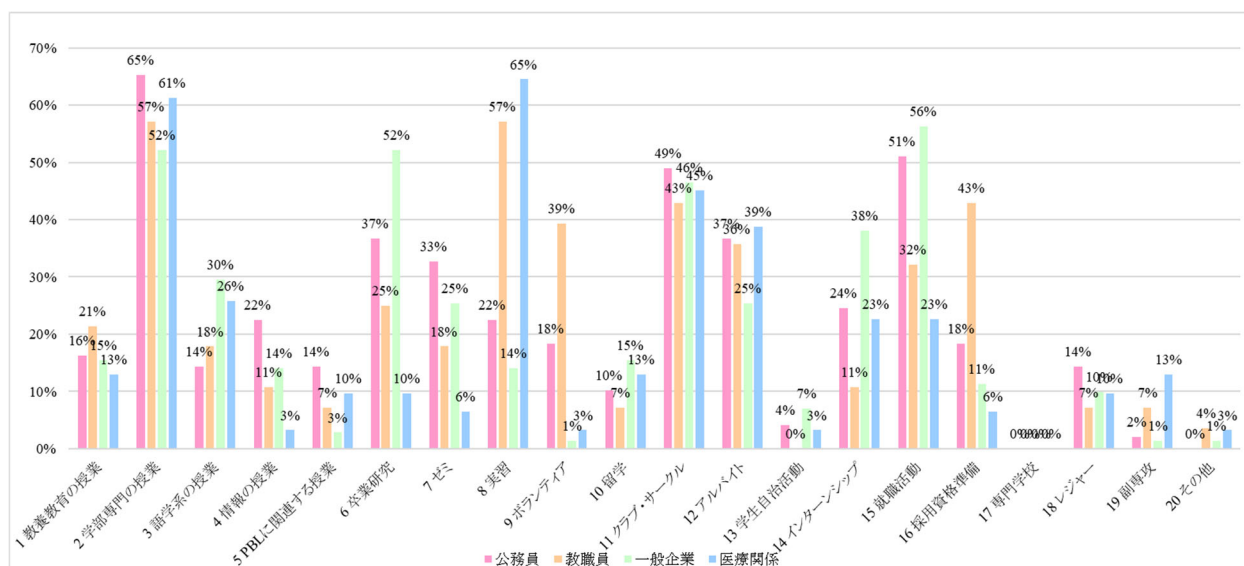


図 5-7 現在の職種による後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合（卒業生）

5.2 大学院生活で重点を置いたこと（修了生）

大学院生活で特に重点を置いていたものについて修了生にたずねた。回答は、17 個の選択肢の中から自由に選択するように求めた。修了生からの全回答（92 名）のうち、各項目を選択した人数とその割合を算出した。修了生の回答数は少ないため、研究科別の結果は掲載しないこととした。

5.2.1 大学院生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいこと（全修了生）

修了生からの全回答（92 名）のうち、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「大学生活で重点を置いたこと」において、50%以上を示した項目は、高い順に「4 研究活動」、「3 学位論文」であった。また、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」において 40%以上を示した項目は、「4 研究活動」、「3 学位論文」であった。「大学生活で重点を置いたこと」における各項目の割合から「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」における各項目の割合を引いた結果、-10%以上を示した項目は、「8 留学」であった。一方で、+10%以上を示した項目は、高い順に「1 大学院の授業」、「3 学位論文」であった。

表 5-8 全修了生（92 名）が大学院生活で重点を置いたこと
／後輩に重点を置いてほしいと思ったこと

	本人が重点を置いた点		後輩に重点を置いてほしい と思った点	
	人	%	人	%
1 大学院の授業	37	40.2%	25	27.2%
2 PBLに関連する授業	3	3.3%	4	4.3%
3 学位論文	60	65.2%	49	53.3%
4 研究活動	79	85.9%	75	81.5%
5 ゼミ	30	32.6%	24	26.1%
6 実習	6	6.5%	11	12.0%
7 ボランティア	1	1.1%	4	4.3%
8 留学	3	3.3%	13	14.1%
9 クラブ・サークル	6	6.5%	12	13.0%
10 アルバイト	15	16.3%	13	14.1%
11 学生自治活動	3	3.3%	0	0.0%
12 就職活動	31	33.7%	35	38.0%
13 採用資格準備	4	4.3%	10	10.9%
14 専門学校	0	0.0%	0	0.0%
15 レジャー	9	9.8%	14	15.2%
16 副専攻	2	2.2%	6	6.5%
17 その他	2	2.2%	6	6.5%

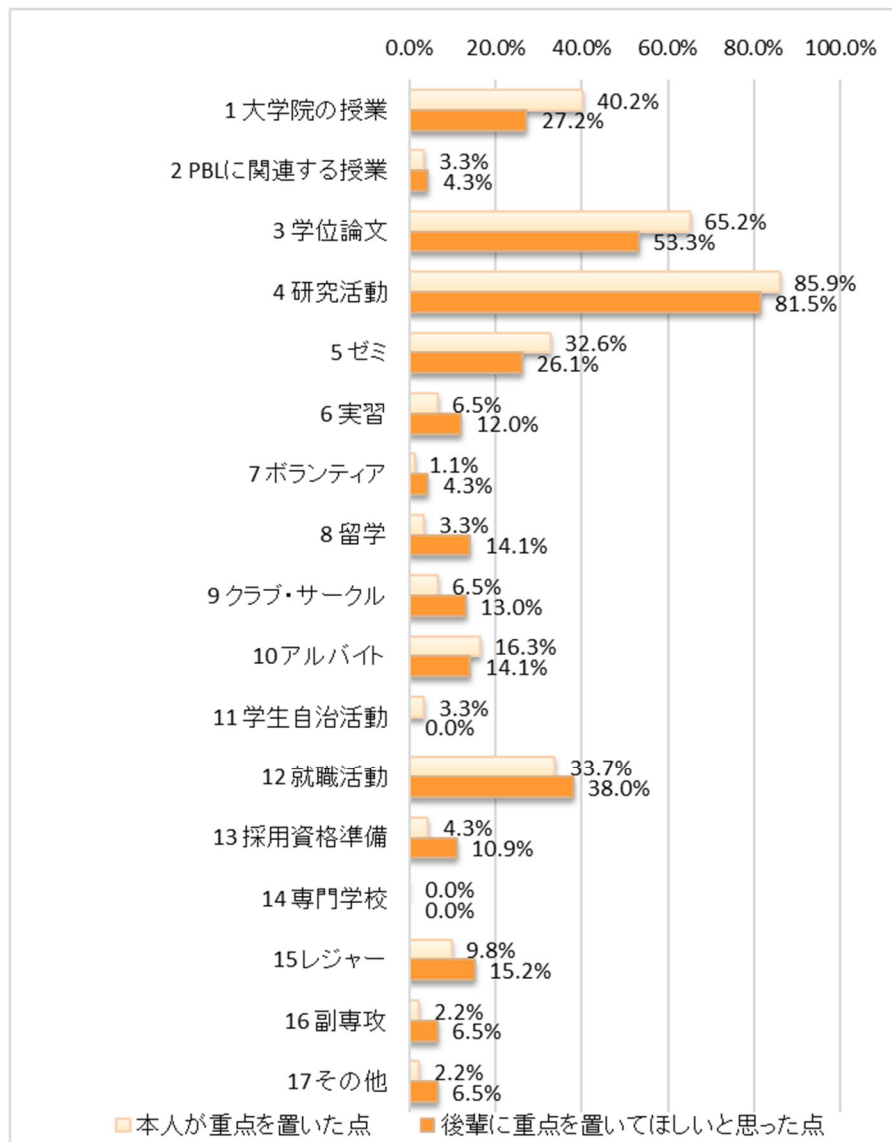


図 5-8 全修了生（92 名）が大学院生活で重点を置いたこと／後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合

5.2.2 現在の職種による後輩に重点を置いたほうが良いと伝えたいこと（全修了生）

全修了生（92人）の現在の職種において最も多くを占めた集団であった「公務員」（7人）、「教職員」（10人）、「一般企業」（57人）、「医療関係」（10人）に注目し、「後輩に重点を置いてほしいと思ったこと」について各項目を選択した人数とその割合を算出した。

その結果、「公務員」において50%以上を示した項目は、高い順に「4 研究活動」、「3 学位論文」であった。一方で、「20 その他」を除き、10%以下を示した項目は、高い順に「10 留学」、「13 学生自治活動」、「19 副専攻」、「17 専門学校」であった。

「教職員」において50%以上を示した項目は、高い順に「4 研究活動」、「1 大学院の授業」であった。一方で、「20 その他」を除き、10%以下を示した項目は、「2 PBLに関連する授業」、「7 ボランティア」、「8 留学」、「9 クラブ・サークル」、「10 アルバイト」、「11 学生自治活動」、「14 専門学校」、「13 採用資格準備」、「15 レジャー」、「16 副専攻」であった（すべて0.0%で同じ）。

「一般企業」において50%以上を示した項目は「4 研究活動」であった。「12 就職活動」は50%に若干至らない49.0%だった。一方で、「20 その他」を除き、10%以下を示した項目は、高い順に「7 ボランティア」、「6 実習」、「12 就職活動」、「11 学生自治活動」、「14 専門学校」であった（うち、11、14は0.0%で同じ）。

「医療関係」において50%以上を示した項目は、高い順に「3 学位論文」、「4 研究活動」であった。一方で、「20 その他」を除き、10%以下を示した項目は、高い順に「12 就職活動」、「13 採用資格準備」、「15 レジャー」、「2 PBLに関連する授業」、「7 ボランティア」、「8 留学」、「9 クラブ・サークル」、「10 アルバイト」、「11 学生自治活動」、「14 専門学校」、「16 副専攻」であった（うち、12、13、15は10.0%で同じ、他は0.0%で同じ）。

表 5-9 現在の職種による後輩に重点を置いてほしいと思ったこと（修了生）

	1 大学院の授業		2 PBLに関連する授業		3 学位論文		4 研究活動		5 ゼミ		6 実習	
	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%
公務員	1	14%	0	0%	4	57%	6	86%	300%	43%	1	14%
教職員	6	60%	2	20%	4	40%	7	70%	400%	40%	1	10%
一般企業	15	26%	2	4%	25	44%	49	86%	1300%	23%	6	11%
医療関係	2	20%	0	0%	9	90%	6	60%	200%	20%	3	30%

	7 ボランティア		8 留学		9 クラブ・サークル		10 アルバイト		11 学生自治活動		12 就職活動	
	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%
公務員	0	0%	0	0%	1	14%	0	0%	0	0%	3	43%
教職員	1	10%	2	20%	0	0%	1	10%	0	0%	1	10%
一般企業	3	5%	9	16%	10	18%	12	21%	0	0%	28	49%
医療関係	0	0%	0	0%	1	10%	0	0%	0	0%	1	10%

	13 採用資格準備		14 専門学校		15 レジャー		16 副専攻		17 その他	
	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%	選択者数	%
公務員	0	0%	0%	0%	0	0%	0	0%	0	0%
教職員	1	10%	0%	0%	1	10%	2	20%	1	10%
一般企業	8	14%	0%	0%	11	19%	4	7%	4	7%
医療関係	1	10%	0%	0%	1	10%	0	0%	0	0%

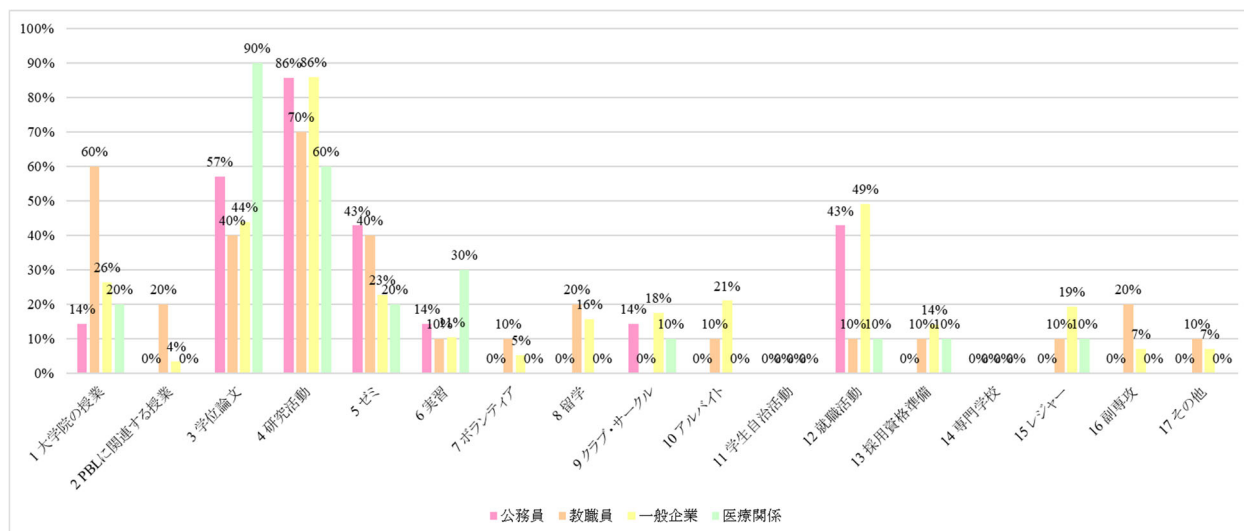


図 5-9 現在の職種による後輩に重点を置いてほしいと思ったことの割合（修了生）

第6章 三重大大学との関わり方

6.1 三重大大学や三重大大学の関係者との関わり方（卒業生）

大学卒業後の三重大大学や三重大大学の関係者との関わり方、大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者について卒業生にたずねた。まず、大学卒業後の三重大大学や三重大大学の関係者との関わり方に関する質問項目では、回答は4つの選択肢の中から1つを選択するように求めた。また、大学の関係者や出身者の中で今後関わることを予想される者に関する質問項目では、7つの選択肢の中から自由に選択するように求めた。全卒業生及び卒業学部別に各項目を選択した人数とその割合を算出した。

6.1.1 三重大大学や三重大大学の関係者との関わり方（全卒業生）

卒業生からの全回答（242名）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。

まず、「三重大大学や三重大大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大大学の卒業生が大学の関係者との関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は3.7%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は39.3%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は56.6%を示した。これらの合計は99.6%であった。こうした結果は、三重大大学の卒業生が大学の関係者との関わることにに対して概ね肯定的に捉えていることを意味する。（cf.表6-1、図6-1）

また、「大学の関係者や出身者の中で今後関わることを予想される者に関する各項目に対しては、「1 卒業研究／論文の指導教員」は41.7%、「2 1以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は12.8%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は74.4%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は51.2%を示した。こうした結果は、教員との関係では、卒業に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先される傾向があることを意味する。出身者同士での関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向があることを意味する。教員との関わり（1と2）、出身者同士での関わり（3と4）の中では、出身者同士での関わりを優先する傾向が強かった。一方、「職員」との関わりは2.1%を示し、関わるものがほとんど予想されていないことが分かった。（cf.表6-2、図6-2）

表 6-1 全卒業生（242名）の三重大大学や三重大大学の関係者との関わり方

	全卒業生 (242名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	9	3.7%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	95	39.3%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	137	56.6%
4 できれば関わりたくない	1	0.4%

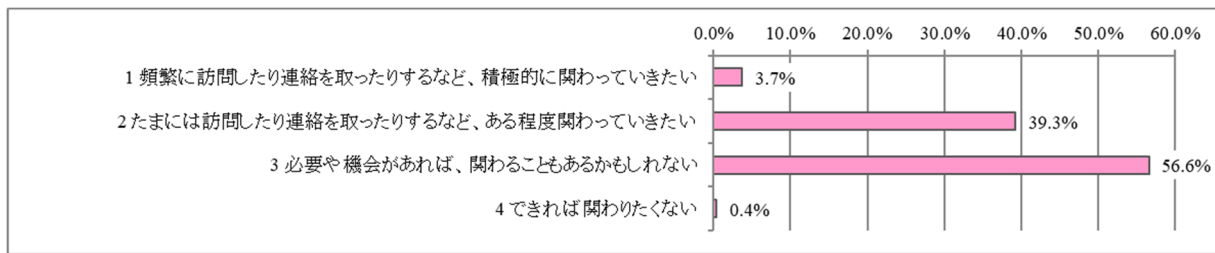


図 6-1 全卒業生（242 名）の三重大大学や三重大大学の関係者との関わり方の割合

表 6-2 全卒業生（242 名）の 大学の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者

	全卒業生 (242名中)	
	人	%
1 卒業研究／論文の指導教員	101	41.7%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	31	12.8%
3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生	180	74.4%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	124	51.2%
5 職員	5	2.1%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	5	2.1%
7 その他	3	1.2%

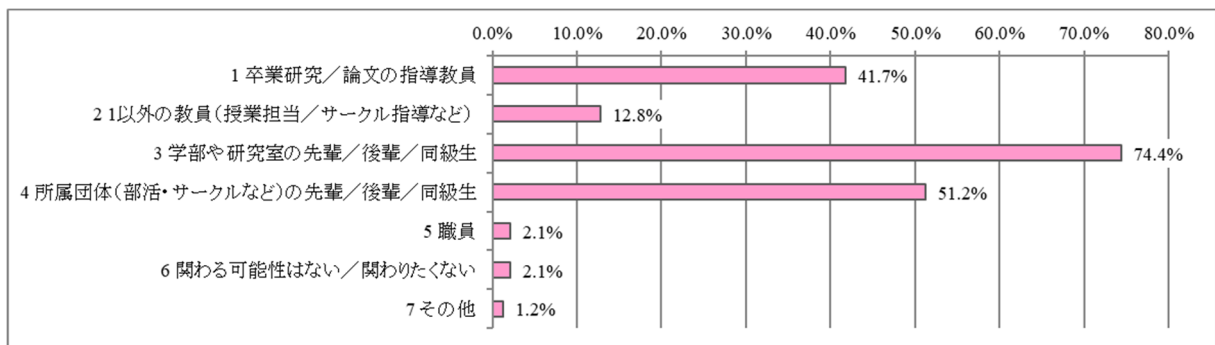


図 6-2 全卒業生（242 名）の 大学の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者の割合

6.1.2 三重大大学や三重大大学の関係者との関わり方（人文学部卒業生）

人文学部の卒業生（49名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。まず、「三重大大学や三重大大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大大学の卒業生が大学の関係者との関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は4.1%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は40.8%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は55.1%を示した。これらの合計は100%であった。こうした結果は、人文学部の卒業生が大学の関係者との関わることに肯定的に捉えていることを意味する。（cf.表 6-3、図 6-3）

また、「大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者に関する各項目に対しては、「1 卒業研究／論文の指導教員」は44.9%、「2 1以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は8.2%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は59.2%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は55.1%を示した。こうした結果は、教員との関係では、卒業に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先される傾向があることを意味する。出身者同士での関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向があったが、それほど大きな差ではなかった。教員との関わり（1と2）、出身者同士での関わり（3と4）の中では、出身者同士での関わりを優先する傾向が強かった。一方、「職員」との関わりは0.0%を示し、関わることが予想されていないことが分かった。（cf.表 6-4、図 6-4）

表 6-3 人文学部の卒業生（49名）の三重大大学や三重大大学の関係者との関わり方

	人文学部卒業生 (49名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	2	4.1%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	20	40.8%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	27	55.1%
4 できれば関わりたくない	0	0.0%

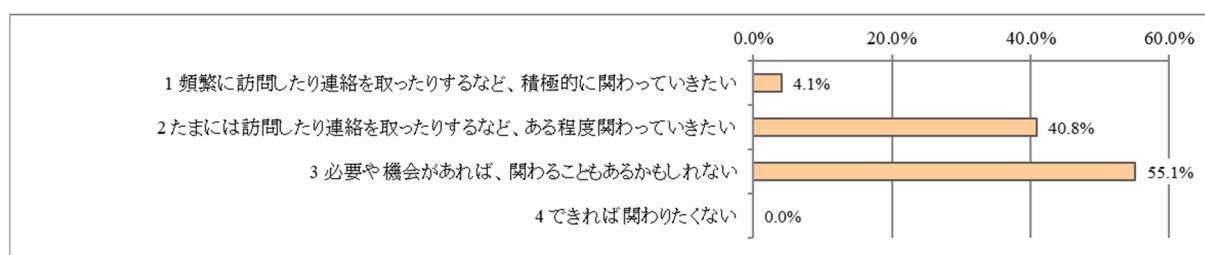


図 6-3 人文学部の卒業生（49名）の三重大大学や三重大大学の関係者との関わり方の割合

表 6-4 人文学部の卒業生（49 名）の 大学の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者

	人文学部卒業生 (49名中)	
	人	%
1 卒業研究／論文の指導教員	22	44.9%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	4	8.2%
3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生	29	59.2%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	27	55.1%
5 職員	0	0.0%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	1	2.0%
7 その他	0	0.0%

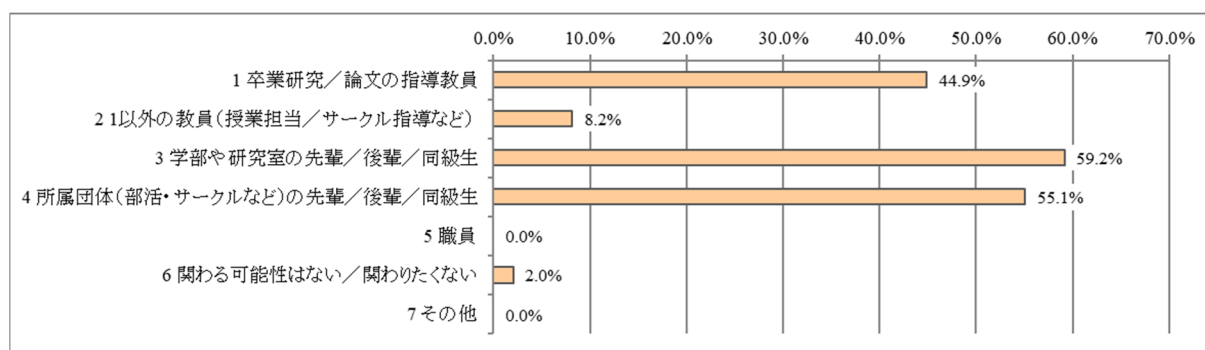


図 6-4 人文学部の卒業生（49 名）の 大学の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者の割合

6.1.3 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（教育学部卒業生）

教育学部の卒業生（43名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。まず、「三重大学や三重大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大学の卒業生が大学の関係者との関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は2.3%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は46.5%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は51.2%を示した。これらの合計は100%であった。こうした結果は、教育学部の卒業生が大学の関係者との関わることに肯定的に捉えていることを意味する。（cf.表 6-5、図 6-5）

また、「大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者に関する各項目に対しては、「1 卒業研究／論文の指導教員」は53.5%、「2 1以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は25.6%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は81.4%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は58.1%を示した。こうした結果は、教員との関係では、卒業に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先される傾向があることを意味する。特徴として、他学部比べて、卒業に直接的な関りがなかった教員（2）に対しても比較的高い割合を示した点が見出された。出身者同士での関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向があったが、それほど大きな差ではなかった。教員との関わり（1と2）、出身者同士での関わり（3と4）の中では、出身者同士での関わりを優先する傾向が強かった。一方、「職員」との関わりは0.0%を示し、関わることが予想されていないことが分かった。（cf.表 6-6、図 6-6）

表 6-5 教育学部の卒業生（43名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方

	教育学部卒業生 (43名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	1	2.3%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	20	46.5%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	22	51.2%
4 できれば関わりたくない	0	0.0%

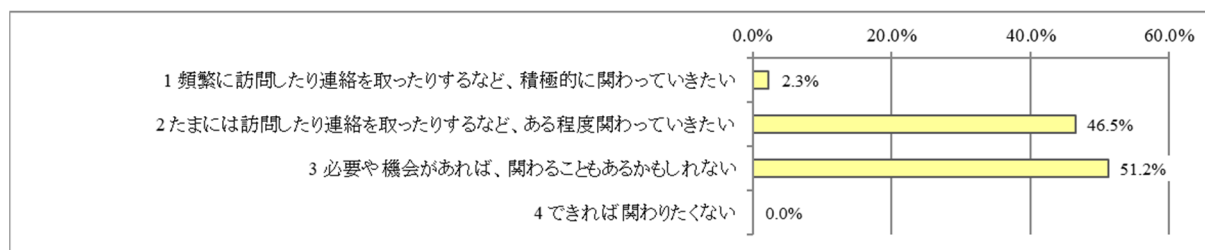


図 6-5 教育学部の卒業生（43名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方の割合

表 6-6 教育学部の卒業生（43 名）の 大学の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者

	教育学部卒業生 (43名中)	
	人	%
1 卒業研究／論文の指導教員	23	53.5%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	11	25.6%
3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生	35	81.4%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	25	58.1%
5 職員	0	0.0%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	2	4.7%
7 その他	0	0.0%

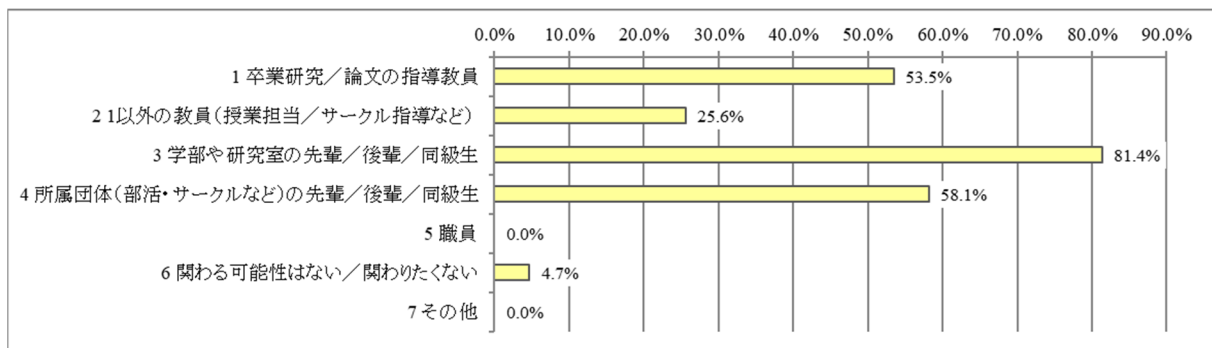


図 6-6 教育学部の卒業生（43 名）の 大学の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者の割合

6.1.4 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（医学部卒業生）

医学部の卒業生（39名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。

まず、「三重大学や三重大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大学の卒業生が大学の関係者との関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は 0.0%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は 43.6%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は 56.4%を示した。これらの合計は 100%であった。こうした結果は、医学部の卒業生が大学の関係者との関わることに肯定的に捉えていることを意味する。

（cf.表 6-7、図 6-7）

また、「大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者に関する各項目に対しては、「1 卒業研究／論文の指導教員」は 33.3%、「2 1 以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は 25.6%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は 79.5%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は 56.4%を示した。こうした結果は、教員との関係では、卒業に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先される傾向があることを意味する。出身者同士での関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向が示された。教員との関わり（1 と 2）、出身者同士での関わり（3 と 4）の中では、出身者同士での関わりを優先する傾向が強かった。一方、「職員」との関わりは 0.0%を示し、関わるのが予想されていないことが分かった。（cf.表 6-8、図 6-8）

表 6-7 医学部の卒業生（39 名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方

	医学部卒業生 (39名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	0	0.0%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	17	43.6%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	22	56.4%
4 できれば関わりたくない	0	0.0%

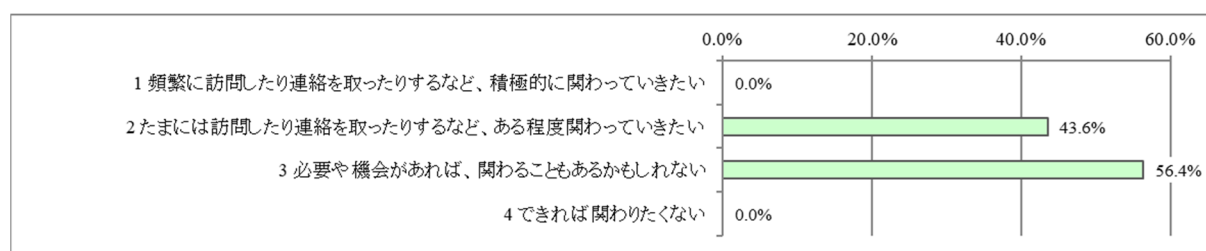


図 6-7 医学部の卒業生（39 名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方の割合

表 6-8 医学部の卒業生（39 名）の 大学の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者

	医学部卒業生 (39名中)	
	人	%
1 卒業研究／論文の指導教員	13	33.3%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	10	25.6%
3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生	31	79.5%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	22	56.4%
5 職員	1	2.6%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	0	0.0%
7 その他	0	0.0%

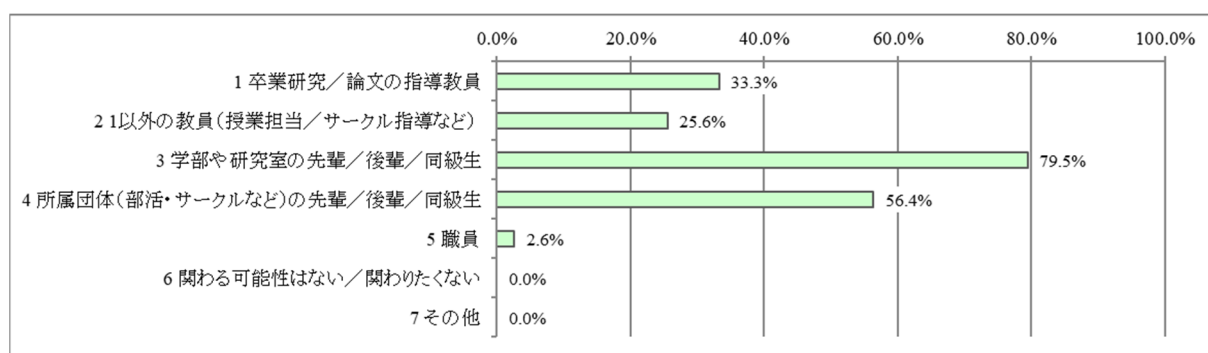


図 6-8 医学部の卒業生（39 名）の 大学の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者の割合

6.1.5 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（工学部卒業生）

工学部の卒業生（49名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。まず、「三重大学や三重大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大学の卒業生が大学の関係者との関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は8.2%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は16.3%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は73.5%を示した。これらの合計は98%であった。こうした結果は、工学部の卒業生が大学の関係者との関わることに肯定的に捉えていることを意味する。

（cf.表 6-9、図 6-9）

また、「大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者に関する各項目に対しては、「1 卒業研究／論文の指導教員」は32.7%、「2 1以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は0.0%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は77.6%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は38.8%を示した。こうした結果は、教員との関係では、卒業に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先される傾向があることを意味する。特徴として、卒業に直接的な関りがなかった教員（2）を選択した割合が0.0%であった。出身者同士での関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向が示された。教員との関わり（1と2）、出身者同士での関わり（3と4）の中では、出身者同士での関わりを優先する傾向が強かった。一方、「職員」との関わりは4.1%を示し、関わるということが予想されていないことが分かった。（cf.表 6-10、図 6-10）

表 6-9 工学部の卒業生（49名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方の割合

	工学部卒業生 (49名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	4	8.2%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	8	16.3%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	36	73.5%
4 できれば関わりたくない	1	2.0%

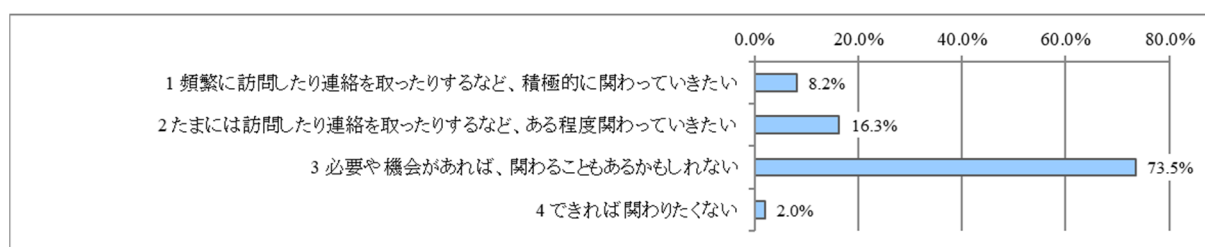


図 6-9 工学部の卒業生（49名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方の割合

表 6-10 工学部の卒業生（49 名）の 大学の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者

	工学部卒業生 (49名中)	
	人	%
1 卒業研究／論文の指導教員	16	32.7%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	0	0.0%
3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生	38	77.6%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	19	38.8%
5 職員	2	4.1%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	1	2.0%
7 その他	1	2.0%

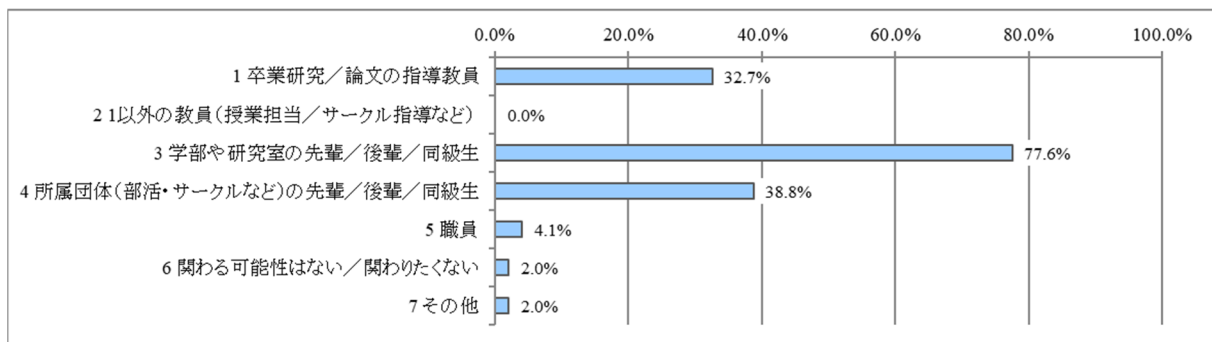


図 6-10 工学部の卒業生（49 名）の 大学の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者の割合

6.1.6 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（生物資源学部卒業生）

生物資源学部の卒業生（60名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。まず、「三重大学や三重大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大学の卒業生が大学の関係者との関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は 3.3%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は 50.0%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は 46.7%を示した。これらの合計は 100%であった。こうした結果は、生物資源学部の卒業生が大学の関係者との関わることに肯定的に捉えていることを意味する。（cf.表 6-11、図 6-11）

また、「大学の関係者や出身者の中で今後関わることが予想される者に関する各項目に対しては、「1 卒業研究／論文の指導教員」は 43.3%、「2 1 以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は 8.3%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は 78.3%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は 50.0%を示した。こうした結果は、教員との関係では、卒業に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先される傾向があることを意味する。出身者同士での関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向が示された。教員との関わり（1 と 2）、出身者同士での関わり（3 と 4）の中では、出身者同士での関わりを優先する傾向が強かった。一方、「職員」との関わりは 3.3%を示し、関わることが予想されていないことが分かった。（cf.表 6-12、図 6-12）

表 6-11 生物資源学部の卒業生（60 名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方

	生物資源学部卒業生 (60名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	2	3.3%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	30	50.0%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	28	46.7%
4 できれば関わりたくない	0	0.0%

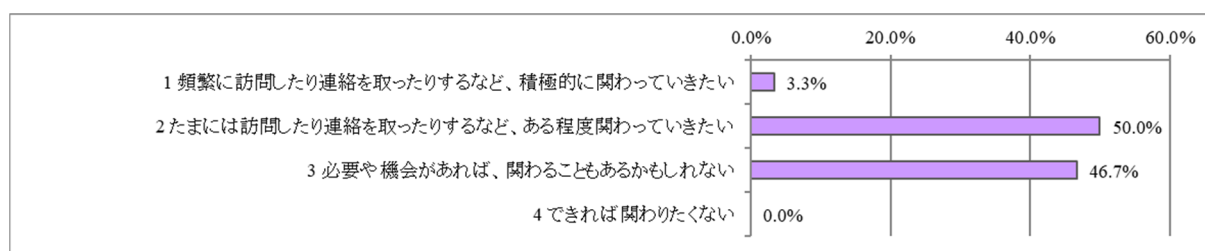


図 6-11 生物資源学部の卒業生（60 名）の三重大学や三重大学の関係者との関わり方の割合

表 6-12 生物資源学部の卒業生（60 名）の 大学の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者

	生物資源学部卒業生 (60名中)	
	人	%
1 卒業研究／論文の指導教員	26	43.3%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	5	8.3%
3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生	47	78.3%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	30	50.0%
5 職員	2	3.3%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	1	1.7%
7 その他	2	3.3%

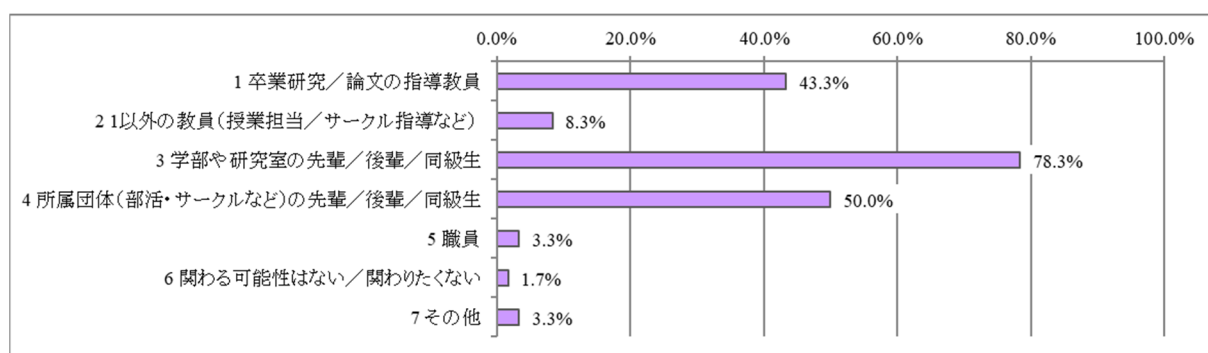


図 6-12 生物資源学部の卒業生（60 名）の 大学の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者の割合

6.2 三重大学や三重大学の関係者との関わり方（修了生）

大学院修了後の三重大学や三重大学の関係者との関わり方、大学院の関係者や出身者の中で今後関わることを予想される者について修了生にたずねた。まず、大学院修了後の三重大学や三重大学の関係者との関わり方に関する質問項目では、回答は4つの選択肢の中から1つを選択するように求めた。また、大学院の関係者や出身者の中で今後関わることを予想される者に関する質問項目では、7つの選択肢の中から自由に選択するように求めた。以下、各項目を選択した人数とその割合を算出した。

全修了生（92名）のうち、各項目を選択した人数とその割合を算出した。

まず、「三重大学や三重大学の関係者との関わり方」に関する質問の中でも、三重大学の卒業生が大学の関係者との関わることを肯定的に捉えていることを示す各項目に対して、「1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい」は14.1%、「2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい」は46.7%、「3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない」は34.8%を示した。これらの合計は95.6%であった。こうした結果は、三重大学の修了生が大学院の関係者との関わることにに対して肯定的に捉えていることを意味する。

（cf.表 6-13、図 6-13）

また、「大学院の関係者や出身者の中で今後関わることを予想される者に関する質問に対しては、「1 学位論文の指導教員」は68.5%、「2 1以外の教員（授業担当／サークル指導など）」は19.6%、「3 学部や研究室の先輩／後輩／同級生」は70.7%、「4 所属団体（部活・サークルなど）の先輩／後輩／同級生」は25.0%を示した。こうした結果は、教員との関係では、修了に直接関わった教員（1）が、それ以外の教員（2）より優先される傾向があることを意味する。出身者同士での関わりでは、正課活動（3）において形成された関係が、正課外活動（4）において形成された関係より優先される傾向が示された。教員との関わり（1と2）、出身者同士での関わり（3と4）の中では、出身者同士での関わりを優先する傾向があった。一方、「職員」との関わりは2.2%を示し、関わることを予想されていないことが分かった。（cf.表 6-14、図 6-14）

表 6-13 全修了生（92名）の三重大学大学院や三重大学大学院の関係者との関わり方

	全修了生 (92名中)	
	人	%
1 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい	13	14.1%
2 たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい	43	46.7%
3 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない	32	34.8%
4 できれば関わりたくない	4	4.3%

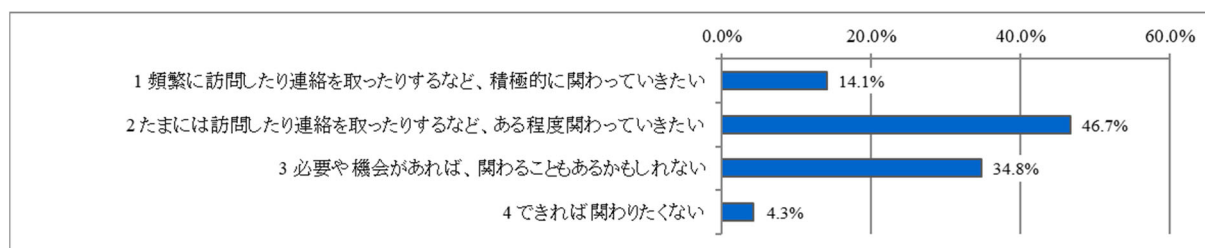


図 6-13 全修了生（92名）の三重大学大学院や三重大学大学院の関係者との関わり方の割合

表 6-14 全修了生（92 名）の 三重大学大学院の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者の

	全修了生 (92名中)	
	人	%
1 学位論文の指導教員	63	68.5%
2 1以外の教員(授業担当／サークル指導など)	18	19.6%
3 研究科や研究室の先輩／後輩／同級生	65	70.7%
4 所属団体(部活・サークルなど)の先輩／後輩／同級生	23	25.0%
5 職員	2	2.2%
6 関わる可能性はない／関わりたくない	3	3.3%
7 その他	1	1.1%

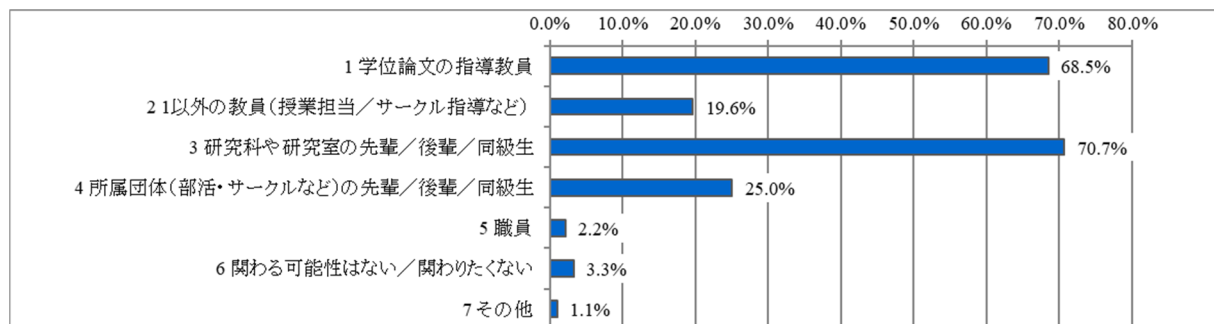


図 6-14 全修了生（92 名）の 三重大学大学院の関係者や出身者の中で
今後関わることが予想される者の割合

第7章 三重大学で学びたいこと

7.1 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（卒業生）

三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいことについて卒業生にたずねた。回答は、8 個の選択肢の中から自由に選択するように求めた。全卒業生及び卒業学部別に各項目を選択した人数とその割合を算出した。

7.1.1 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（全卒業生）

卒業生からの全回答（242 名）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「8 これ以上学びたくない」は 0.8%を示し、ほとんどの卒業生は三重大学で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して 35%以上を示した項目は、高い順に「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」、「3 仕事に役立つスキルの授業（パソコンスキル、資料作成スキルなど）」といったキャリア系の項目であった。三重大学が教育を提供する方法に関する項目（5 と 6）においては、「5（継続した授業ではない）1 回限りの講演会、体験会など」が 19.0%であったことに対し、「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」は 8.3%を示した。

表 7-1 全卒業生（242 名）の 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	全卒業生 (242名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	119	49.2%
2 幅広い教養を学ぶ授業	58	24.0%
3 仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	96	39.7%
4 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	23	9.5%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	46	19.0%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	20	8.3%
7 特に希望はない／思いつかない	37	15.3%
8 これ以上学びたくない	2	0.8%

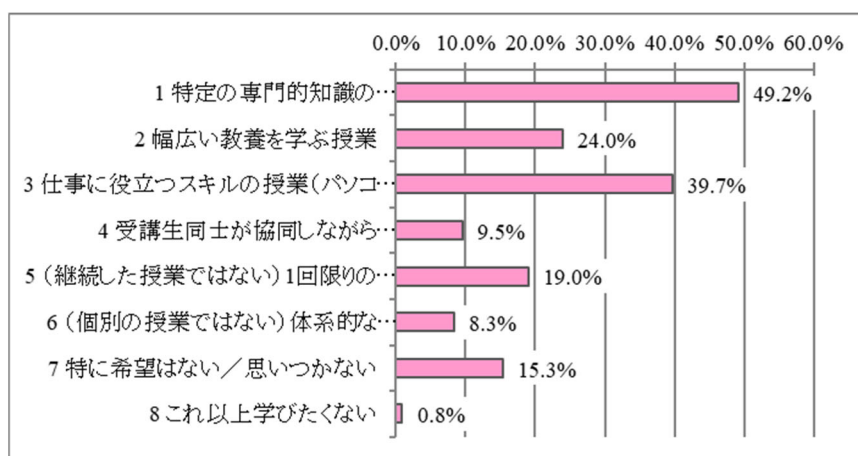


図 7-1 全卒業生（242 名）の 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

7.1.2 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（人文学部卒業生）

人文学部の卒業生（49名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「8 これ以上学びたくない」は0.0%を示し、ほとんどの人文学部の卒業生は三重大学で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して35%以上を示した項目は、高い順に「3 仕事に役立つスキルの授業（パソコンスキル、資料作成スキルなど）」、「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」といったキャリア系の項目と「2 幅広い教養を学ぶ授業」といった教養系の項目であった。三重大学が教育を提供する方法に関する項目（5と6）においては、「5（継続した授業ではない）1回限りの講演会、体験会など」が22.4%であったことに対し、「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」は2.0%を示した。

表 7-2 人文学部の卒業生（49名）の 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	人文学部卒業生 (49名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	23	46.9%
2 幅広い教養を学ぶ授業	19	38.8%
3 仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	26	53.1%
4 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	9	18.4%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	11	22.4%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	1	2.0%
7 特に希望はない／思いつかない	4	8.2%
8 これ以上学びたくない	0	0.0%

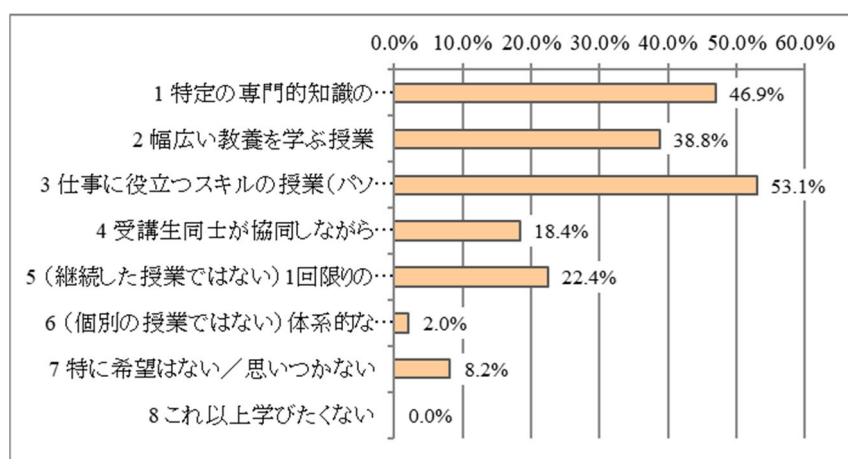


図 7-2 人文学部の卒業生（49名）の 三重大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

7.1.3 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（教育学部卒業生）

教育学部の卒業生（43名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「8 これ以上学びたくない」は0.0%を示し、ほとんどの教育学部の卒業生は三重大で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して35%以上を示した項目は、高い順に「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」、「3 仕事に役立つスキルの授業（パソコンスキル、資料作成スキルなど）」、といったキャリア系の項目であった。三重大が教育を提供する方法に関する項目（5と6）においては、「5（継続した授業ではない）1回限りの講演会、体験会など」が27.9%であったことに対し、「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」は2.3%を示した。

表 7-3 教育学部の卒業生（43名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	教育学部卒業生 (43名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	23	53.5%
2 幅広い教養を学ぶ授業	10	23.3%
3 仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	18	41.9%
4 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	5	11.6%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	12	27.9%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	1	2.3%
7 特に希望はない／思いつかない	5	11.6%
8 これ以上学びたくない	0	0.0%

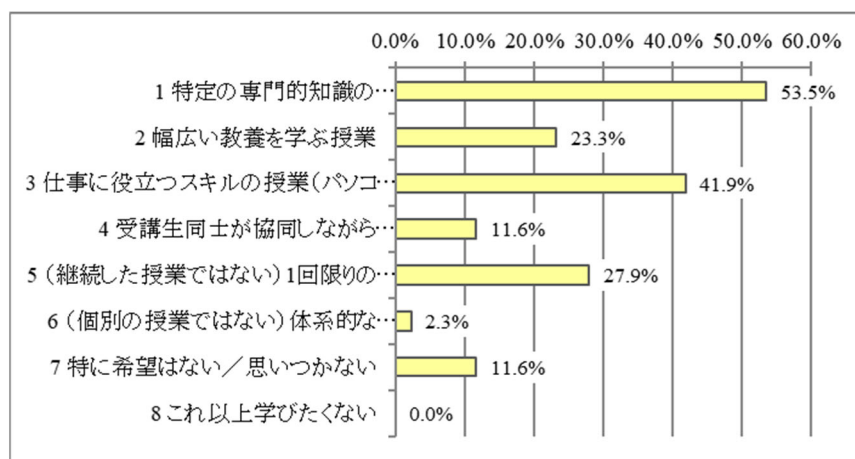


図 7-3 教育学部の卒業生（43名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

7.1.4 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（医学部卒業生）

医学部の卒業生（39名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「8 これ以上学びたくない」は2.6%を示し、ほとんどの医学部の卒業生は三重大で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して35%以上を示した項目は、「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」といったキャリア系の項目であった。三重大が教育を提供する方法に関する項目（5と6）においては、「5（継続した授業ではない）1回限りの講演会、体験会など」が23.1%であったことに対し、「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」は10.3%を示した。

表 7-4 医学部の卒業生（39名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	医学部卒業生 (39名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	18	46.2%
2 幅広い教養を学ぶ授業	10	25.6%
3 仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	9	23.1%
4 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	2	5.1%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	9	23.1%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	4	10.3%
7 特に希望はない／思いつかない	8	20.5%
8 これ以上学びたくない	1	2.6%

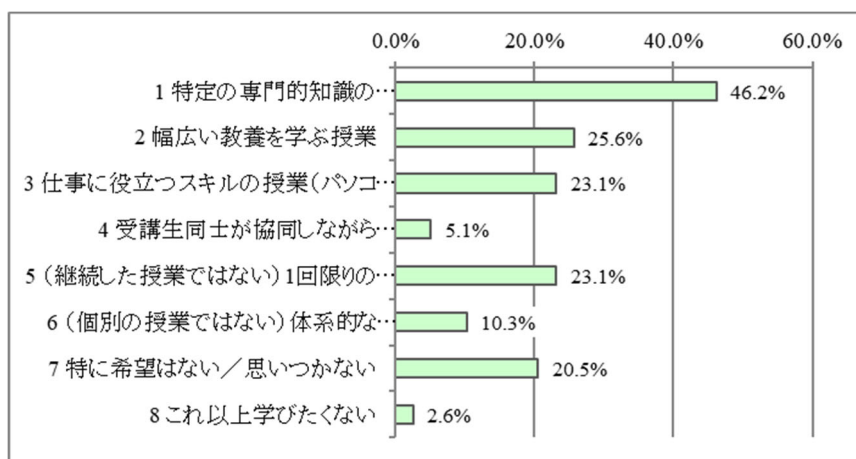


図 7-4 医学部の卒業生（39名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

7.1.5 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（工学部卒業生）

工学部の卒業生（49名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「8 これ以上学びたくない」は2.6%を示し、工学部の卒業生は三重大で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して35%以上を示した項目は、「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」といったキャリア系の項目であった。「3 仕事に役立つスキルの授業（パソコンスキル、資料作成スキルなど）」は35%に若干至らない34.7%を示した。三重大が教育を提供する方法に関する項目（5と6）においては、「5（継続した授業ではない）1回限りの講演会、体験会など」が12.2%であったことに対し、「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」は6.1%を示した。

表 7-5 工学部の卒業生（49名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	工学部卒業生 (49名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	27	55.1%
2 幅広い教養を学ぶ授業	7	14.3%
3 仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	17	34.7%
4 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	3	6.1%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	6	12.2%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	3	6.1%
7 特に希望はない／思いつかない	11	22.4%
8 これ以上学びたくない	0	0.0%

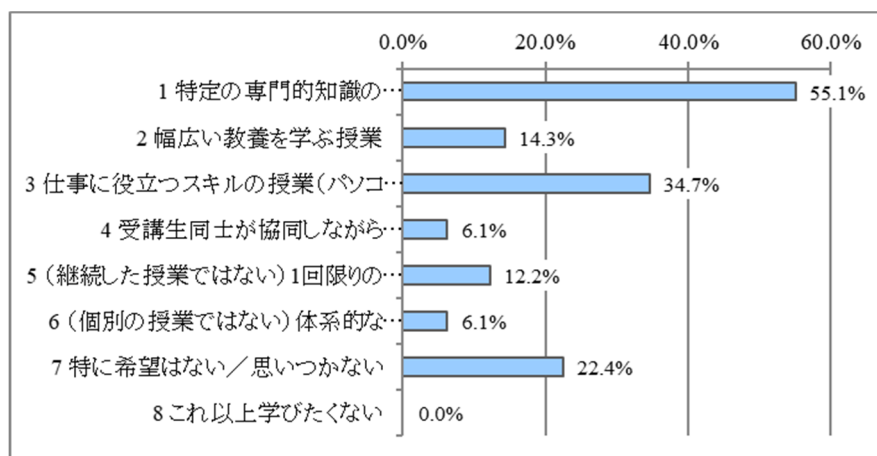


図 7-5 工学部の卒業生（49名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

7.1.6 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（生物資源学部卒業生）

生物資源学部の卒業生（60名）の回答について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、「8 これ以上学びたくない」は 1.7%を示し、ほとんどの生物資源学部の卒業生は三重大で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して 35%以上を示した項目は、高い順に「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」、「3 仕事に役立つスキルの授業（パソコンスキル、資料作成スキルなど）」、といったキャリア系の項目であった。三重大が教育を提供する方法に関する項目（5 と 6）においては、「5（継続した授業ではない）1 回限りの講演会、体験会など」が 13.3%、「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」が 16.7%を示し、ほぼ同格であった。

表 7-6 生物資源学部の卒業生（60 名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	生物資源学部卒業生 (60名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	27	45.0%
2 幅広い教養を学ぶ授業	11	18.3%
3 仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	26	43.3%
4 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	4	6.7%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	8	13.3%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	10	16.7%
7 特に希望はない／思いつかない	9	15.0%
8 これ以上学びたくない	1	1.7%

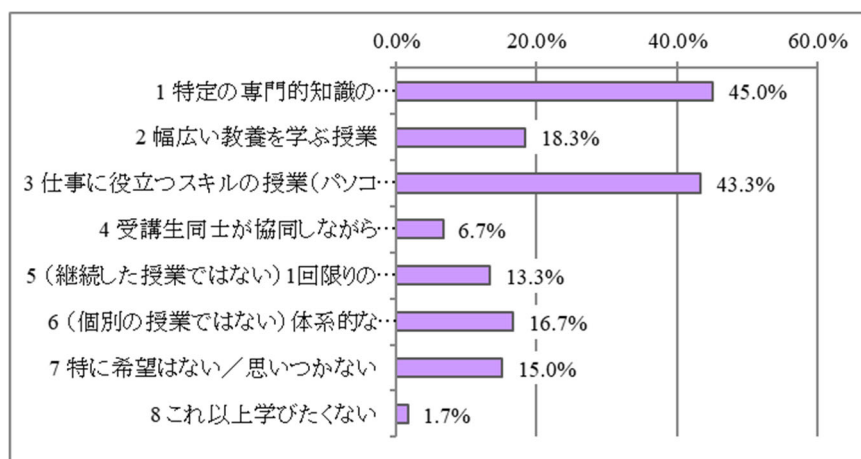


図 7-6 生物資源学部の卒業生（60 名）の 三重大で再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

7.2 三重大大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいこと（修了生）

三重大大学で再び学ぶ機会があれば、学びたいことについて大学院生にたずねた。回答は、8個の選択肢の中から自由に選択するように求めた。以下、各項目を選択した人数とその割合を算出した。

その結果、「8 これ以上学びたくない」は2.2%を示し、ほとんどの修了生は三重大大学、または、三重大大学大学院で再び学ぶことに対して肯定的に捉えていることが分かった。学びたいことに関して35%以上を示した項目は、「1 特定の専門的知識の授業（資格取得など）」であった。特徴として、「4 社会人として協同しながら情報交換できる授業（ワークショップなど）」に対して、全卒業生に関する結果において同項目に対する選択率は9.5%であったことに對し、全修了生に関する結果では27.2%を示した。三重大大学が教育を提供する方法に関する項目（5と6）においては、「5（継続した授業ではない）1回限りの講演会、体験会など」が22.8%であったことに對し、「6（個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程」は10.9%を示した。

表 7-7 全修了生（92名）の 三重大大学、または、三重大大学大学院で
再び学ぶ機会があれば、学びたいこと

	全修了生 (92名中)	
	人	%
1 特定の専門的知識の授業(資格取得など)	45	48.9%
2 幅広い教養を学ぶ授業	19	20.7%
3 社会人として仕事に役立つスキルの授業(パソコンスキル、資料作成スキルなど)	26	28.3%
4 社会人として協同しながら情報交換できる授業(ワークショップなど)	25	27.2%
5 (継続した授業ではない)1回限りの講演会、体験会など	21	22.8%
6 (個別の授業ではない)体系的な社会人向けの大学院課程	10	10.9%
7 特に希望はない／思いつかない	12	13.0%
8 これ以上学びたくない	2	2.2%

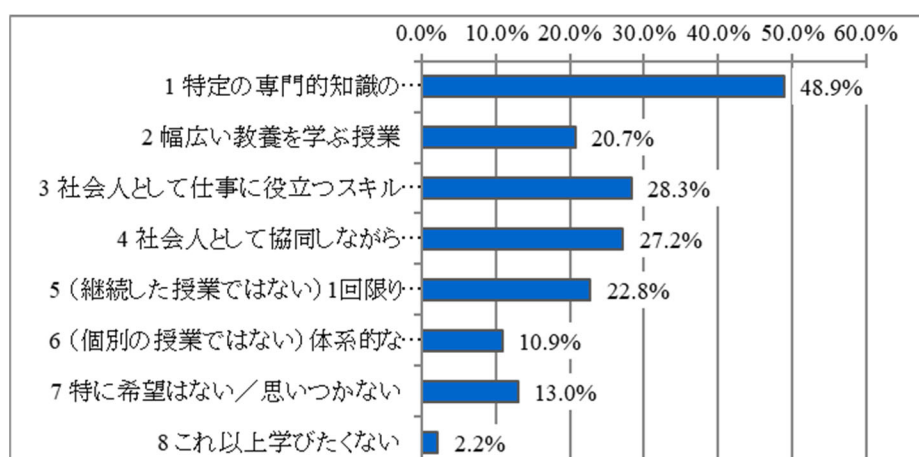


図 7-7 全修了生（92名）の 三重大大学、または、三重大大学大学院で
再び学ぶ機会があれば、学びたいことの割合

第Ⅱ部

事業所

目次

第 1 章 調査の概要と分析対象者について	76
第 2 章 三重大学卒業生と三重大学大学院修了生に対する事業所の評価	78
第 3 章 事業所において重要だと思われる力	87
第 4 章 三重大学の教育において養成することが望ましいと思われる力	94
第 5 章 事業所が新人研修や新人教育で重要視する力	102

第1章 調査の概要と分析対象者について

1.1 調査の概要

1.1.1 調査の目的

三重大学が提供している教養教育・専門教育が、社会のニーズに相応しているかを検討する目的で「三重大学の卒業生（本アンケートでは、「卒業生」という）、もしくは三重大学大学院卒業生（本アンケートでは、「修了生」という）が就職した事業所」を対象に教育満足度や自己評価及び教育ニーズをアンケートした。これらのアンケートの集計結果を三重大学の高等教育の改善にフィードバックしていきたい。

表 1-1 発送と回収について

1.1.2 調査の設計

- (1) 調査対象 令和2年度三重大学卒業生及び修了生が就職した事業所
- (2) 調査時期 令和3年12月から令和4年2月まで
- (3) 調査方法

卒業生／修了生が就職した事業所宛てに、依頼文と卒業生／修了生リスト、調査用紙、返信用封筒を郵送した。卒業生／修了生リストには、その事業所に就職した卒業生／修了生の氏名と在学中に所属していた学部・学科が書かれた。同一事業所に複数名が就職している場合、就職した人数分の調査用紙を封入した。回答後、調査用紙を返信用封筒に入れ、三重大学に返送するよう依頼した。

- (4) 有効回答者数（率） 右表参照。

	（卒業生 事業所 就職先）	（修了生 事業所 就職先）
	アンケート 数	アンケート 数
発送数	958	352
回収数	395	120
回収率(%)	41.2%	34.1%

※同一事業所に卒業生及び修了生が複数就職した場合、人数分のアンケート用紙を封入した。

1.1.3 調査の内容

調査した項目内容を以下に示す。なお、実施した調査用紙は、本報告書の末尾に付録として添付した。

表 1-2 調査内容（卒業生・修了生の就職した事業所対象）

該当する章	質問項目分類	項目数／選択肢数	詳細
第1章	基本事項	2項目	卒業生／修了生が在学時に所属していた学部／研究科、学科／専攻
第2章	卒業生／修了生の4つの力に対する事業所の評価	12項目	卒業生／修了生の力がどの程度身についているかをたずねた。
		5段階評定	選択肢は「身についていない」「わずかが身についている」「少し身についている」「ある程度身についている」「十分身についている」の5つである。加えて、5つの中から選択が難しい場合を想定し、加えて「評価できない」を追加して設けた。
第3章	各事業所において重要だと 思われる力	12個の選択肢の中から 自由に選択	IIで取り上げられた「4つの力」の各要素のうち、事業所において重要と思われるものについてたずねた。
第4章	三重大学の教育に対する ニーズ	12個の選択肢の中から 自由に選択	三重大学の教育を通して要請されることが望ましいと思われる力についてたずねた。
第5章	新人研修や新人教育で重 要視する力	17個の選択肢の中から 4つ選択	事業所が新人研修や新人教育で重要視している力についてたずねた。
第6章	意見と感想	自由記述	三重大学/大学院の教育や卒業生／修了生についての意見と感想をたずねた。

1.2 卒業生／修了生の所属していた学部／研究科

事業所が回答の対象とした卒業生が在学中に所属していた学部、もしくは、修了生が所属していた研究科ごとに回答件数を集計した。卒業学部の区分は、卒業学部ごとの特徴を明らかにするため、「第2章 三重大学卒業生と三重大学大学院修了生に対する事業所の評価」の集計・分析にて用いた。修了研究科の区分は、回答数が少ない研究科があるため研究科別の集計・分析は行わないこととした。

表 1-3 卒業生（評価対象者）が所属していた学部

人 文 学 部	教 育 学 部	医 学 部	工 学 部	生 物 資 源 学 部	所 属 不 明	合 計
86	74	91	76	61	7	395

表 1-4 修了生（評価対象者）が所属していた研究科

合 計	所 属 不 明	地 域 イ ノ ベ ー シ ョ ン 学 研 究 科	生 物 資 源 学 研 究 科	工 学 研 究 科	医 学 系 研 究 科	教 育 学 研 究 科	人 文 社 会 科 学
120	6	2	31	54	14	13	0

第2章 三重大学卒業生と三重大学大学院修了生に対する事業所の評価

2.1 卒業生に対する事業所の評価

卒業生が従事する各事業所に、各卒業生に4つの力がどの程度身についているかを、「身についていない」から「十分身についている」の5段階で回答を求めた（12項目。第Ⅰ部 卒業生と修了生「第3章 三重大学の教育・研究で身についたこと」の項目と共通）。5段階の他に「評価できない」という選択肢を設けた。平均値と標準偏差は「十分身についている」を5点、「ある程度身についている」を4点、「少し身についている」を3点、「わずかが身についている」を2点、「身についていない」を1点として加算して算出した。

2.1.1 事業所の評価（全卒業生）

三重大学卒業生に対する事業所の回答（395件）について、平均値と標準偏差、「評価できない」と回答した件数を算出した。その結果、平均値では、すべての項目において「少し身についている」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についていると認識されていることが分かった。中でも「ある程度身についている」に該当する4.00以上を示した項目は、「2『感じる力』の共感」であった。「12『生きる力』の社会人としての態度・倫理観」、「1『感じる力』の感性」、「11『生きる力』の心身の健康に対する意識」、「4『考える力』の幅広い教養」、「7『コミュニケーション力』の表現力（発表・討論・対話）」は4.00に若干至らない3.90以上を示した（うち、4、7は3.90で同じ）。一方、最も評価が低かった項目は「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」で、平均値は3.33、標準偏差は1.02であった。こうした結果は、ほかの項目に比べて平均値は低いものの、必ずしも「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が身についていないとは言い切れない。しかし、各卒業生の間のばらつきが多いことが示唆された。またこの項目に対して「評価できない」といった回答数は395件中228件で、半数を上回っていることを考慮する必要がある。このことは、実際「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が必要とされる事業所が限られている可能性を示唆する。

表 2-1 全卒業生（395件）に対する事業所の評価

項目	平均値	標準偏差	評価 できない (395件中)
1「感じる力」の感性	3.97	0.83	24
2「感じる力」の共感	4.03	0.83	21
3「感じる力」の主体性	3.89	0.89	19
4「考える力」の幅広い教養	3.90	0.84	18
5「考える力」の専門知識・技術	3.84	0.83	28
6「考える力」の理論的・批判的思考力	3.84	0.90	17
7「コミュニケーション力」の表現力（発表・討論・対話）	3.90	0.94	14
8「コミュニケーション力」のリーダーシップ・フォロワーシップ	3.59	0.98	32
9「コミュニケーション力」の実践外国語力	3.33	1.02	228
10「生きる力」の問題発見・解決力	3.72	0.90	33
11「生きる力」の心身の健康に対する意識	3.91	0.85	29
12「生きる力」の社会人としての態度・倫理観	3.98	0.95	17

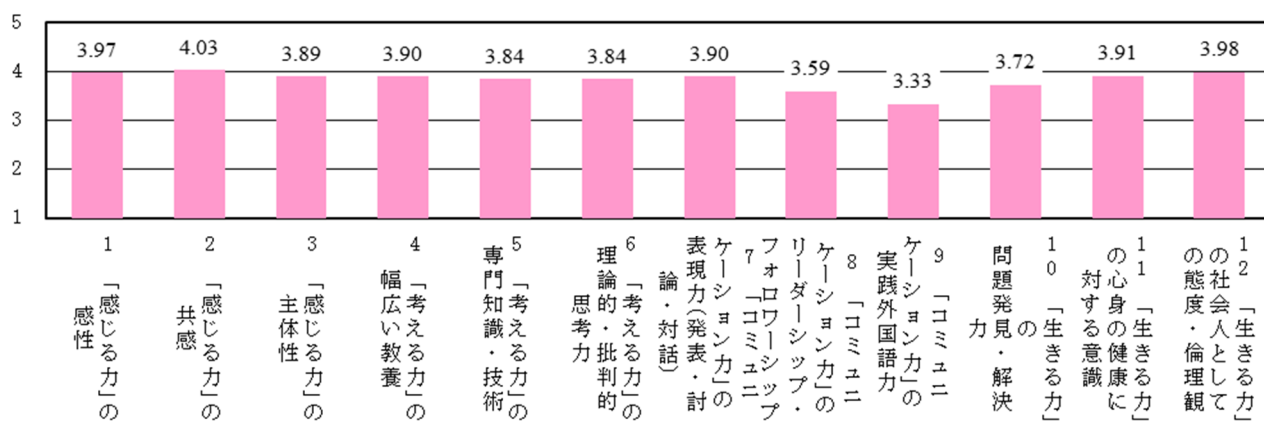


図 2-1 全卒業生（395 件）に対する事業所の評価の平均値

2.1.2 事業所の評価（人文学部卒業生）

三重大学卒業生のうち、人文学部卒業生に対する事業所の回答（86件）について、平均値と標準偏差、「評価できない」と回答した件数を算出した。その結果、平均値では、すべての項目において「少し身についている」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についていると認識されていることが分かった。中でも「ある程度身についている」に該当する4.00以上を示した項目は、高い順に「2『感じる力』の共感」、「12『生きる力』の社会人としての態度・倫理観」、「1『感じる力』の感性」であった。「4『考える力』の幅広い教養」、「3『感じる力』の主体性」は、各々4.00に若干至らない、3.92、3.90を示した。一方、最も評価が低かった項目は「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」で、平均値は3.23、標準偏差は1.09であった。こうした結果は、ほかの項目に比べて平均値は低いものの、必ずしも「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が身についていないとは言いきれない。しかし、各卒業生の間のばらつきが多いことが示唆された。

表 2-2 人文学部の卒業生（86件）に対する事業所の評価

項目	平均値	標準偏差	評価 できない (86件中)
1「感じる力」の感性	4.00	0.88	6
2「感じる力」の共感	4.17	0.83	0
3「感じる力」の主体性	3.90	0.91	0
4「考える力」の幅広い教養	3.92	0.92	0
5「考える力」の専門知識・技術	3.78	0.95	0
6「考える力」の理論的・批判的思考力	3.88	0.88	0
7「コミュニケーション力」の表現力(発表・討論・対話)	3.88	1.02	0
8「コミュニケーション力」のリーダーシップ・フォロワーシップ	3.56	0.96	0
9「コミュニケーション力」の実践外国語力	3.23	1.09	3
10「生きる力」の問題発見・解決力	3.72	0.88	0
11「生きる力」の心身の健康に対する意識	3.86	0.83	0
12「生きる力」の社会人としての態度・倫理観	4.06	0.93	0

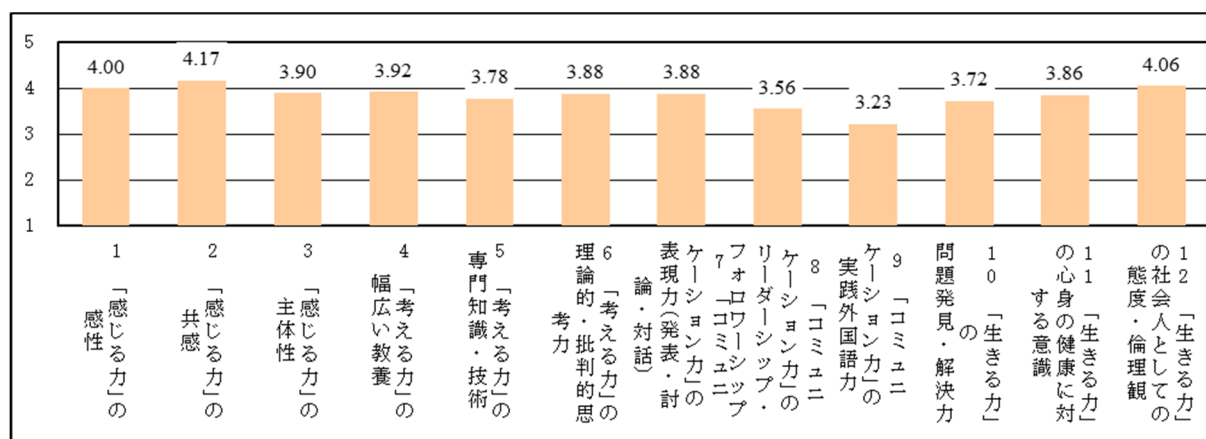


図 2-2 人文学部の卒業生（86件）に対する事業所の評価の平均値

2.1.3 事業所の評価（教育学部卒業生）

三重大学卒業生のうち、教育学部卒業生に対する事業所の回答（74件）について、平均値と標準偏差、「評価できない」と回答した件数を算出した。その結果、平均値では、すべての項目において「少し身についている」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についていると認識されていることが分かった。中では「ある程度身についている」に該当する4.00以上を示した項目はなかったが、「2『感じる力』の共感」は4.00に若干至らない、3.95を示した。一方、最も評価が低かった項目は「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」で、平均値は3.16、標準偏差は1.01であった。こうした結果は、ほかの項目に比べて平均値は低いものの、必ずしも「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が身についていないとは言いきれない。しかし、各卒業生の間のばらつきが多いことが示唆された。またこの項目に対して「評価できない」といった回答数は74件中11件であったことを考慮する必要がある。このことは、実際「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が必要とされる事業所が限られている可能性を示唆する。

表 2-3 教育学部の卒業生（74件）に対する事業所の評価

項目	平均値	標準偏差	評価 できない (74件中)
1「感じる力」の感性	3.8	0.91	0
2「感じる力」の共感	3.95	0.87	0
3「感じる力」の主体性	3.80	0.98	0
4「考える力」の幅広い教養	3.85	0.84	1
5「考える力」の専門知識・技術	3.74	0.83	0
6「考える力」の理論的・批判的思考力	3.68	0.93	0
7「コミュニケーション力」の表現力（発表・討論・対話）	3.77	1.04	0
8「コミュニケーション力」のリーダーシップ・フォロワーシップ	3.53	1.06	1
9「コミュニケーション力」の実践外国語力	3.16	1.01	11
10「生きる力」の問題発見・解決力	3.54	0.98	0
11「生きる力」の心身の健康に対する意識	3.84	0.98	0
12「生きる力」の社会人としての態度・倫理観	3.89	1.08	0

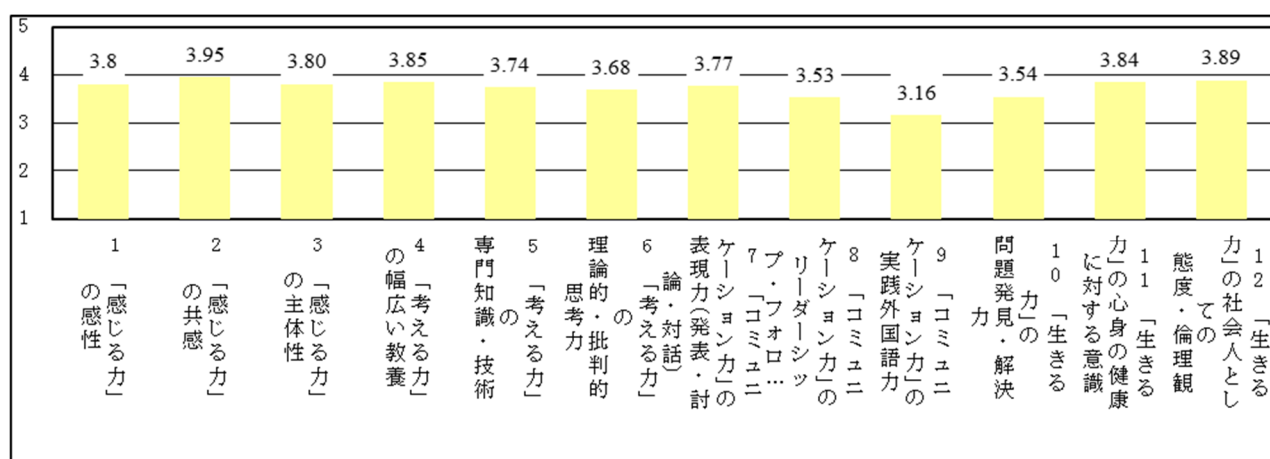


図 2-3 教育学部の卒業生（74件）に対する事業所の評価の平均値

2.1.4 事業所の評価（医学部卒業生）

三重大学卒業生のうち、医学部卒業生に対する事業所の回答（91件）について、平均値と標準偏差、「評価できない」と回答した件数を算出した。その結果、平均値では、すべての項目において「少し身についている」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についていると認識されていることが分かった。中では「ある程度身についている」に該当する4.00以上を示した項目はなかったが、「1『感じる力』の感性」、「2『感じる力』の共感」は各々4.00に若干至らない3.86を示した。一方、最も評価が低かった項目は「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」で、平均値は3.39、標準偏差は0.90であった。こうした結果は、ほかの項目に比べて平均値は低いものの、必ずしも「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が身についていないとは言い切れない。しかし、各卒業生の間のばらつきが多いことが示唆された。またこの項目に対して「評価できない」といった回答数は91件中41件で、半数を若干下回っていることを考慮する必要がある。このことは、実際「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が必要とされる事業所が限られている可能性を示唆する。

表 2-4 医学部の卒業生（91件）に対する事業所の評価

項目	平均値	標準偏差	評価 できない (91件中)
1「感じる力」の感性	3.86	0.78	2
2「感じる力」の共感	3.86	0.81	0
3「感じる力」の主体性	3.78	0.82	2
4「考える力」の幅広い教養	3.77	0.75	0
5「考える力」の専門知識・技術	3.74	0.78	3
6「考える力」の理論的・批判的思考力	3.64	0.79	1
7「コミュニケーション力」の表現力（発表・討論・対話）	3.80	0.82	1
8「コミュニケーション力」のリーダーシップ・フォロワーシップ	3.56	0.88	7
9「コミュニケーション力」の実践外国語力	3.39	0.90	41
10「生きる力」の問題発見・解決力	3.67	0.86	6
11「生きる力」の心身の健康に対する意識	3.85	0.78	1
12「生きる力」の社会人としての態度・倫理観	3.84	0.89	0

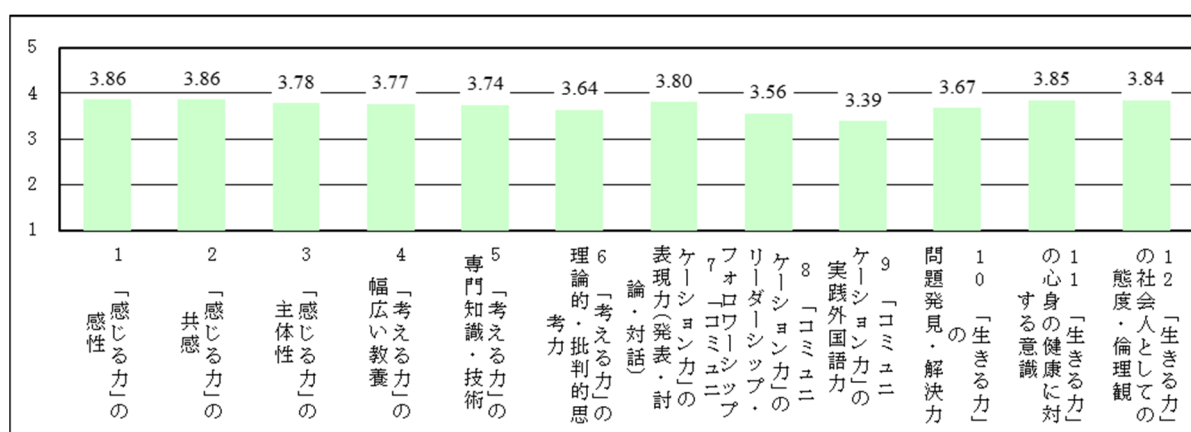


図 2-4 医学部の卒業生（91件）に対する事業所の評価の平均値

2.1.5 事業所の評価（工学部卒業生）

三重大学卒業生のうち、工学部卒業生に対する事業所の回答（76件）について、平均値と標準偏差、「評価できない」と回答した件数を算出した。その結果、平均値では、すべての項目において「少し身についている」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についていると認識されていることが分かった。中でも「ある程度身についている」に該当する4.00以上を示した項目は、高い順に「1『感じる力』の感性」、「2『感じる力』の共感」、「7『コミュニケーション力』の表現力（発表・討論・対話）」、「3『感じる力』の主体性」、「4『考える力』の幅広い教養」、「12『生きる力』の社会人としての態度・倫理観」、「6『考える力』の理論的・批判的思考力」、「5『考える力』の専門知識・技術」、「11『生きる力』の心身の健康に対する意識」であった（うち、3、4、12は4.11で同じ）。「10『生きる力』の問題発見・解決力」は4.00に若干至らない3.97を示した。つまり、「8『コミュニケーション力』のリーダーシップ・フォロワーシップ」、「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」を除いたすべての項目が4.00以上か、4.00を若干下回った。一方、最も評価が低かった項目は「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」で、平均値は3.44、標準偏差は1.10であった。こうした結果は、ほかの項目に比べて平均値は低いものの、必ずしも「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が身についていないとは言い切れない。しかし、各卒業生の間のばらつきが多いことが示唆された。またこの項目に対して「評価できない」といった回答数は76件中35件で、半数を若干下回っていることを考慮する必要がある。このことは、実際「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が必要とされる事業所が限られている可能性を示唆する。

表 2-5 工学部の卒業生（76件）に対する事業所の評価

項目	平均値	標準偏差	評価 できない (76件中)
1「感じる力」の感性	4.24	0.77	6
2「感じる力」の共感	4.23	0.76	5
3「感じる力」の主体性	4.11	0.84	4
4「考える力」の幅広い教養	4.11	0.79	5
5「考える力」の専門知識・技術	4.07	0.78	5
6「考える力」の理論的・批判的思考力	4.10	0.86	4
7「コミュニケーション力」の表現力（発表・討論・対話）	4.21	0.75	4
8「コミュニケーション力」のリーダーシップ・フォロワーシップ	3.73	1.00	5
9「コミュニケーション力」の実践外国語力	3.44	1.10	35
10「生きる力」の問題発見・解決力	3.97	0.86	7
11「生きる力」の心身の健康に対する意識	4.04	0.87	7
12「生きる力」の社会人としての態度・倫理観	4.11	0.90	5

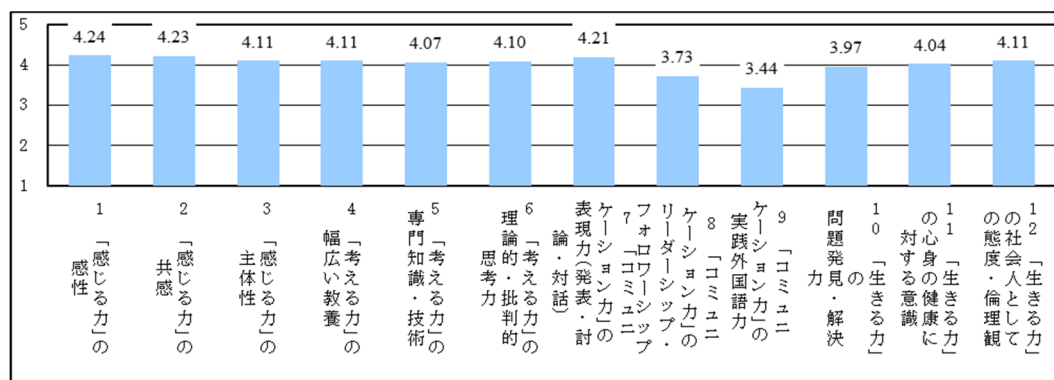


図 2-5 工学部の卒業生（76件）に対する事業所の評価の平均値

2.1.6 事業所の評価（生物資源学部卒業生）

三重大学卒業生のうち、生物資源学部卒業生に対する事業所の回答（61件）について、平均値と標準偏差、「評価できない」と回答した件数を算出した。その結果、平均値では、すべての項目において「少し身についている」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についていると認識されていることが分かった。中では「ある程度身についている」に該当する4.00以上を示した項目は、高い順に「12『生きる力』の社会人としての態度・倫理観」、「11『生きる力』の心身の健康に対する意識」であった。「2『感じる力』の共感」、「6『考える力』の理論的・批判的思考力」、「1『感じる力』の感性」、「5『考える力』の専門知識・技術」は4.00に若干至らない3.90以上を示した。一方、最も評価が低かった項目は「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」で、平均値は3.48、標準偏差は1.08であった。こうした結果は、ほかの項目に比べて平均値は低いものの、必ずしも「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が身についていないとは言いきれない。しかし、各卒業生の間のばらつきが多いことが示唆された。またこの項目に対して「評価できない」といった回答数は61件中37件で、半数を上回っていることを考慮する必要がある。このことは、実際「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が必要とされる事業所が限られている可能性を示唆する。

表 2-6 生物資源学部の卒業生（61件）に対する事業所の評価

項目	平均値	標準偏差	評価 できない (61件中)
1「感じる力」の感性	3.96	0.73	5
2「感じる力」の共感	3.98	0.86	0
3「感じる力」の主体性	3.89	0.91	1
4「考える力」の幅広い教養	3.89	0.88	0
5「考える力」の専門知識・技術	3.94	0.71	2
6「考える力」の理論的・批判的思考力	3.98	0.97	1
7「コミュニケーション力」の表現力（発表・討論・対話）	3.84	1.03	1
8「コミュニケーション力」のリーダーシップ・フォロワーシップ	3.57	1.02	4
9「コミュニケーション力」の実践外国語力	3.48	1.08	37
10「生きる力」の問題発見・解決力	3.71	0.90	6
11「生きる力」の心身の健康に対する意識	4.02	0.80	1
12「生きる力」の社会人としての態度・倫理観	4.05	0.92	0

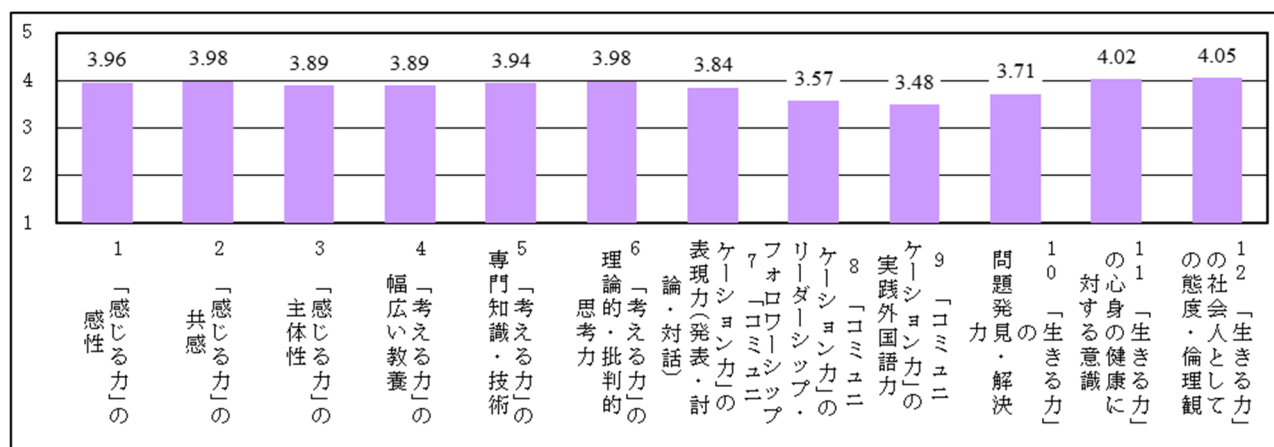


図 2-6 生物資源学部の卒業生（61件）に対する事業所の評価の平均値

2.2 修了生に対する事業所の評価

修了生が従事する各事業所に、各修了生に4つの力がどの程度身についているかを、「身についていない」から「十分身についている」の5段階で回答を求めた（12項目。第1部 卒業生と修了生「第3章 三重大の教育・研究で身についたこと」の項目と共通）。5段階の他に「評価できない」という選択肢を設けた。平均値と標準偏差は「十分身についている」を5点、「ある程度身についている」を4点、「少し身についている」を3点、「わずかが身についている」を2点、「身についていない」を1点として加点して算出した。以下、修了生に対する事業所の回答（120件）について、平均値と標準偏差、「評価できない」と回答した件数を算出した。

その結果、平均値では、すべての項目において「少し身についている」に該当する3.00以上が示され、総じて4つの力が身についていると認識されていることが分かった。中では「ある程度身についている」に該当する4.00以上を示した項目は、高い順に「12『生きる力』の社会人としての態度・倫理観」、「5『考える力』の専門知識・技術」、「1『感じる力』の感性」、「7『コミュニケーション力』の表現力（発表・討論・対話）」、「11『生きる力』の心身の健康に対する意識」、「4『考える力』の幅広い教養」、「6『考える力』の理論的・批判的思考力」、「2『感じる力』の共感」、「3『感じる力』の主体性」、「10『生きる力』の問題発見・解決力」であった。「8『コミュニケーション力』のリーダーシップ・フォロワーシップ」は4.00に若干至らない3.96を示した。つまり、「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」を除いたすべての項目が4.00以上か、4.00を若干下回った。一方、最も評価が低かった項目は「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」で、平均値は3.59、標準偏差は1.10であった。こうした結果は、ほかの項目に比べて平均値は低いものの、必ずしも「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が身についていないとは言い切れない。しかし、各卒業生の間のばらつきが多いことが示唆された。またこの項目に対して「評価できない」といった回答数は120件中38件で、約3分の一を占めていることを考慮する必要がある。このことは、実際「9『コミュニケーション力』の実践外国語力」が必要とされる事業所が限られている可能性を示唆する。

表 2-7 全修了生（120件）に対する事業所の評価

項目	平均値	標準偏差	評価 できない (120件中)
1「感じる力」の感性	4.23	0.67	5
2「感じる力」の共感	4.15	0.72	4
3「感じる力」の主体性	4.12	0.83	4
4「考える力」の幅広い教養	4.17	0.80	3
5「考える力」の専門知識・技術	4.24	0.78	3
6「考える力」の理論的・批判的思考力	4.16	0.79	2
7「コミュニケーション力」の表現力（発表・討論・対話）	4.21	0.74	3
8「コミュニケーション力」のリーダーシップ・フォロワーシップ	3.96	0.87	8
9「コミュニケーション力」の実践外国語力	3.59	1.10	38
10「生きる力」の問題発見・解決力	4.06	0.79	8
11「生きる力」の心身の健康に対する意識	4.21	0.70	6
12「生きる力」の社会人としての態度・倫理観	4.32	0.71	4

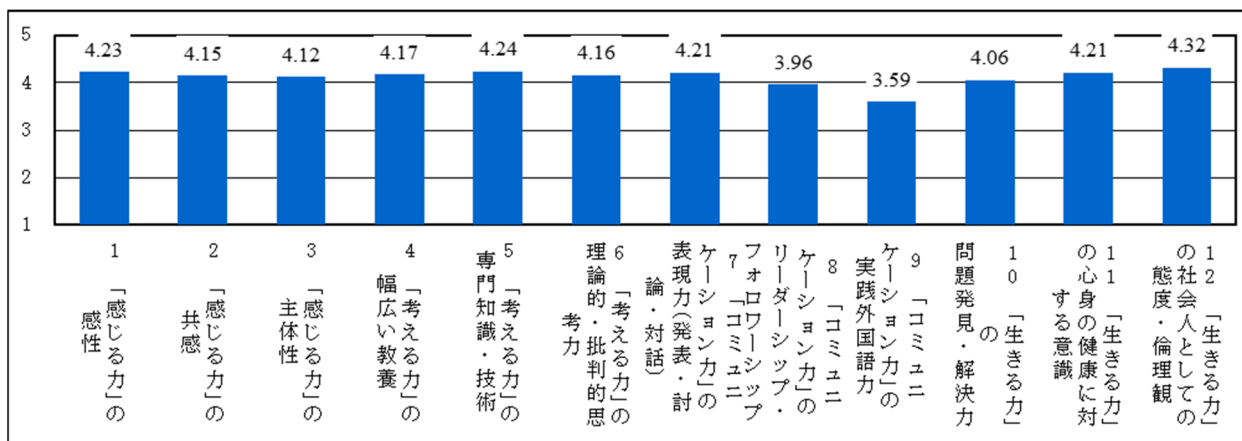


図 2-7 全修了生（120 件）に対する事業所の評価の平均値

第3章 事業所において重要だと思われる力

3.1 事業所において重要だと思われる力（卒業生）

各事業所において重要だと思われる力をたずねた。回答は、12個の選択肢の中から、自由に選択するように求めた。全卒業生及び卒業学部別に各項目を選択した人数とその割合を算出した。

3.1.1 事業所において重要だと思われる力（全卒業生）

三重大学卒業生が従事する事業所の回答（395件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「3 主体性」、「12 社会人としての態度・倫理観」、「10 問題発見・解決力」、「7 表現力（発表・討論・対話）」、「2 共感」などであった。一方、選択率が最も低かった項目は「9 実践外国語力」であった。同選択肢の選択率は8.6%で、次に選択率が低かった「4 幅広い教養」とは31.1%の差を示した。

表 3-1 全事業所（395 件）において重要だと思われる力

項目	人数	%
1 感性	167	42.3%
2 共感	216	54.7%
3 主体性	307	77.7%
4 幅広い教養	157	39.7%
5 専門知識・技術	200	50.6%
6 理論的・批判的思考力	204	51.6%
7 表現力（発表・討論・対話）	257	65.1%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ	210	53.2%
9 実践外国語力	34	8.6%
10 問題発見・解決力	288	72.9%
11 心身の健康に対する意識	192	48.6%
12 社会人としての態度・倫理観	302	76.5%

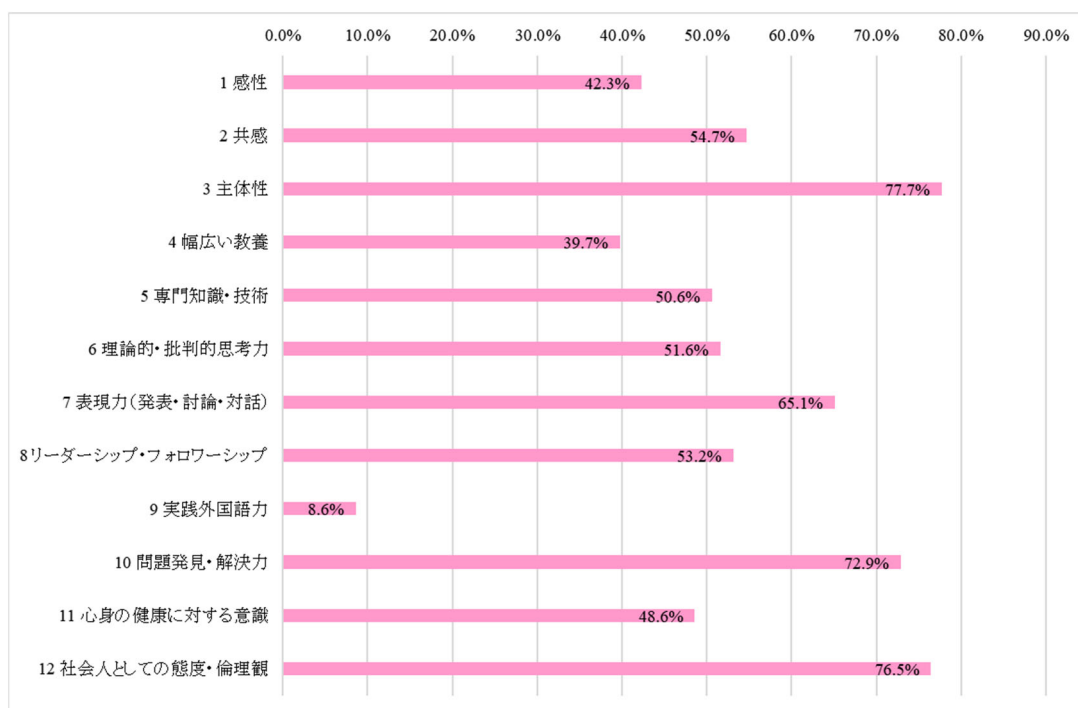


図 3-1 全事業所（395 件）において重要だと思われる力の選択率

3.1.2 事業所において重要だと思われる力（人文学部卒業生）

人文学部卒業生が従事する事業所の回答（86件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「10 問題発見・解決力」、「3 主体性」、「12 社会人としての態度・倫理観」、「7 表現力（発表・討論・対話）」、「2 共感」などであった。一方、選択率が最も低かった項目は「9 実践外国語力」であった。同選択肢の選択率は3.5%で、次に選択率が低かった「5 専門知識・技術」とは26.7%の差を示した。

表 3-2 人文学部卒業生が従事する事業所（86件）において重要だと思われる力

項目	人数	%
1 感性	31	36.0%
2 共感	49	57.0%
3 主体性	71	82.6%
4 幅広い教養	31	36.0%
5 専門知識・技術	26	30.2%
6 理論的・批判的思考力	43	50.0%
7 表現力（発表・討論・対話）	52	60.5%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ	43	50.0%
9 実践外国語力	3	3.5%
10 問題発見・解決力	74	86.0%
11 心身の健康に対する意識	41	47.7%
12 社会人としての態度・倫理観	66	76.7%

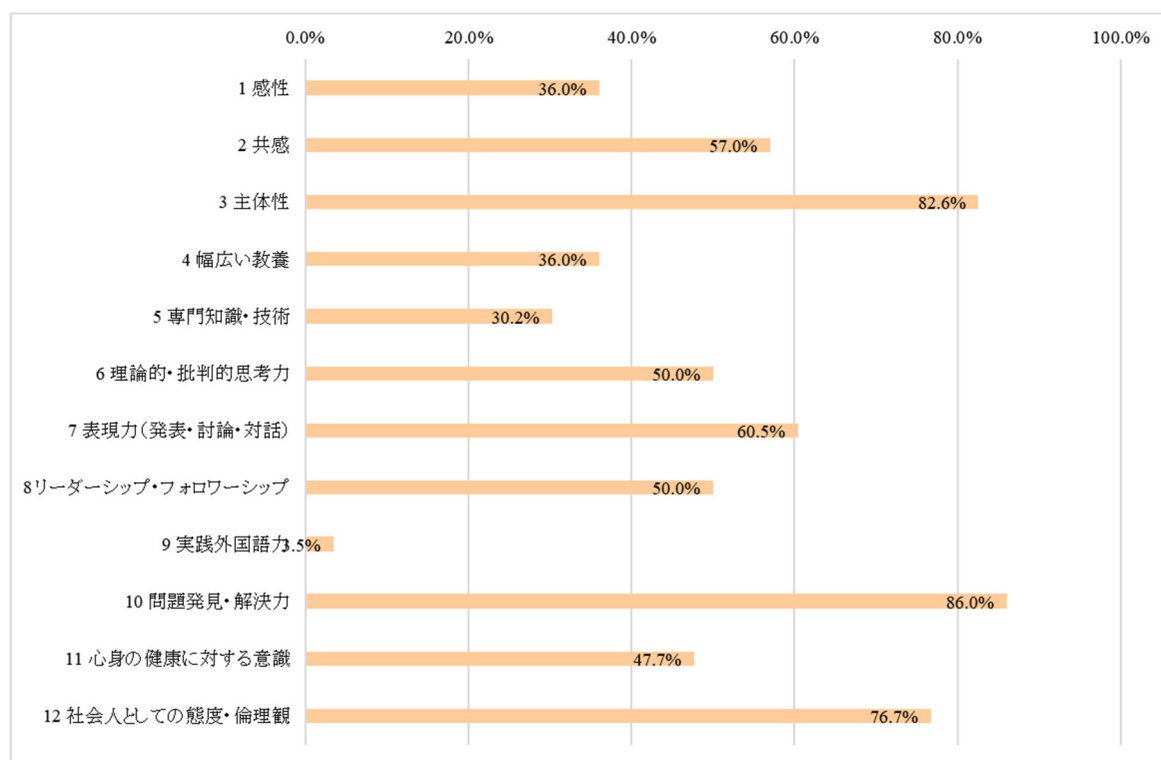


図 3-2 人文学部卒業生が従事する事業所（86件）において重要だと思われる力の選択率

3.1.3 事業所において重要だと思われる力（教育学部卒業生）

教育学部卒業生が従事する事業所の回答（74 件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「2 共感」、「1 感性」、「3 主体性」、「6 理論的・批判的思考力」、「10 問題発見・解決力」などであった。一方、選択率が最も低かった項目は「12 社会人としての態度・倫理観」であった。同選択肢の選択率は14.9%で、次に選択率が低かった「9 実践外国語力」とは21.6%の差を示した。

表 3-3 教育学部卒業生が従事する事業所（74 件）において重要だと思われる力

項目	人数	%
1 感性	70	94.6%
2 共感	71	95.9%
3 主体性	70	94.6%
4 幅広い教養	43	58.1%
5 専門知識・技術	49	66.2%
6 理論的・批判的思考力	59	79.7%
7 表現力（発表・討論・対話）	33	44.6%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ	38	51.4%
9 実践外国語力	27	36.5%
10 問題発見・解決力	54	73.0%
11 心身の健康に対する意識	32	43.2%
12 社会人としての態度・倫理観	11	14.9%

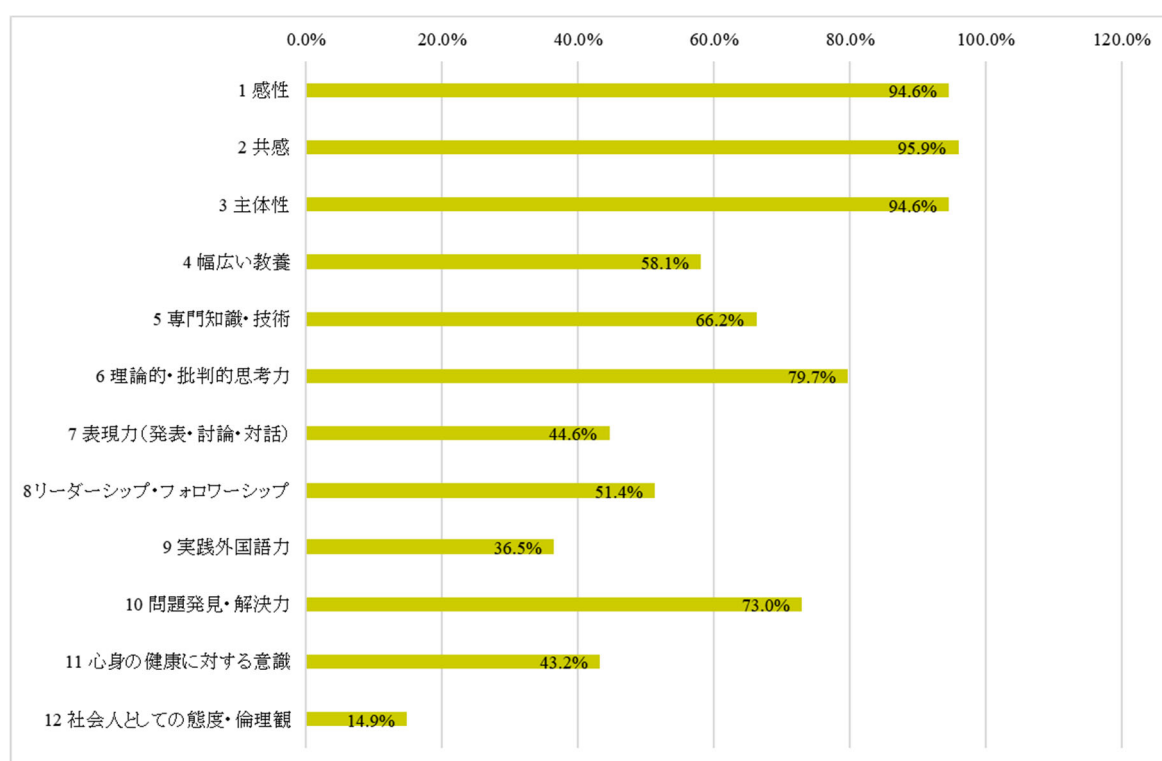


図 3-3 教育学部卒業生が従事する事業所（74 件）において重要だと思われる力の選択率

3.1.4 事業所において重要だと思われる力（医学部卒業生）

医学部卒業生が従事する事業所の回答（91件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「12 社会人としての態度・倫理観」、「5 専門知識・技術」、「3 主体性」、「2 共感」、「7 表現力（発表・討論・対話）」などであった。一方、選択率が最も低かった項目は「9 実践外国語力」であった。同選択肢の選択率は12.1%で、次に選択率が低かった「1 感性」とは37.4%の差を示した。

表 3-4 医学部卒業生が従事する事業所（91件）において重要だと思われる力

項目	人数	%
1 感性	45	49.5%
2 共感	61	67.0%
3 主体性	65	71.4%
4 幅広い教養	49	53.8%
5 専門知識・技術	68	74.7%
6 理論的・批判的思考力	47	51.6%
7 表現力（発表・討論・対話）	60	65.9%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ	54	59.3%
9 実践外国語力	11	12.1%
10 問題発見・解決力	57	62.6%
11 心身の健康に対する意識	56	61.5%
12 社会人としての態度・倫理観	82	90.1%

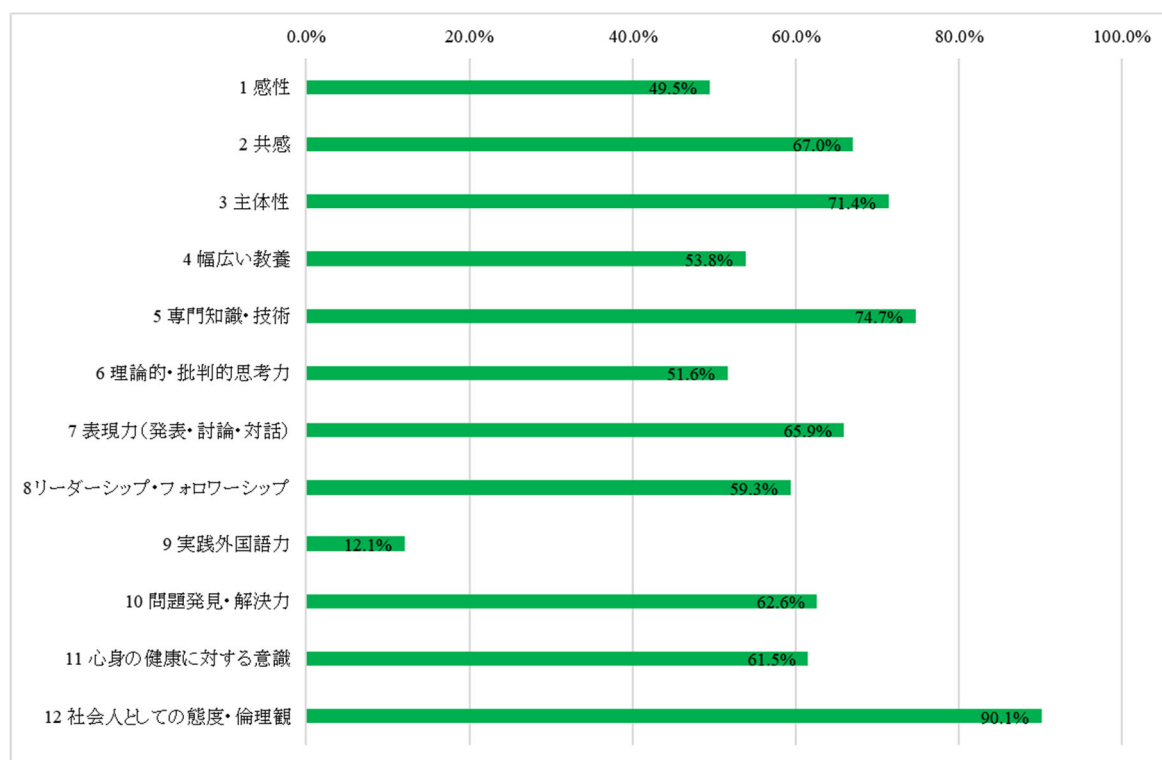


図 3-4 医学部卒業生が従事する事業所（91件）において重要だと思われる力の選択率

3.1.5 事業所において重要だと思われる力（工学部卒業生）

工学部卒業生が従事する事業所の回答（76件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「3 主体性」、「10 問題発見・解決力」、「7 表現力（発表・討論・対話）」、「12 社会人としての態度・倫理観」、「8 リーダーシップ・フォロワーシップ」などであった。一方、選択率が最も低かった項目は「9 実践外国語力」であった。同選択肢の選択率は7.9%で、次に選択率が低かった「4 幅広い教養」とは19.7%の差を示した。

表 3-5 工学部卒業生が従事する事業所（76件）において重要だと思われる力

項目	人数	%
1 感性	23	30.3%
2 共感	32	42.1%
3 主体性	60	78.9%
4 幅広い教養	21	27.6%
5 専門知識・技術	39	51.3%
6 理論的・批判的思考力	47	61.8%
7 表現力（発表・討論・対話）	50	65.8%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ	49	64.5%
9 実践外国語力	6	7.9%
10 問題発見・解決力	58	76.3%
11 心身の健康に対する意識	30	39.5%
12 社会人としての態度・倫理観	50	65.8%

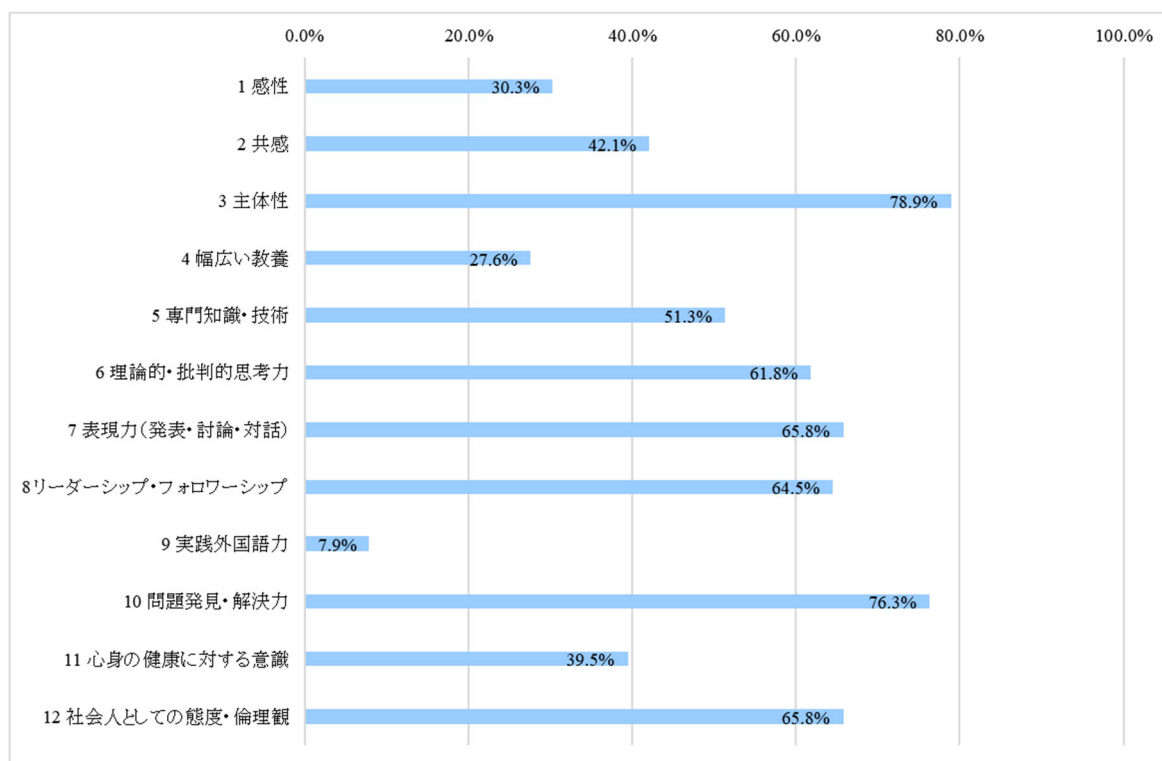


図 3-5 工学部卒業生が従事する事業所（76件）において重要だと思われる力の選択率

3.1.6 事業所において重要だと思われる力（生物資源学部卒業生）

生物資源学部卒業生が従事する事業所の回答（61件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「3 主体性」、「12 社会人としての態度・倫理観」、「10 問題発見・解決力」、「7 表現力（発表・討論・対話）」、「6 理論的・批判的思考力」などであった。一方、選択率が最も低かった項目は「9 実践外国語力」であった。同選択肢の選択率は4.9%で、次に選択率が低かった「4 幅広い教養」とは27.9%の差を示した。

表 3-6 生物資源学部卒業生が従事する事業所（61件）において重要だと思われる力

項目	人数	%
1 感性	24	39.3%
2 共感	24	39.3%
3 主体性	45	73.8%
4 幅広い教養	20	32.8%
5 専門知識・技術	26	42.6%
6 理論的・批判的思考力	34	55.7%
7 表現力（発表・討論・対話）	39	63.9%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ	29	47.5%
9 実践外国語力	3	4.9%
10 問題発見・解決力	44	72.1%
11 心身の健康に対する意識	23	37.7%
12 社会人としての態度・倫理観	45	73.8%

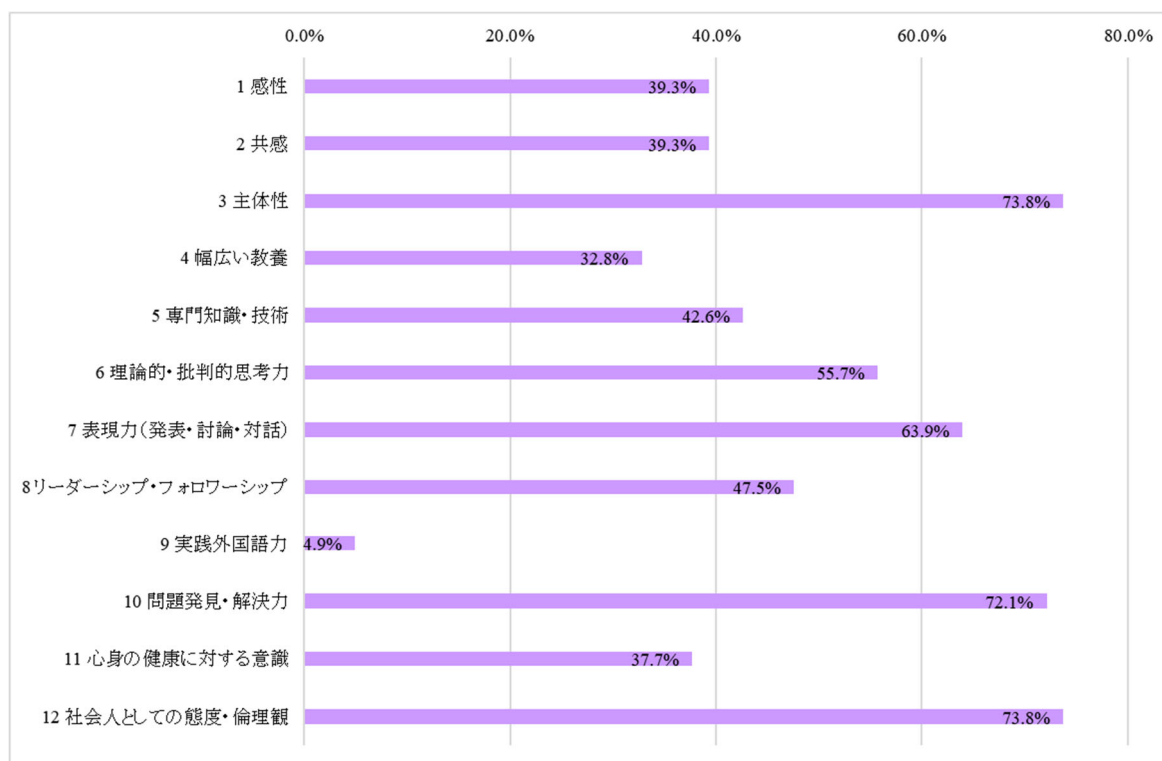


図 3-6 生物資源学部卒業生が従事する事業所（61件）において重要だと思われる力の選択率

3.2 事業所において重要だと思われる力（修了生）

各事業所において重要だと思われる力をたずねた。回答は、12 個の選択肢の中から、自由に選択するように求めた。以下、三重大学卒業生が従事する事業所の回答（120 件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「3 主体性」、「10 問題発見・解決力」、「6 理論的・批判的思考力」、「7 表現力（発表・討論・対話）」、「12 社会人としての態度・倫理観」であった。一方、選択率が最も低かった項目は「9 実践外国語力」であった。同選択肢の選択率は 25.8%で、次に選択率が低かった「4 幅広い教養」とは比較的少ない 6.7%の差を示した。

表 3-7 全修了生が従事する事業所（120 件）において重要だと思われる力

項目	人数	%
1 感性	45	37.5%
2 共感	46	38.3%
3 主体性	91	75.8%
4 幅広い教養	39	32.5%
5 専門知識・技術	69	57.5%
6 理論的・批判的思考力	75	62.5%
7 表現力（発表・討論・対話）	73	60.8%
8 リーダーシップ・フォロワーシップ	66	55.0%
9 実践外国語力	31	25.8%
10 問題発見・解決力	83	69.2%
11 心身の健康に対する意識	51	42.5%
12 社会人としての態度・倫理観	70	58.3%

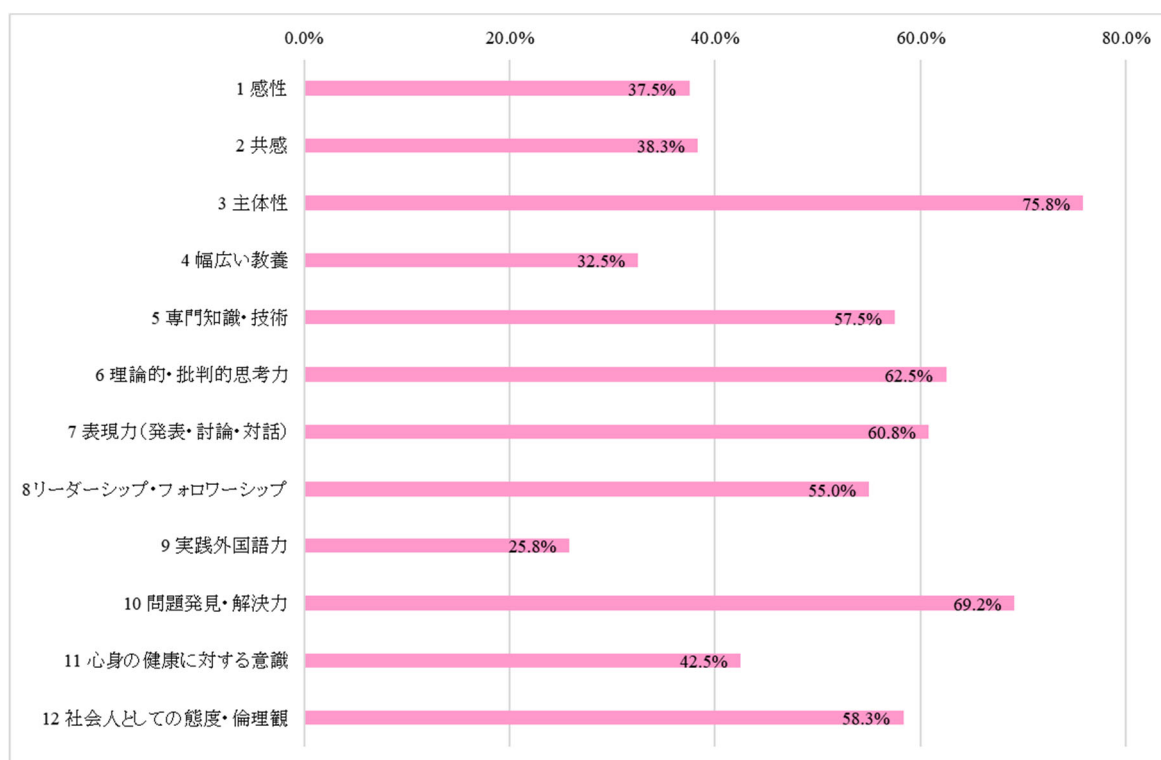


図 3-7 全修了生が従事する事業所（120 件）において重要だと思われる力の選択率

第4章 三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力

4.1 三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力（卒業生）

三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力をたずねた。回答は、12個の選択肢の中から、自由に選択するように求めた。全卒業生及び卒業学部別に各項目を選択した人数とその割合を算出した。

4.1.1 三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力（全卒業生）

三重大大学卒業生が従事する事業所の回答（395件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「4 人と共同して仕事をする力」、「10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力」、「1 広い視野で多面的に考える力」、「12 実際に仕事をやり遂げる実行力」、「6 情報を収集して適切に処理する力」などであった。これら5つの項目は、すべての卒業学部において上位6つの項目に含まれた。とりわけ、4はすべての卒業学部において最も高い選択率を示し、その次に高い選択率を示した項目に比べて6%から18%多かった。一方、選択率が最も低かった項目は「3 外国語でコミュニケーションをする力」であった。同選択肢の選択率は11.9%で、次に選択率が低かった「5 文章作成や文章表現の力」とは22.0%の差を示した。

表 4-1 全事業所（395 件）における三重大大学の教育において
養成することが望ましいと思われる力

項目	人数	%
1 広い視野で多面的に考える力	267	67.6%
2 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力	166	42.0%
3 外国語でコミュニケーションをする力	47	11.9%
4 人と共同して仕事をする力	321	81.3%
5 文章作成や文章表現の力	134	33.9%
6 情報を収集して適切に処理する力	215	54.4%
7 一般常識	168	42.5%
8 基礎学力	140	35.4%
9 専門知識や技術	141	35.7%
10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力	273	69.1%
11 自立的に自らが決断する力	193	48.9%
12 実際に仕事をやり遂げる実行力	235	59.5%

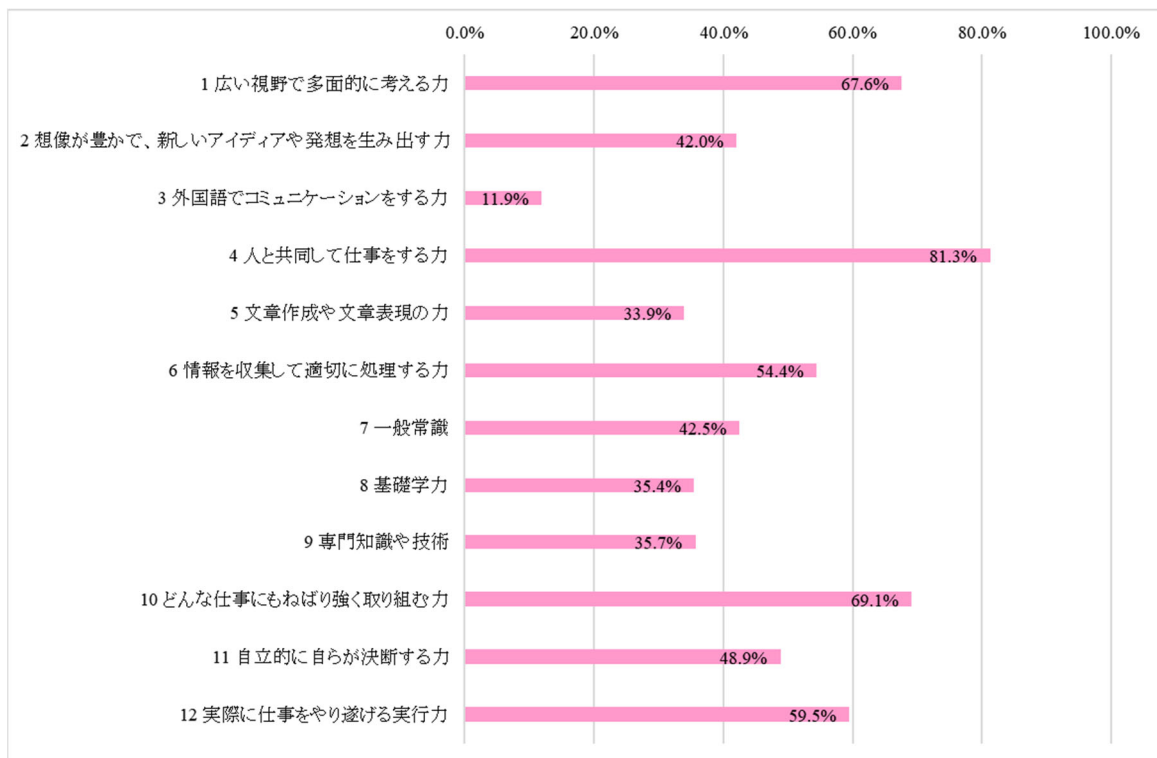


図 4-1 全事業所（395 件）における三重大学の教育において
養成することが望ましいと思われる力の選択率

4.1.2 三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力（人文学部卒業生）

人文学部卒業生が従事する事業所の回答（86件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「4 人と共同して仕事をする力」、「1 広い視野で多面的に考える力」、「10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力」、「12 実際に仕事をやり遂げる実行力」、「6 情報を収集して適切に処理する力」などであった。一方、選択率が最も低かった項目は「3 外国語でコミュニケーションをする力」であった。同選択肢の選択率は3.5%で、次に選択率が低かった「9 専門知識や技術」とは16.3%の差を示した。

表 4-2 人文学部卒業生が従事する事業所（86件）における
三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力

項目	人数	%
1 広い視野で多面的に考える力	58	67.4%
2 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力	39	45.3%
3 外国語でコミュニケーションをする力	3	3.5%
4 人と共同して仕事をする力	73	84.9%
5 文章作成や文章表現の力	28	32.6%
6 情報を収集して適切に処理する力	49	57.0%
7 一般常識	35	40.7%
8 基礎学力	33	38.4%
9 専門知識や技術	17	19.8%
10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力	58	67.4%
11 自立的に自らが決断する力	44	51.2%
12 実際に仕事をやり遂げる実行力	54	62.8%

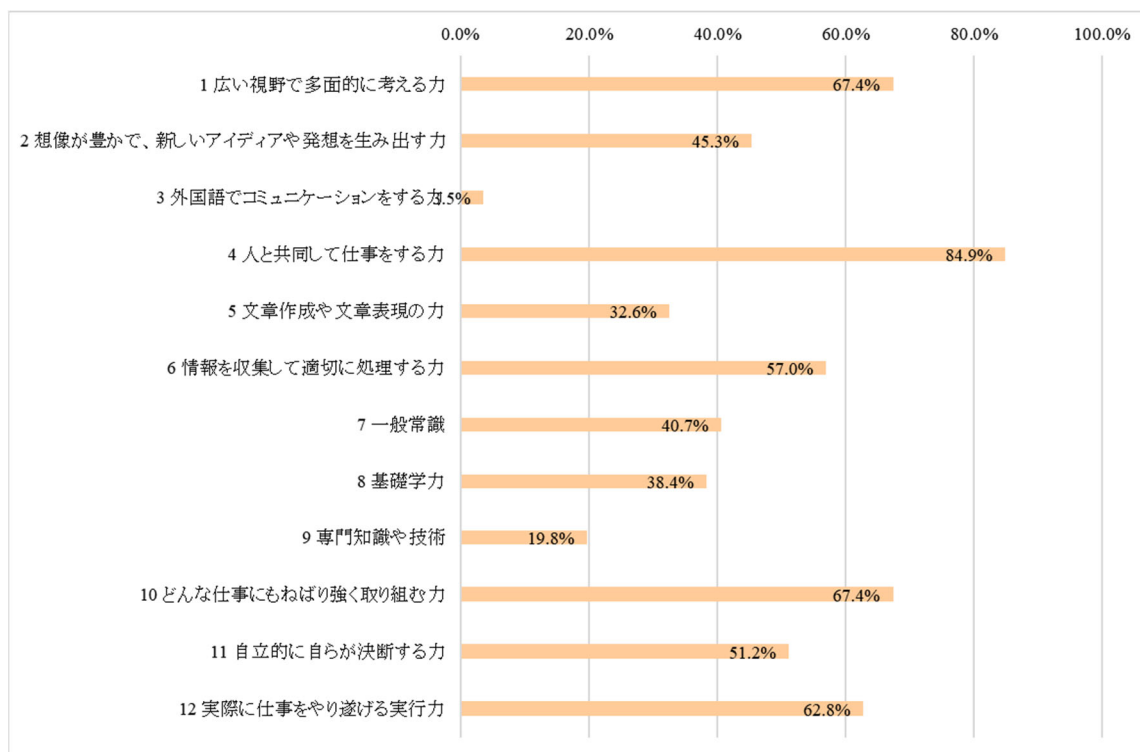


図 4-2 人文学部卒業生が従事する事業所（86件）における
三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力の選択率

4.1.3 三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力（教育学部卒業生）

教育学部卒業生が従事する事業所の回答（74件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「4 人と共同して仕事をする力」、「1 広い視野で多面的に考える力」、「10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力」、「12 実際に仕事をやり遂げる実行力」、「2 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力」などであった。一方、選択率が最も低かった項目は「3 外国語でコミュニケーションをする力」であった。同選択肢の選択率は16.2%で、次に選択率が低かった「8 基礎学力」とは9.5%の差を示した。

表 4-3 教育学部卒業生が従事する事業所（74件）における
三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力

項目	人数	%
1 広い視野で多面的に考える力	54	73.0%
2 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力	36	48.6%
3 外国語でコミュニケーションをする力	12	16.2%
4 人と共同して仕事をする力	61	82.4%
5 文章作成や文章表現の力	30	40.5%
6 情報を収集して適切に処理する力	36	48.6%
7 一般常識	36	48.6%
8 基礎学力	19	25.7%
9 専門知識や技術	36	48.6%
10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力	50	67.6%
11 自立的に自らが決断する力	34	45.9%
12 実際に仕事をやり遂げる実行力	40	54.1%

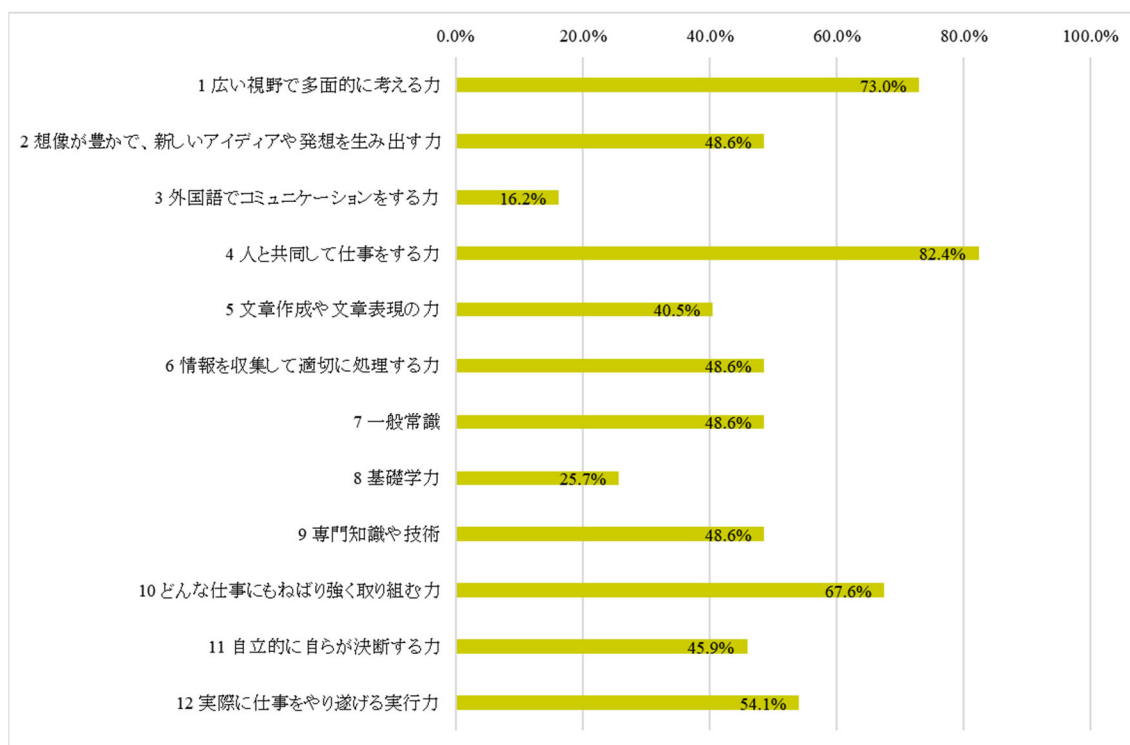


図 4-3 教育学部卒業生が従事する事業所（74件）における
三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力の選択率

4.1.4 三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力（医学部卒業生）

医学部卒業生が従事する事業所の回答（91件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「4 人と共同して仕事をする力」、「1 広い視野で多面的に考える力」、「10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力」、「6 情報を収集して適切に処理する力」、「7 一般常識」などであった。一方、選択率が最も低かった項目は「2 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力」、「3 外国語でコミュニケーションをする力」であった。同選択肢の選択率は各々27.5%で、次に選択率が低かった「5 文章作成や文章表現の力」とは11.0%の差を示した。

表 4-4 医学部卒業生が従事する事業所（91件）における
三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力

項目	人数	%
1 広い視野で多面的に考える力	62	68.1%
2 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力	25	27.5%
3 外国語でコミュニケーションをする力	25	27.5%
4 人と共同して仕事をする力	71	78.0%
5 文章作成や文章表現の力	35	38.5%
6 情報を収集して適切に処理する力	54	59.3%
7 一般常識	51	56.0%
8 基礎学力	42	46.2%
9 専門知識や技術	42	46.2%
10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力	62	68.1%
11 自立的に自らが決断する力	40	44.0%
12 実際に仕事をやり遂げる実行力	50	54.9%

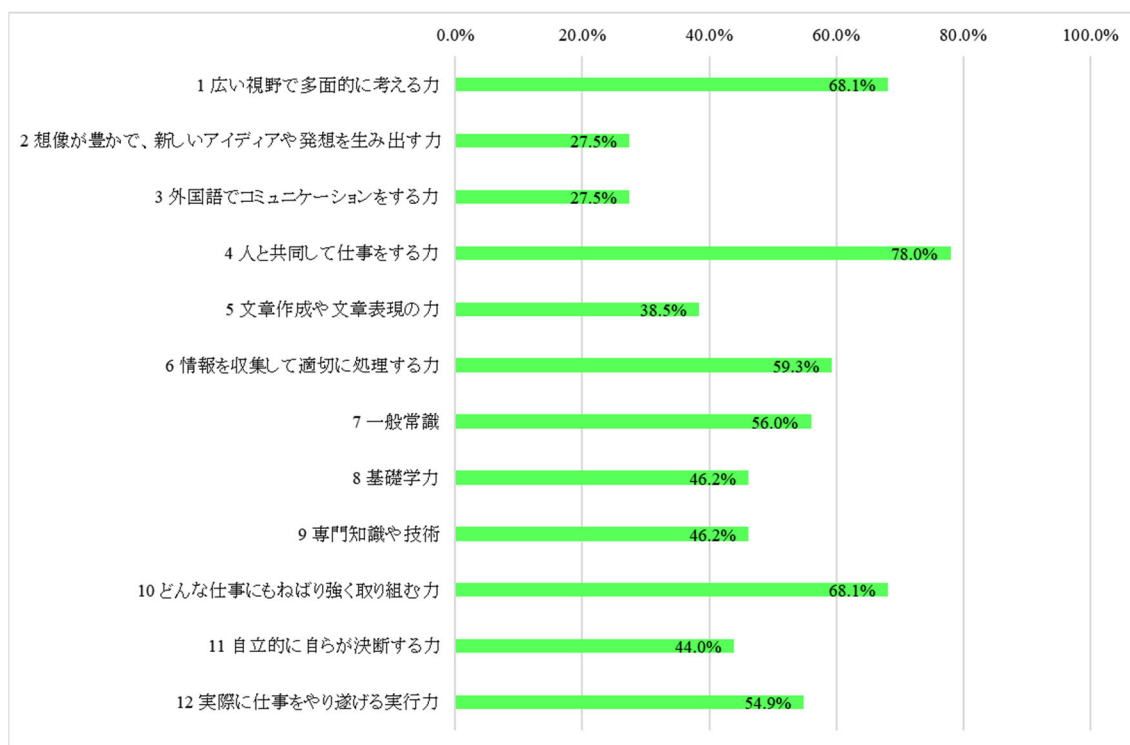


図 4-4 医学部卒業生が従事する事業所（91件）における
三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力の選択率

4.1.5 三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力（工学部卒業生）

工学部卒業生が従事する事業所の回答（76件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「4 人と共同して仕事をする力」、「10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力」、「12 実際に仕事をやり遂げる実行力」、「1 広い視野で多面的に考える力」、「6 情報を収集して適切に処理する力」などであった。選択率が最も低かった項目は「2 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力」、「3 外国語でコミュニケーションをする力」であった。同選択肢の選択率は 5.3%で、次に選択率が低かった「5 文章作成や文章表現の力」とは 22.3%の差を示した。

表 4-5 工学部卒業生が従事する事業所（76 件）における
三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力

項目	人数	%
1 広い視野で多面的に考える力	45	59.2%
2 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力	35	46.1%
3 外国語でコミュニケーションをする力	4	5.3%
4 人と共同して仕事をする力	64	84.2%
5 文章作成や文章表現の力	21	27.6%
6 情報を収集して適切に処理する力	43	56.6%
7 一般常識	22	28.9%
8 基礎学力	28	36.8%
9 専門知識や技術	28	36.8%
10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力	54	71.1%
11 自立的に自らが決断する力	39	51.3%
12 実際に仕事をやり遂げる実行力	51	67.1%

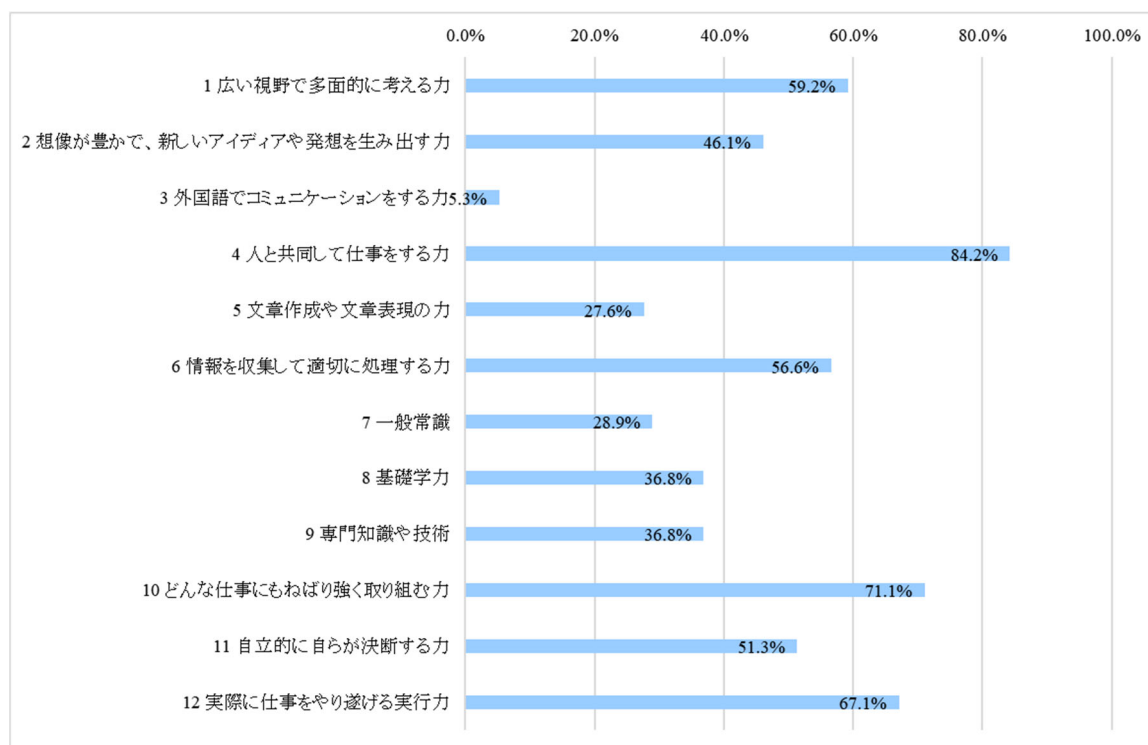


図 4-5 工学部卒業生が従事する事業所（76 件）における
三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力の選択率

4.1.6 三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力（生物資源学部卒業生）

生物資源学部卒業生が従事する事業所の回答（61件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「4 人と共同して仕事をする力」、「1 広い視野で多面的に考える力」、「10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力」、「12 実際に仕事をやり遂げる実行力」、「11 自立的に自らが決断する力」などであった。選択率が最も低かった項目は「2 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力」、「3 外国語でコミュニケーションをする力」であった。同選択肢の選択率は4.9%で、次に選択率が低かった「5 文章作成や文章表現の力」とは24.6%の差を示した。

表 4-6 生物資源学部卒業生が従事する事業所（61件）における
三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力

項目	人数	%
1 広い視野で多面的に考える力	42	68.9%
2 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力	31	50.8%
3 外国語でコミュニケーションをする力	3	4.9%
4 人と共同して仕事をする力	46	75.4%
5 文章作成や文章表現の力	18	29.5%
6 情報を収集して適切に処理する力	28	45.9%
7 一般常識	21	34.4%
8 基礎学力	17	27.9%
9 専門知識や技術	16	26.2%
10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力	42	68.9%
11 自立的に自らが決断する力	33	54.1%
12 実際に仕事をやり遂げる実行力	36	59.0%

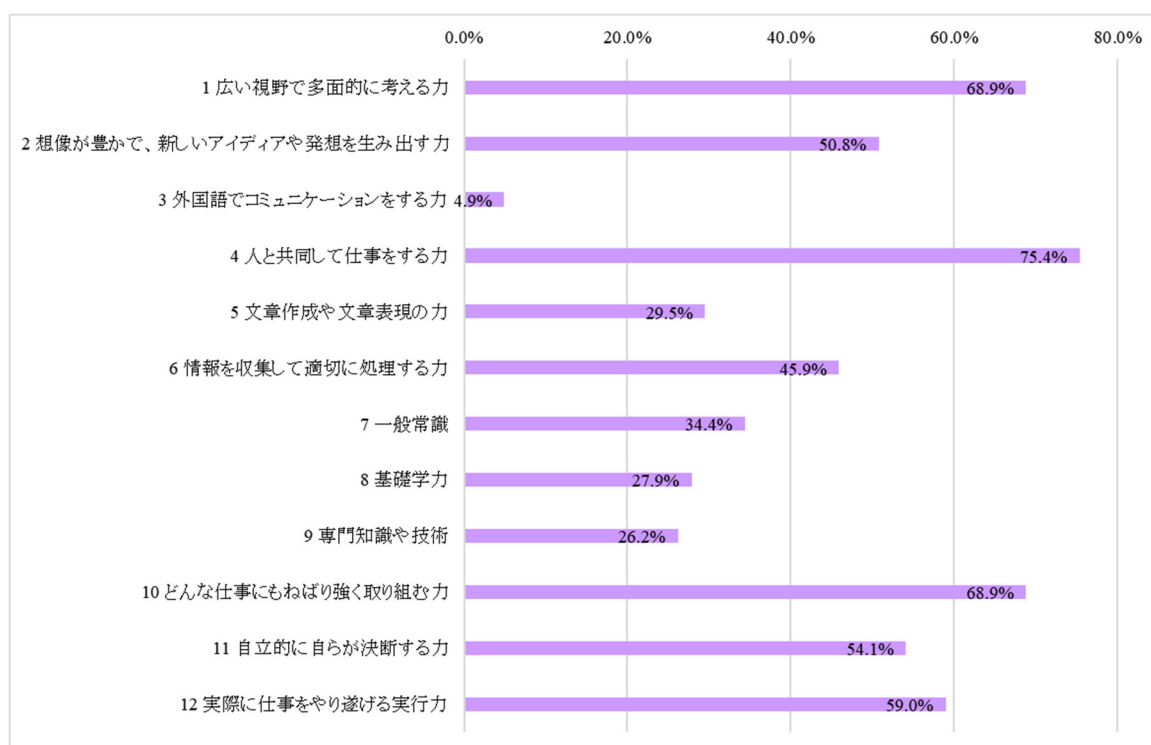


図 4-6 生物資源学部卒業生が従事する事業所（61件）における
三重大大学の教育において養成することが望ましいと思われる力の選択率

4.2 三重大学大学院の教育において養成することが望ましいと思われる力（全修了生）

三重大学大学院の教育において養成することが望ましいと思われる力をたずねた。回答は、12 個の選択肢の中から、自由に選択するように求めた。以下、三重大学大学院の修了生が従事する事業所の回答（120 件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した結果であった。選択率が最も高かった項目は、多い順に「4 人と共同して仕事をする力」、「1 広い視野で多面的に考える力」、「11 自立的に自らが決断する力」、「10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力」、「12 実際に仕事をやり遂げる実行力」などであった。選択率が最も低かった項目は「2 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力」、「3 外国語でコミュニケーションをする力」であった。同選択肢の選択率は 18.3%で、次に選択率が低かった「7 一般常識」とは 4.2%の差を示した。

表 4-7 全修了生が従事する事業所（120 件）における
三重大学大学院の教育において養成することが望ましいと思われる力

項目	人数	%
1 広い視野で多面的に考える力	76	63.3%
2 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力	53	44.2%
3 外国語でコミュニケーションをする力	22	18.3%
4 人と共同して仕事をする力	87	72.5%
5 文章作成や文章表現の力	32	26.7%
6 情報を収集して適切に処理する力	59	49.2%
7 一般常識	27	22.5%
8 基礎学力	39	32.5%
9 専門知識や技術	53	44.2%
10 どんな仕事にもねばり強く取り組む力	70	58.3%
11 自立的に自らが決断する力	71	59.2%
12 実際に仕事をやり遂げる実行力	65	54.2%

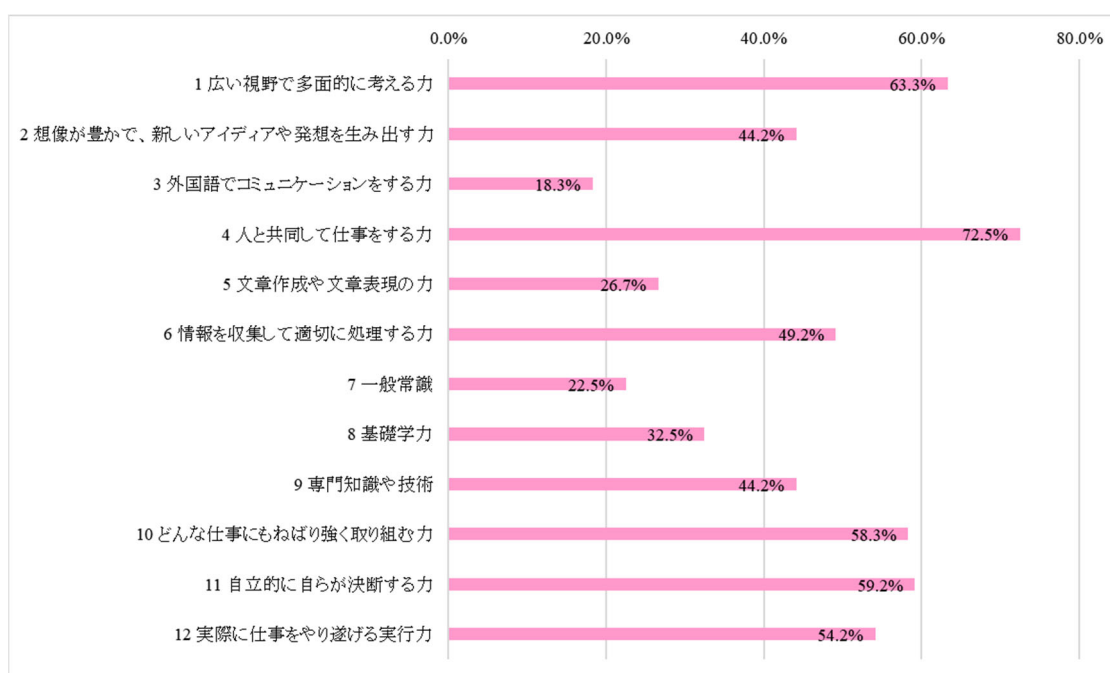


図 4-7 全修了生が従事する事業所（120 件）における
三重大学大学院の教育において養成することが望ましいと思われる力の選択率

第5章 事業所が新人研修や新人教育で重要視する力

5.1 事業所が新人研修や新人教育で重要視する力（卒業生）

事業所に対して、新人研修や新人教育を行う際に重要視している力をたずねた。回答は、17個の選択肢の中から、自由に選択するように求めた。全卒業生及び卒業学部別に各項目を選択した人数とその割合を算出した。

5.1.1 事業所が新人研修や新人教育で重要視する力（全卒業生）

三重大大学卒業生が従事する事業所の回答（395件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「15 コミュニケーション力」、「11 チームで働く力」、「14 社会人マナー」、「9 責任感」、「7 人を理解する力」などであった。これらのうち、「15 コミュニケーション力」、「11 チームで働く力」はすべての卒業学部において上位3つの項目に含まれた。一方、「その他」を除き、選択率が最も低かった項目は、低い順に「4 企画する力」、「3 想像する力」、「10 支援・指導する力」であった。

表 5-1 全卒業生が従事する事業所（395件）における
新人研修や新人教育で重要視する力

項目	人数	%
1 情報収集する力	136	34.4%
2 分析する力	111	28.1%
3 想像する力	74	18.7%
4 企画する力	45	11.4%
5 判断する力	165	41.8%
6 実行する力	171	43.3%
7 人を理解する力	212	53.7%
8 状況を理解する力	187	47.3%
9 責任感	229	58.0%
10 支援・指導する力	79	20.0%
11 チームで働く力	318	80.5%
12 職業的スキル	137	34.7%
13 忍耐力	81	20.5%
14 社会人マナー	288	72.9%
15 コミュニケーション力	325	82.3%
16 切磋琢磨し合える力	117	29.6%
17 その他	5	1.3%

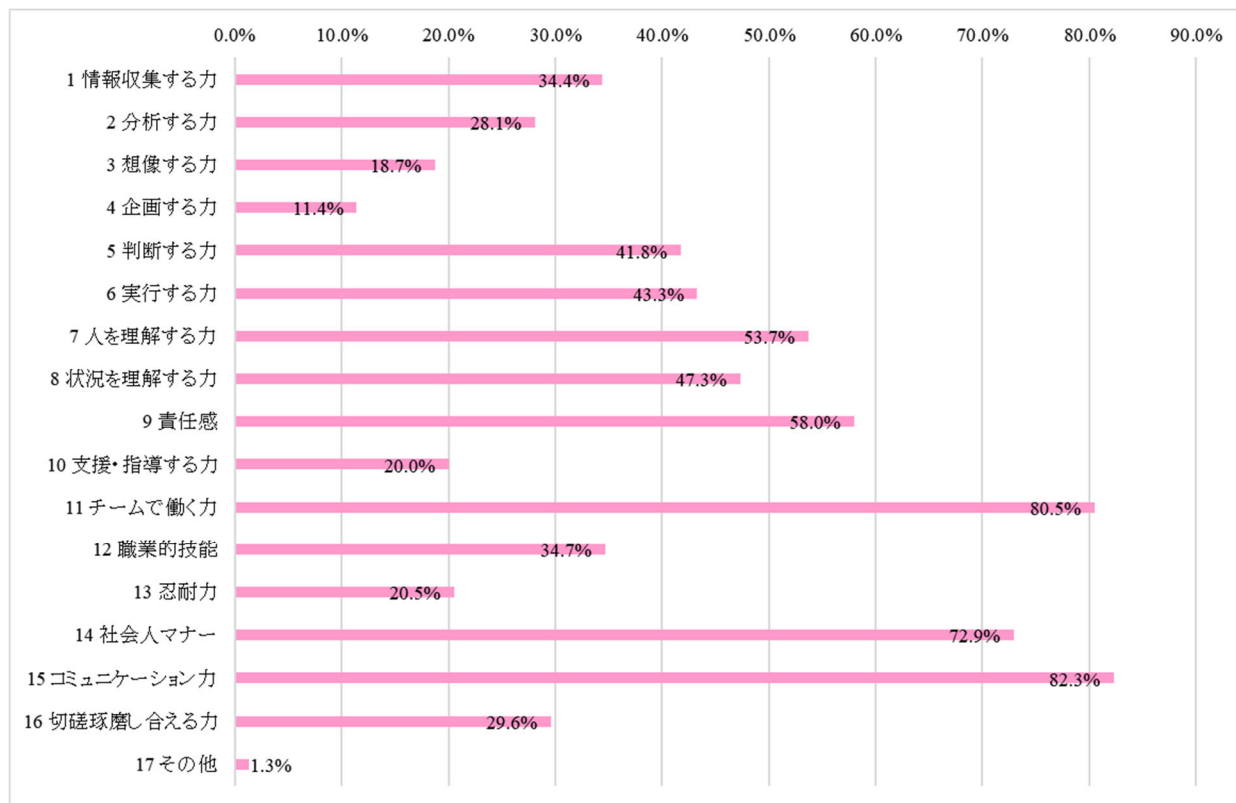


図 5-1 全卒業生が従事する事業所（395 件）における
新人研修や新人教育で重要視する力の選択率

5.1.2 事業所が新人研修や新人教育で重要視する力（人文学部卒業生）

三重大学卒業生のうち、人文学部卒業生に対する事業所の回答（86件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「15 コミュニケーション力」、「14 社会人マナー」、「11 チームで働く力」、「7 人を理解する力」、「9 責任感」であった。一方、「その他」を除き、選択率が最も低かった項目は、低い順に「4 企画する力」、「13 忍耐力」、「10 支援・指導する力」であった。

表 5-2 人文学部卒業生が従事する事業所（86 件）における
新人研修や新人教育で重要視する力

項目	人数	%
1 情報収集する力	27	31.4%
2 分析する力	22	25.6%
3 想像する力	19	22.1%
4 企画する力	13	15.1%
5 判断する力	29	33.7%
6 実行する力	37	43.0%
7 人を理解する力	55	64.0%
8 状況を理解する力	40	46.5%
9 責任感	47	54.7%
10 支援・指導する力	16	18.6%
11 チームで働く力	66	76.7%
12 職業的スキル	31	36.0%
13 忍耐力	16	18.6%
14 社会人マナー	69	80.2%
15 コミュニケーション力	71	82.6%
16 切磋琢磨し合える力	23	26.7%
17 その他	1	1.2%

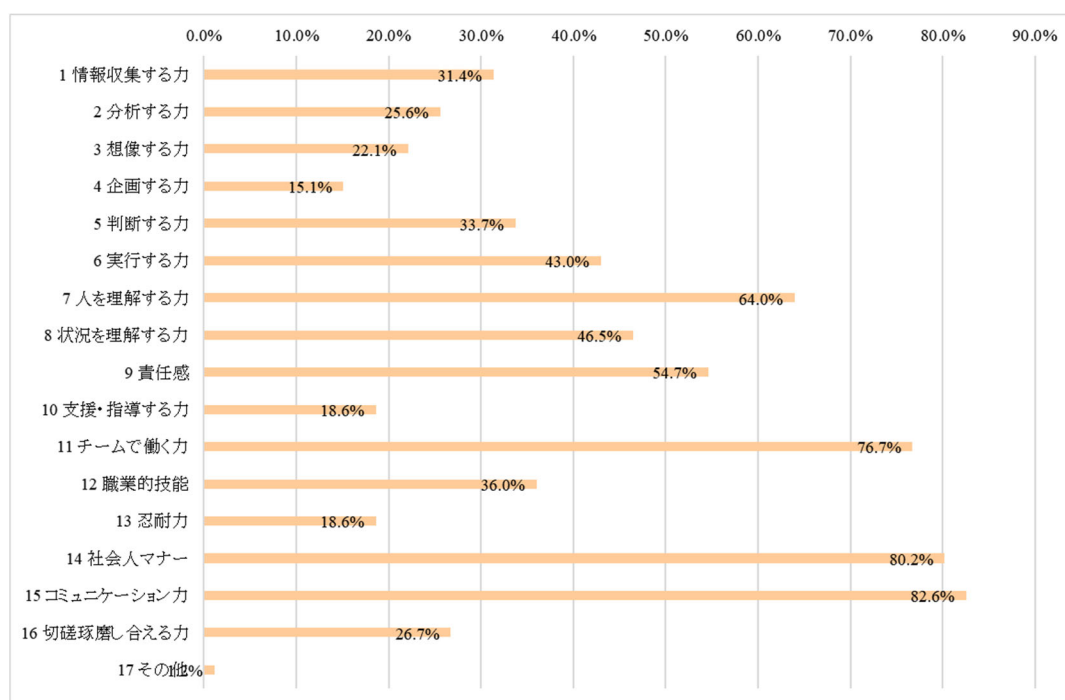


図 5-2 人文学部卒業生が従事する事業所（86 件）における
新人研修や新人教育で重要視する力の選択率

5.1.3 事業所が新人研修や新人教育で重要視する力（教育学部卒業生）

三重大学卒業生のうち、教育学部卒業生に対する事業所の回答（74件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「11 チームで働く力」、「15 コミュニケーション力」、「7 人を理解する力」、「9 責任感」、「8 状況を理解する力」であった。一方、「その他」を除き、選択率が最も低かった項目は、低い順に「4 企画する力」、「13 忍耐力」、「3 想像する力」であった。

表 5-3 教育学部卒業生が従事する事業所（74件）における
新人研修や新人教育で重要視する力

項目	人数	%
1 情報収集する力	15	20.3%
2 分析する力	15	20.3%
3 想像する力	10	13.5%
4 企画する力	6	8.1%
5 判断する力	35	47.3%
6 実行する力	33	44.6%
7 人を理解する力	42	56.8%
8 状況を理解する力	40	54.1%
9 責任感	42	56.8%
10 支援・指導する力	28	37.8%
11 チームで働く力	60	81.1%
12 職業的技能	28	37.8%
13 忍耐力	10	13.5%
14 社会人マナー	33	44.6%
15 コミュニケーション力	54	73.0%
16 切磋琢磨し合える力	12	16.2%
17 その他	0	0.0%

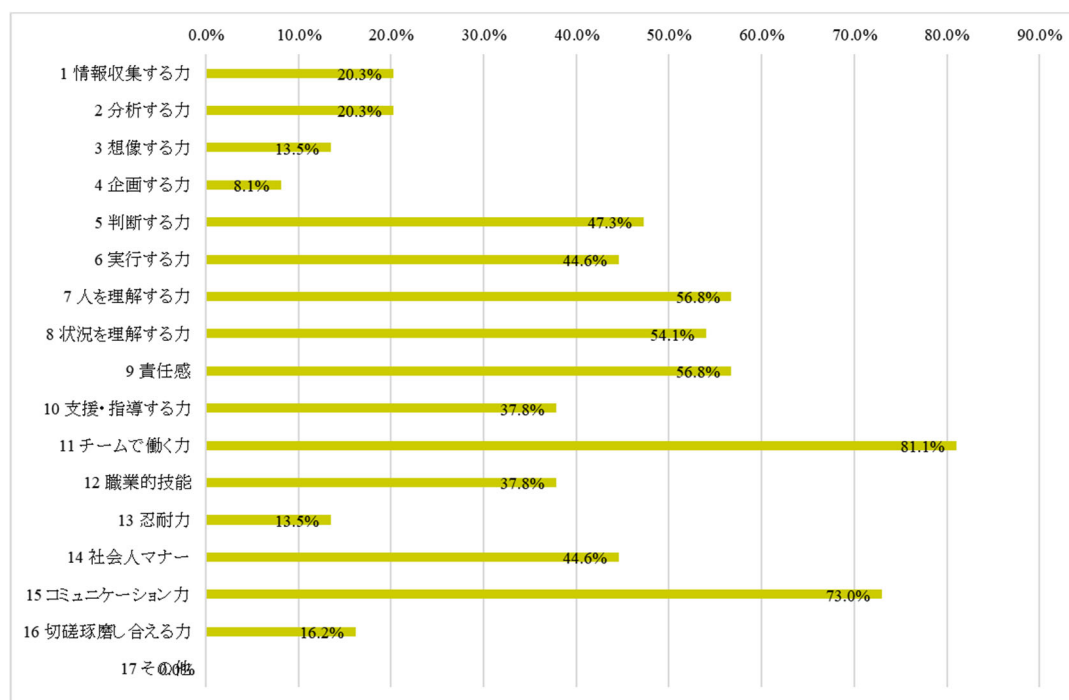


図 5-3 教育学部卒業生が従事する事業所（74件）における
新人研修や新人教育で重要視する力の選択率

5.1.4 事業所が新人研修や新人教育で重要視する力（医学部卒業生）

三重大学卒業生のうち、医学部卒業生に対する事業所の回答（91 件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「11 チームで働く力」、「14 社会人マナー」、「15 コミュニケーション力」、「9 責任感」、「7 人を理解する力」であった。一方、選択率が最も低かった項目は、低い順に「4 企画する力」、「17 その他」、「3 想像する力」、「10 支援・指導する力」であった。

表 5-4 医学部卒業生が従事する事業所（91 件）における
新人研修や新人教育で重要視する力

項目	人数	%
1 情報収集する力	44	48.4%
2 分析する力	34	37.4%
3 想像する力	18	19.8%
4 企画する力	3	3.3%
5 判断する力	50	54.9%
6 実行する力	39	42.9%
7 人を理解する力	54	59.3%
8 状況を理解する力	45	49.5%
9 責任感	65	71.4%
10 支援・指導する力	19	20.9%
11 チームで働く力	80	87.9%
12 職業的技能	40	44.0%
13 忍耐力	27	29.7%
14 社会人マナー	80	87.9%
15 コミュニケーション力	77	84.6%
16 切磋琢磨し合える力	41	45.1%
17 その他	4	4.4%

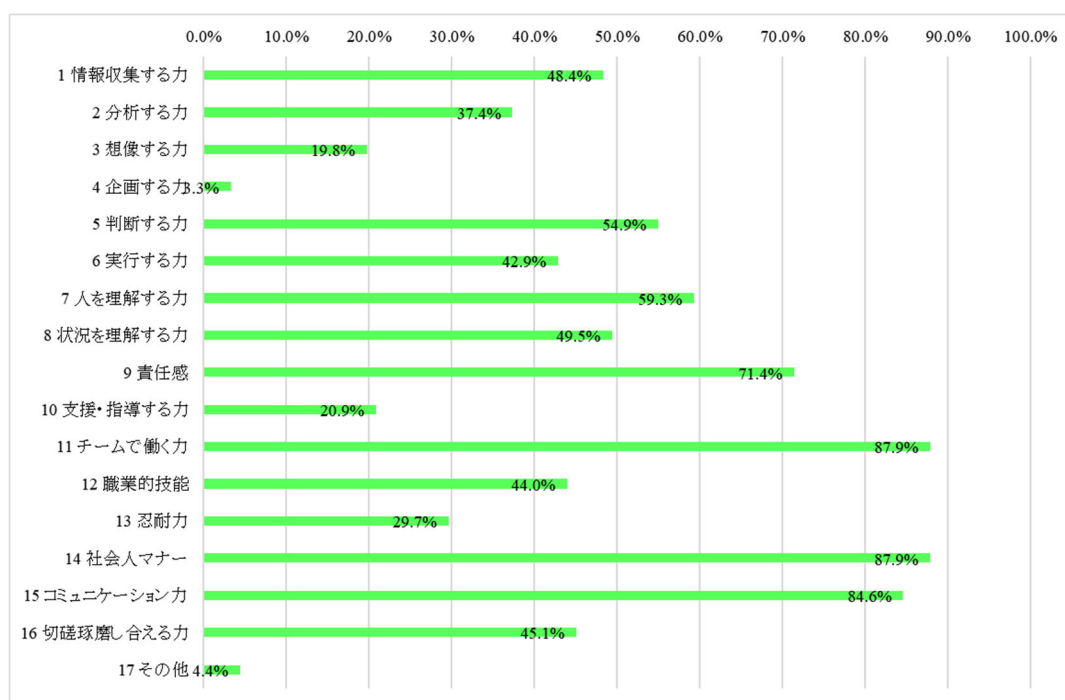


図 5-4 医学部卒業生が従事する事業所（91 件）における
新人研修や新人教育で重要視する力の選択率

5.1.5 事業所が新人研修や新人教育で重要視する力（工学部卒業生）

三重大学卒業生のうち、工学部卒業生に対する事業所の回答（76 件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「15 コミュニケーション力」、「11 チームで働く力」、「14 社会人マナー」、「6 実行する力」、「9 責任感」であった。一方、「その他」を除き、選択率が最も低かった項目は、低い順に「10 支援・指導する力」、「4 企画する力」、「13 忍耐力」であった。

表 5-5 工学部卒業生が従事する事業所（76 件）における
新人研修や新人教育で重要視する力

項目	人数	%
1 情報収集する力	28	36.8%
2 分析する力	25	32.9%
3 想像する力	17	22.4%
4 企画する力	14	18.4%
5 判断する力	31	40.8%
6 実行する力	33	43.4%
7 人を理解する力	26	34.2%
8 状況を理解する力	25	32.9%
9 責任感	32	42.1%
10 支援・指導する力	9	11.8%
11 チームで働く力	56	73.7%
12 職業的スキル	24	31.6%
13 忍耐力	16	21.1%
14 社会人マナー	54	71.1%
15 コミュニケーション力	66	86.8%
16 切磋琢磨し合える力	19	25.0%
17 その他	0	0.0%

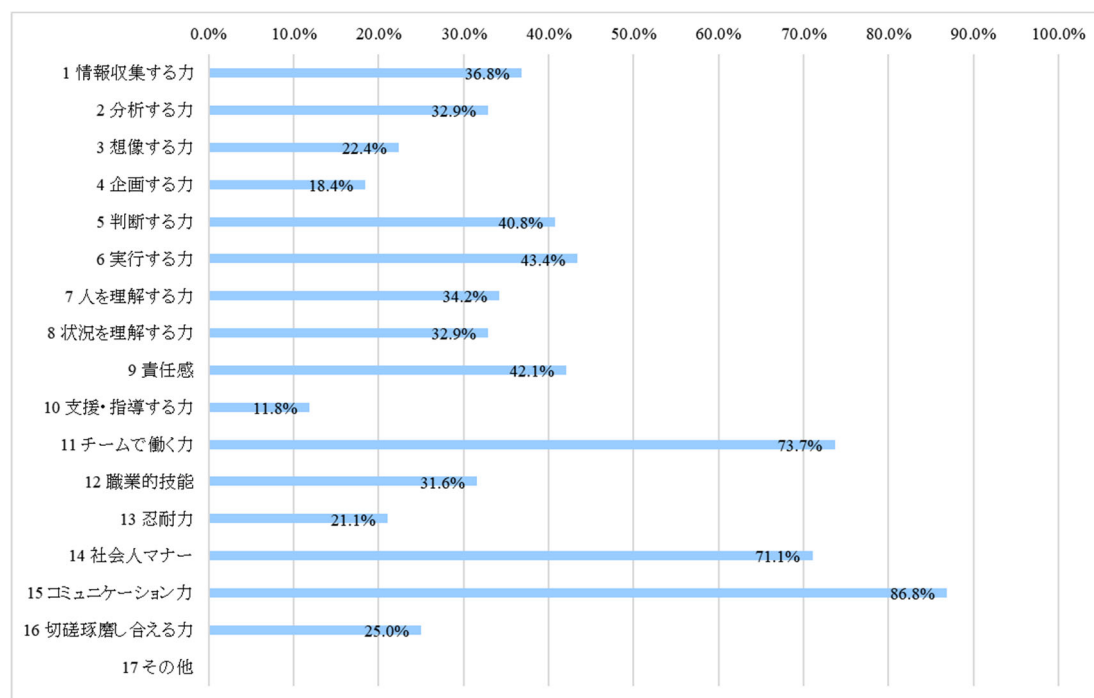


図 5-5 工学部卒業生が従事する事業所（76 件）における
新人研修や新人教育で重要視する力の選択率

5.1.6 事業所が新人研修や新人教育で重要視する力（生物資源学部卒業生）

三重大学卒業生のうち、生物資源学部卒業生に対する事業所の回答（61件）について、各項目を選出した人数とその割合を算出した。その結果、選択率が最も高かった項目は、多い順に「15 コミュニケーション力」、「11 チームで働く力」、「14 社会人マナー」、「9 責任感」、「8 状況を理解する力」であった。一方、「その他」を除き、選択率が最も低かった項目は、低い順に「10 支援・指導する力」、「4 企画する力」、「3 想像する力」であった。

表 5-6 生物資源学部卒業生が従事する事業所（61 件）における
新人研修や新人教育で重要視する力

項目	人数	%
1 情報収集する力	20	32.8%
2 分析する力	13	21.3%
3 想像する力	10	16.4%
4 企画する力	8	13.1%
5 判断する力	17	27.9%
6 実行する力	24	39.3%
7 人を理解する力	31	50.8%
8 状況を理解する力	36	59.0%
9 責任感	37	60.7%
10 支援・指導する力	7	11.5%
11 チームで働く力	50	82.0%
12 職業的技能	13	21.3%
13 忍耐力	11	18.0%
14 社会人マナー	45	73.8%
15 コミュニケーション力	54	88.5%
16 切磋琢磨し合える力	16	26.2%
17 その他	0	0.0%

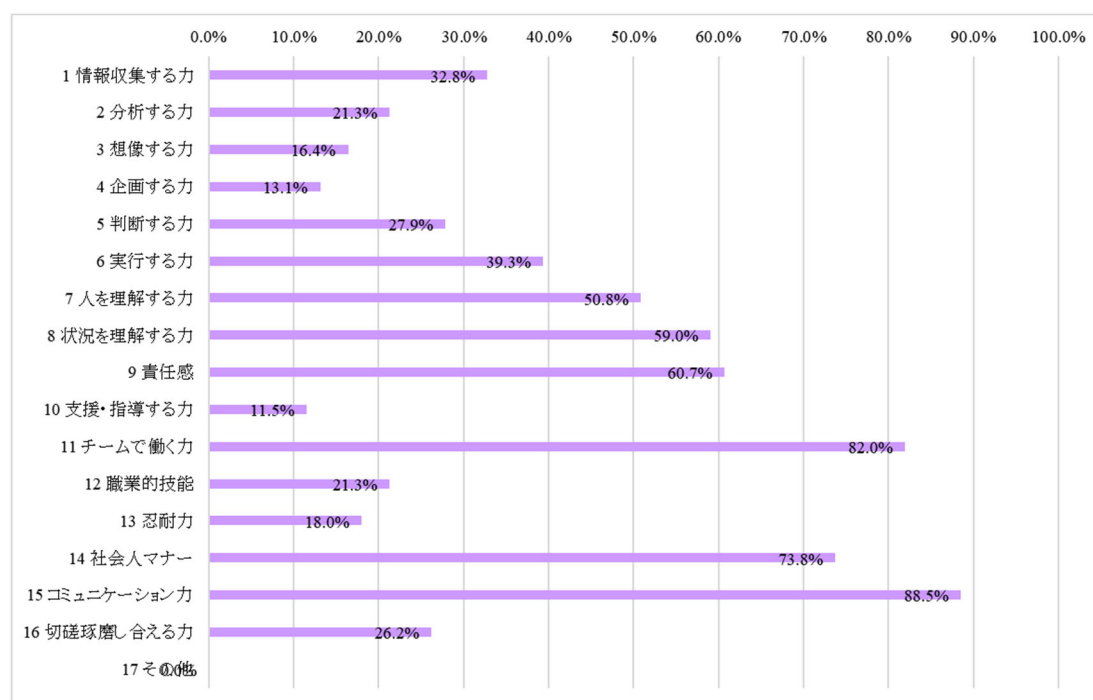


図 5-6 生物資源学部卒業生が従事する事業所（61 件）における
新人研修や新人教育で重要視する力の選択率

5.2 事業所が新人研修や新人教育で重要視する力（全修了生）

事業所に対して、新人研修や新人教育を行う際に重要視している力をたずねた。回答は、17 個の選択肢の中から、自由に選択するように求めた。以下、三重大学大学院の修了生が従事する事業所の回答（120 件）について、各項目を選択した人数とその割合を算出した結果であった。選択率が最も高かった項目は、多い順に「11 チームで働く力」、「15 コミュニケーション力」、「14 社会人マナー」、「9 責任感」、「5 判断する力」であった。一方、「その他」を除き、選択率が最も低かった項目は、低い順に「13 忍耐力」、「10 支援・指導する力」、「3 想像する力」であった。

表 5-7 全修了生が従事する事業所（120 件）における
新人研修や新人教育で重要視する力

項目	人数	%
1 情報収集する力	33	27.5%
2 分析する力	51	42.5%
3 想像する力	21	17.5%
4 企画する力	31	25.8%
5 判断する力	54	45.0%
6 実行する力	51	42.5%
7 人を理解する力	54	45.0%
8 状況を理解する力	51	42.5%
9 責任感	55	45.8%
10 支援・指導する力	18	15.0%
11 チームで働く力	89	74.2%
12 職業的技能	27	22.5%
13 忍耐力	11	9.2%
14 社会人マナー	79	65.8%
15 コミュニケーション力	88	73.3%
16 切磋琢磨し合える力	22	18.3%
17 その他	3	2.5%

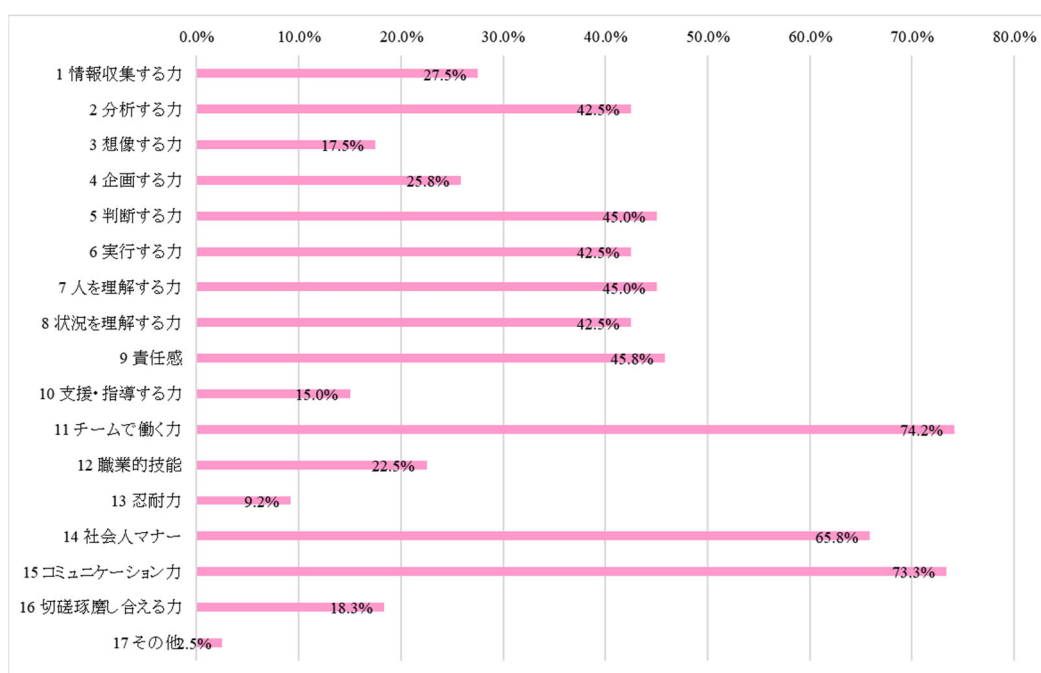


図 5-7 全修了生が従事する事業所（120 件）における
新人研修や新人教育で重要視する力の選択率

— 資料 —

アンケート用紙

卒業生対象

修了生対象

事業所対象（卒業生就職先）

事業所対象（修了生就職先）

三重大学における大学教育についてのアンケート

卒業生用

I. はじめに基本事項についてお聞きします。

以下について、記入又はあてはまるものに○をつけてください。

問1 在学中の所属 () 学部 () 学科・課程

問2 現在の職種

公務員	・	教職員	・	団体職員	・	一般企業
医療関係	・	自営業	・	大学院在学中		
アルバイト	・	無職	・	その他 ()		

問3 現在の居住地 [三重県 ・ 三重県外]

II. 三重大学の教育についてお聞きします。

問4 あなたが受けた三重大学の教育に関してどのくらい満足していますか。当てはまる数字に○をつけてください。

	非常に 不満	不満	やや 不満	やや 満足	満足	非常に 満足
1. 教育全般	1	2	3	4	5	6
2. 研究環境（文献・機器・研修水準など）	1	2	3	4	5	6
3. 進路支援（就職や進学、資格取得など）	1	2	3	4	5	6
4. 学習環境（図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など）	1	2	3	4	5	6
5. 学生生活に対するサポート	1	2	3	4	5	6
6. 教養教育の授業全般	1	2	3	4	5	6
7. 教養教育の語学系授業	1	2	3	4	5	6
8. 教養教育の情報系授業	1	2	3	4	5	6
9. 教養教育のキャリア系授業	1	2	3	4	5	6
10. 教養教育の保健体育関連授業	1	2	3	4	5	6
11. 教養教育の人文・社会・自然科学関係の授業	1	2	3	4	5	6
12. 学部専門の授業	1	2	3	4	5	6
13. PBLなどの少人数課題探求型の授業	1	2	3	4	5	6
14. 現場体験実習やインターンシップなど	1	2	3	4	5	6
※ 以下は、経験した人のみお答えください。						
15. 理系基礎関係授業	1	2	3	4	5	6
16. 卒業研究指導	1	2	3	4	5	6

問5 三重大学では、次に掲げる各要素からなる「4つの力」（「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」）を身に付けた学生に対して、学位を授与する方針を掲げています。あなたは三重大学の教育で「4つの力」の各要素が成長したと思われますか。当てはまる数字に○をつけてください。

	成長しなかった	わずかが成長した	少し成長した	ある程度成長した	かなり成長した
1. 感性「感じる力」・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
2. 共感「感じる力」・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
3. 主体性「感じる力」・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
4. 幅広い教養「考える力」・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
5. 専門知識・技術「考える力」・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
6. 論理的・批判的思考力「考える力」・・・・・・	1	2	3	4	5
7. 表現力（発表・討論・対話）「コミュニケーション力」・・・・	1	2	3	4	5
8. リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」・・	1	2	3	4	5
9. 実践外国語力「コミュニケーション力」・・・・・・	1	2	3	4	5
10. 問題発見・解決力「生きる力」・・・・・・・・	1	2	3	4	5
11. 心身の健康に対する意識「生きる力」・・・・・・	1	2	3	4	5
12. 社会人としての態度・倫理観「生きる力」・・・・・・	1	2	3	4	5

問6 三重大学の「4つの力」の各要素につき、大学卒業後の社会生活の場であなたが重要だと思うものすべてについて、チェックボックスへチェックを入れてください。

チェックを入れる項目はいくつでも構いません。 チェックを入れる例）☑

- | | | |
|--|---------------------------------------|--|
| ☐ 1. 感性 | ☐ 2. 共感 | ☐ 3. 主体性 |
| ☐ 4. 幅広い教養 | ☐ 5. 専門知識・技術 | ☐ 6. 論理的・批判的思考力 |
| ☐ 7. 表現力（発表・討論・対話） | | |
| ☐ 8. リーダーシップ・フォロワーシップ | | |
| ☐ 9. 実践外国語力 | ☐ 10. 問題発見・解決力 | ☐ 11. 心身の健康に対する意識 |
| ☐ 12. 社会人としての態度・倫理観 | | |

問7 在学中に受講した授業のうち、大学を卒業してから自分に役立ったと思う授業※があればお書きください。覚えていない授業名があれば記入してください。

※現在の仕事や学習、研究、生活などに役立ったと思う授業

問8 その授業のどのような点が役立ったと思いますか。

Ⅲ. 在学中の大学生活についてお聞きます。

問 9 あなたが大学生活で重点を置いていたことを、以下の中から当てはまるものすべて、チェックボックスにチェックを入れてください。チェックを入れる項目はいくつでも構いません。
「その他」は他に記入したいことがあればチェックし記入してください。

- | | | |
|--|--|------------------------------------|
| ☐ 1. 教養教育の授業 | ☐ 2. 学部専門の授業 | ☐ 3. 語学系の授業 |
| ☐ 4. 情報の授業 | ☐ 5. PBLに関連する授業 | ☐ 6. 卒業研究 |
| ☐ 7. ゼミ | ☐ 8. 実習 | ☐ 9. ボランティア |
| ☐ 10. 留学 | ☐ 11. クラブ・サークル | ☐ 12. アルバイト |
| ☐ 13. 学生自治活動 | ☐ 14. インターンシップ | ☐ 15. 就職活動 |
| ☐ 16. 採用資格準備 | ☐ 17. 専門学校 | ☐ 18. レジャー |
| ☐ 19. 副専攻（自分の専攻 <u>以外</u> の別の分野を履修すること） | ☐ 20. その他（ ） | |

問 10 あなたがこれから大学生活を始める後輩にアドバイスをすると仮定して、重点を置いたほうが
いいと伝えたいことについて、以下の中から当てはまるものすべて、チェックボックスに
チェックをいれてください。チェックを入れる項目はいくつでも構いません。
「その他」は他に記入したいことがあればチェックし記入してください。

- | | | |
|--|--|------------------------------------|
| ☐ 1. 教養教育の授業 | ☐ 2. 学部専門の授業 | ☐ 3. 語学系の授業 |
| ☐ 4. 情報の授業 | ☐ 5. PBLに関連する授業 | ☐ 6. 卒業研究 |
| ☐ 7. ゼミ | ☐ 8. 実習 | ☐ 9. ボランティア |
| ☐ 10. 留学 | ☐ 11. クラブ・サークル | ☐ 12. アルバイト |
| ☐ 13. 学生自治活動 | ☐ 14. インターンシップ | ☐ 15. 就職活動 |
| ☐ 16. 採用資格準備 | ☐ 17. 専門学校 | ☐ 18. レジャー |
| ☐ 19. 副専攻（自分の専攻 <u>以外</u> の別の分野を履修すること） | ☐ 20. その他（ ） | |

Ⅳ. 卒業後の三重大とのかかわりについてお聞きます。

問 11 卒業後の三重大や三重大の関係者への関わりについて、あなたのお気持ちに一番
近い項目に○をつけてください。

1. 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい
2. たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい
3. 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない
4. できれば関わりたくない

問 12 次の三重大の関係者や出身者のなかで、今後、関わる事が予想されるものに○をつけてください。○をつける項目はいくつでも構いません。

1. 卒業研究/論文の指導教員
2. 1 以外の教員（授業担当/サークル指導等）
3. 学部や研究室の先輩/後輩/同級生
4. 所属団体（部活・サークルなど）の先輩/後輩/同級生
5. 職員
6. 関わる可能性はない/関わりたくない
7. その他（ ）

問 13 今後もし三重大で学ぶ機会があったら、どのような内容を希望しますか。
当てはまる項目に○をつけてください。○をつける項目はいくつでも構いません。

1. 特定の専門的知識の授業（資格取得等）
2. 幅広い教養を学ぶ授業
3. 仕事に役立つスキルの授業（パソコンスキル、資料作成スキル等）
4. 受講生同士が協同しながら情報交換できる授業（ワークショップ等）
5. （継続した授業ではない）1 回限りの講演会、体験会等
6. （個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程
7. 特に希望はない／思いつかない
8. これ以上学びたくない

V. 三重大大学へのご意見や在学生へのメッセージについてお聞きます。

問 14 三重大大学の教育に関してご意見やご感想がございましたら、下の枠内にお書きください。
今後の教育改善に役立てたいと考えております。

--

問 15 卒業されてからまもなく 1 年が経とうとしていますが、振り返って三重大学の新入生にアドバイスやメッセージがありましたら教えてください。

--

※ご協力ありがとうございました。

返信用封筒に入れて投函していただきますようよろしくお願いいたします。

三重大学大学院における大学院教育についてのアンケート

修了生用

I. はじめに基本事項についてお聞きします。

以下について、記入又は当てはまるものに○をつけてください。

問1 在学中の所属 () 研究科 () 専攻

問2 現在の職種

公務員 ・ 教職員 ・ 団体職員 ・ 一般企業
医療関係 ・ 自営業 ・ 大学院在学中
アルバイト ・ 無職 ・ その他 ()

問3 現在の居住地 [三重県 ・ 三重県外]

※学部から三重大学に在籍していた方は、学部での経験は含めずに大学院での経験についてお答えください。

II. 三重大学大学院の教育についてお聞きします。

問4 あなたが受けた三重大学大学院の教育に関してどのくらい満足していますか。当てはまる数字に○をつけてください。

	非常に 不満	不満	やや 不満	やや 満足	満足	非常に 満足
1. 教育全般	1	2	3	4	5	6
2. 研究環境（文献、機器・研修水準など）	1	2	3	4	5	6
3. 大学院の授業科目構成	1	2	3	4	5	6
4. 大学院の授業	1	2	3	4	5	6
5. PBLなどの少人数課題探求型の授業	1	2	3	4	5	6
6. 最先端の研究や高度専門知識の教授	1	2	3	4	5	6
7. 現場体験実習やインターンシップなど	1	2	3	4	5	6
8. 日常的な研究指導	1	2	3	4	5	6
9. 学位論文指導	1	2	3	4	5	6
10. 進路支援（就職や進学、資格取得など）	1	2	3	4	5	6
11. 学習環境（図書、実習室、グループ学習室、ネットワーク環境など）	1	2	3	4	5	6
12. 学生生活に対するサポート	1	2	3	4	5	6

問5 三重大学大学院では、次に掲げる各要素からなる「4つの力」

(「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」)を身に付けた学生に対して、学位を授与する方針を掲げています。あなたは三重大学大学院の教育で「4つの力」の各要素が成長したと思われますか。当てはまる数字に○をつけてください。

	成長しなかった	わずかが成長した	少し成長した	ある程度成長した	かなり成長した
1. 感性「感じる力」	1	2	3	4	5
2. 共感「感じる力」	1	2	3	4	5
3. 主体性「感じる力」	1	2	3	4	5
4. 幅広い教養「考える力」	1	2	3	4	5
5. 専門知識・技術「考える力」	1	2	3	4	5
6. 論理的・批判的思考力「考える力」	1	2	3	4	5
7. 表現力(発表・討論・対話)「コミュニケーション力」	1	2	3	4	5
8. リーダーシップ・フォロワーシップ「コミュニケーション力」	1	2	3	4	5
9. 実践外国語力「コミュニケーション力」	1	2	3	4	5
10. 問題発見・解決力「生きる力」	1	2	3	4	5
11. 心身の健康に対する意識「生きる力」	1	2	3	4	5
12. 社会人としての態度・倫理観「生きる力」	1	2	3	4	5

問6 三重大学大学院の「4つの力」の各要素につき、大学院卒業後の社会生活の場であなたが重要だと思うものすべてについて、チェックボックスへチェックを入れてください。

チェックを入れる項目はいくつでも構いません。 チェックを入れる例) ☒

- | | | |
|--|---------------------------------------|--|
| ☐ 1. 感性 | ☐ 2. 共感 | ☐ 3. 主体性 |
| ☐ 4. 幅広い教養 | ☐ 5. 専門知識・技術 | ☐ 6. 論理的・批判的思考力 |
| ☐ 7. 表現力(発表・討論・対話) | | |
| ☐ 8. リーダーシップ・フォロワーシップ | | |
| ☐ 9. 実践外国語力 | ☐ 10. 問題発見・解決力 | ☐ 11. 心身の健康に対する意識 |
| ☐ 12. 社会人としての態度・倫理観 | | |

問7 在学中に受講した授業のうち、大学院を卒業してから自分に役立ったと思う授業※があればお書きください。覚えている授業名があれば記入してください。

※現在の仕事や学習、研究、生活などに役立ったと思う授業

問8 その授業のどのような点が役立ったと思いますか。

Ⅲ. 在学中の大学院生活についてお聞きます。

問 9 あなたが大学院生活で重点を置いていたことを、以下の中から当てはまるものすべて、チェックボックスにチェックを入れてください。チェックを入れる項目はいくつでも構いません。「その他」は他に記入したいことがあればチェックし記入してください。

- | | | |
|--|--|--------------------------------------|
| ☐ 1. 大学院の授業 | ☐ 2. PBLに関連する授業 | ☐ 3. 学位論文 |
| ☐ 4. 研究活動 | ☐ 5. ゼミ | ☐ 6. 実習 |
| ☐ 7. ボランティア | ☐ 8. 留学 | ☐ 9. クラブ・サークル |
| ☐ 10. アルバイト | ☐ 11. 学生自治活動 | ☐ 12. 就職活動 |
| ☐ 13. 採用資格準備 | ☐ 14. 専門学校 | ☐ 15. レジャー |
| ☐ 16. 副専攻（自分の専攻 <u>以外</u> の別の分野を履修すること） | ☐ 17. その他（ ） | |

問 10 あなたがこれから大学院生活を始める後輩にアドバイスをすると仮定して、重点を置いたほうがいいと伝えたいことについて、以下の中から当てはまるものすべて、チェックボックスにチェックをいれてください。チェックを入れる項目はいくつでも構いません。「その他」は他に記入したいことがあればチェックし記入してください。

- | | | |
|--|--|--------------------------------------|
| ☐ 1. 大学院の授業 | ☐ 2. PBLに関連する授業 | ☐ 3. 学位論文 |
| ☐ 4. 研究活動 | ☐ 5. ゼミ | ☐ 6. 実習 |
| ☐ 7. ボランティア | ☐ 8. 留学 | ☐ 9. クラブ・サークル |
| ☐ 10. アルバイト | ☐ 11. 学生自治活動 | ☐ 12. 就職活動 |
| ☐ 13. 採用資格準備 | ☐ 14. 専門学校 | ☐ 15. レジャー |
| ☐ 16. 副専攻（自分の専攻 <u>以外</u> の別の分野を履修すること） | ☐ 17. その他（ ） | |

Ⅳ. 大学院修了後の三重大学大学院との関わりについてお聞きます。

問 11 修了後の三重大学大学院や大学院関係者への関わりについて、あなたのお気持ちに一番近い項目に○をつけてください。

1. 頻繁に訪問したり連絡を取ったりするなど、積極的に関わっていききたい
2. たまには訪問したり連絡を取ったりするなど、ある程度関わっていききたい
3. 必要や機会があれば、関わることもあるかもしれない
4. できれば関わりたくない

問 12 次の三重大学大学院の関係者や出身者のなかで、今後、関わることが予想されるものに○をつけてください。○をつける項目はいくつでも構いません。

1. 学位論文の指導教員
2. 1 以外の教員（授業担当/サークル指導等）
3. 研究科や研究室の先輩/後輩/同級生
4. 所属団体（部活・サークル等）の先輩/後輩/同級生
5. 職員
6. 関わる可能性はない/関わりたくない
7. その他（ ）

問 13 今後もし三重大学または大学院で学ぶ機会があるとしたら、どのような内容を希望しますか。
当てはまる項目に○をつけてください。○をつける項目はいくつでも構いません。

1. 特定の専門的知識の授業（資格取得等）
2. 幅広い教養を学ぶ授業
3. 社会人として仕事に役立つスキルの授業（パソコンや資料作成スキル等）
4. 社会人同士が協働しながら情報交換できる授業（ワークショップ等）
5. （継続した授業ではない）1 回限りの講演会、体験会等
6. （個別の授業ではない）体系的な社会人向けの大学院課程
7. 特に希望はない／思いつかない
8. これ以上学びたくない

V. 三重大学大学院へのご意見や学生へのメッセージについてお聞きます。

問 14 三重大学大学院の教育に関してご意見やご感想がございましたら、下の枠内にお書きください。今後の教育改善に役立てたいと考えております。

--

問 15 大学院を修了されてからまもなく 1 年が経とうとしていますが、振り返って三重大学大学院で学ぼうとする学生に向けたアドバイスやメッセージがありましたら教えてください。

--

※ご協力ありがとうございました。

返信用封筒に入れて投函していただきますようよろしくお願いいたします。

三重大学卒業生についてのアンケート 事業所(卒業生就職先)

今年度、貴事業所に就職した三重大学卒業生に関して御存知の範囲で御回答をお願いします。

- ・卒業生の情報については、別紙「卒業生リスト」も御参考ください。
- ・1枚のアンケート用紙へは1名の卒業生について御回答をお願いします。

I. はじめに、卒業生の基本事項についてお伺いいたします。

問1 卒業学部 [人文 ・ 教育 ・ 医 ・ 工 ・ 生物資源]
問2 学科・課程 []

II. 三重大学の卒業生に対する評価についてお伺いいたします。

問3 三重大学では、次に掲げる各要素からなる「4つの力」

(「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」)を身に付けた学生に対して、学位を授与する方針を掲げています。今年度、貴事業所に就職した三重大学卒業生はそれらの要素がどのくらい身についていると思われますか。それぞれの項目で、当てはまる数字に○をつけてください。

	身についていない	わずかが身についている	少し身についている	ある程度身についている	十分身についている	評価できない
1. 「感じる力」の感性・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
2. 「感じる力」の共感・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
3. 「感じる力」の主体性・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
4. 「考える力」の幅広い教養・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
5. 「考える力」の専門知識・技術・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
6. 「考える力」の論理的・批判的思考力・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
7. 「コミュニケーション力」の表現力（発表・討論・対話）・・・	1	2	3	4	5	6
8. 「コミュニケーション力」のリーダースhip・フォロワースhip・・・	1	2	3	4	5	6
9. 「コミュニケーション力」の実践外国語力・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
10. 「生きる力」の問題発見・解決力・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
11. 「生きる力」の心身の健康に対する意識・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
12. 「生きる力」の社会人としての態度・倫理観・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6

III. 三重大学の教育に対して期待されるものについてお伺いいたします。

問4 問3でお聞きした三重大学の「4つの力」の各要素のうち、貴事業所での仕事に

おいてどれが重要だと思われますか。

当てはまるものすべてについて、チェックボックスへチェックをお願いします。

チェックを入れる項目はいくつでも構いません。 チェックを入れる例) ☒

- ☐ 1. 感性 ☐ 2. 共感 ☐ 3. 主体性
☐ 4. 幅広い教養 ☐ 5. 専門知識・技術 ☐ 6. 論理的・批判的思考力
☐ 7. 表現力（発表・討論・対話） ☐ 8. リーダーシップ・フォロワーシップ
☐ 9. 実践外国語力 ☐ 10. 問題発見・解決力
☐ 11. 心身の健康に対する意識 ☐ 12. 社会人としての態度・倫理観

問 5 次の項目のうち、三重大学の教育においてどれを養成することが望ましいと思われますか。当てはまるものすべてについて、チェックボックスへチェックをお願いします。チェックを入れる項目はいくつでも構いません。

- ☐広い視野で多面的に考える力
 - ☐想像が豊かで、新しいアイディアや発想を生み出す力
 - ☐外国語でコミュニケーションをする力
 - ☐文章作成や文章表現の力
 - ☐一般常識
 - ☐専門知識や技術
 - ☐自立的に自らが決断する力
 - ☐人と共同して仕事をする力
 - ☐情報を収集して適切に処理する力
 - ☐基礎学力
 - ☐どんな仕事にもねばり強く取り組む力
 - ☐実際に仕事をやり遂げる実行力

IV. 新人研修や新人教育について伺います。

問 6 貴事業所が新人研修・新人教育を行う際に、どのような力を重要視されていますか。
当てはまるものすべてについて、チェックボックスへチェックをお願いします。
チェックを入れる項目はいくつでも構いません。

- | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ 情報収集する力 | ☐ 分析する力 | ☐ 構想する力 |
| ☐ 企画する力 | ☐ 判断する力 | ☐ 実行する力 |
| ☐ 人を理解する力 | ☐ 状況を理解する力 | ☐ 責任感 |
| ☐ 支援・指導する力 | ☐ チームで働く力 | ☐ 職業的技能 |
| ☐ 忍耐力 | ☐ 社会人マナー | ☐ コミュニケーション力 |
| ☐ 切磋琢磨し合える力 | ☐ その他（ ） | |

V. 三重大の教育や卒業生についてご意見・ご感想等がございましたら、下の枠内にご記入ください。

※ご協力いただきましてありがとうございました。

お手数ですが、返信用封筒に入れて投函していただきますようよろしくお願いいたします。

三重大学大学院修了生についてのアンケート 事業所(修了生就職先)

今年度、貴事業所に就職した三重大学大学院修了生に関して御存知の範囲で御回答をお願いします。

- ・修了生の情報については、別紙「修了生リスト」も御参考ください。
- ・1枚のアンケート用紙へは1名の修了生について御回答をお願いします。

Ⅰ. はじめに、修了生の基本事項についてお聞きします。

問1 修了研究科 [人文社会科学 ・ 教育学 ・ 医学系 ・ 工学 ・ 生物資源学 ・ 地域イノベーション学]

問2 専攻 []

Ⅱ. 三重大学大学院修了生に対する評価についてお伺いいたします。

問3 三重大学大学院では、次に掲げる各要素からなる「4つの^{ちから}力」

(「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」)を身に付けた学生に対して、学位を授与する方針を掲げています。今年度、貴事業所に就職した三重大学大学院修了生はそれらの要素がどのくらい身についていると思われますか。それぞれの項目で、当てはまる数字に○をつけてください。

	身についていない	わずかが身についている	少し身についている	ある程度身についている	十分身についている	評価できない
1. 「感じる力」の感性・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
2. 「感じる力」の共感・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
3. 「感じる力」の主体性・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
4. 「考える力」の幅広い教養・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
5. 「考える力」の専門知識・技術・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
6. 「考える力」の論理的・批判的思考力・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
7. 「コミュニケーション力」の表現力(発表・討論・対話)・・・・・	1	2	3	4	5	6
8. 「コミュニケーション力」のリーダーシップ・フォロワーシップ・・・・・	1	2	3	4	5	6
9. 「コミュニケーション力」の実践外国語力・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
10. 「生きる力」の問題発見・解決力・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
11. 「生きる力」の心身の健康に対する意識・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6
12. 「生きる力」の社会人としての態度・倫理観・・・・・・・・	1	2	3	4	5	6

Ⅲ. 三重大学大学院の教育に対して期待されるものについてお伺いします。

問4 問3でお聞きした三重大学大学院の「4つの^{ちから}力」の各要素のうち、貴事業所での

仕事においてどれが重要だと思われますか。

当てはまるものすべてについて、チェックボックスへチェックをお願いします。

チェックを入れる項目はいくつでも構いません。 (チェックを入れる例) ☐

- | | | |
|---|--|--|
| ☐ 1. 感性 | ☐ 2. 共感 | ☐ 3. 主体性 |
| ☐ 4. 幅広い教養 | ☐ 5. 専門知識・技術 | ☐ 6. 論理的・批判的思考力 |
| ☐ 7. 表現力（発表・討論・対話） | ☐ 8. リーダーシップ・フォロワーシップ | |
| ☐ 9. 実践外国語力 | ☐ 10. 問題発見・解決力 | |
| ☐ 11. 心身の健康に対する意識 | ☐ 12. 社会人としての態度・倫理観 | |

問 5 次の項目のうち、三重大学大学院の教育においてどれを養成することが望ましいと思われるか。当てはまるものすべてについて、チェックボックスへチェックをお願いします。チェックを入れる項目はいくつでも構いません。

- | | |
|--|--|
| ☐ 広い視野で多面的に考える力 | |
| ☐ 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力 | |
| ☐ 外国語でコミュニケーションをする力 | ☐ 人と共同して仕事をする力 |
| ☐ 文章作成や文章表現の力 | ☐ 情報を収集して適切に処理する力 |
| ☐ 一般常識 | ☐ 基礎学力 |
| ☐ 専門知識や技術 | ☐ どんな仕事にもねばり強く取り組む力 |
| ☐ 自立的に自らが決断する力 | ☐ 実際に仕事をやり遂げる実行力 |

Ⅳ. 新人研修や新人教育についてお伺いします。

問 6 貴事業所が新人研修・新人教育を行う際に、どのような力を重要視されていますか。当てはまるものすべてについて、チェックボックスへチェックをお願いします。チェックを入れる項目はいくつでも構いません。

- | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ 情報収集する力 | ☐ 分析する力 | ☐ 構想する力 |
| ☐ 企画する力 | ☐ 判断する力 | ☐ 実行する力 |
| ☐ 人を理解する力 | ☐ 状況を理解する力 | ☐ 責任感 |
| ☐ 支援・指導する力 | ☐ チームで働く力 | ☐ 職業的スキル |
| ☐ 忍耐力 | ☐ 社会人マナー | ☐ コミュニケーション力 |
| ☐ 切磋琢磨し合える力 | ☐ その他（ ） | |

Ⅴ. 三重大学大学院の教育や修了生についてご意見・ご感想等がございましたら、下の枠内にお書きください。

※ご協力いただきましてありがとうございました。
お手数ですが、返信用封筒に入れて投函していただきますようよろしくお願いいたします。